

SUSTAINABILITY

CSR

私たちは「食を通じて社会に貢献する」という創始者の精神を受け継ぎ、事業活動にとどまらず、社会や地球環境への貢献に向けたさまざまな活動に取り組んでいます。持続可能な社会を実現するとともに、グループの持続的な成長の基盤としてCSR活動を推進します。



トップメッセージ



ガバナンス



CSRの基本的な考え方



重点課題



CSRトピックス

サステナビリティに向けての重点課題における具体的な取り組みをご紹介します。



トピックス①

健康

健康長寿を応援する取り組み



トピックス②

子どもたち

食を通じて子どもの心と体の健康を支える取り組み



トピックス③

資源

自然の恵みに感謝し、ムダのない環境づくりに貢献する取り組み





### トピックス④

#### 地球温暖化

地球温暖化防止に貢献する取り組み



## キューピーの取り組み

キューピーのCSR活動全体の取り組みについてご紹介します。



#### 安全・安心への取り組み

商品の品質保証に対する取り組みとお客様との関わりについてご案内しています。



#### 社会への取り組み

社会貢献、地域貢献、文化貢献といった、キューピーと関わる社会への取り組みをまとめています。



#### 環境への取り組み

事業活動を行うに当たっての環境配慮、地球環境保全に対する取り組みをまとめています。



#### 従業員への取り組み

ダイバーシティの取り組みから、更に働きがいを感じられる企業をめざす取り組みをまとめています。

### ステークホルダーとの対話と社外からの評価

対話と評価 >

社外からの評価 >

### CSRブログ



2020/06/05

食育

マヨネーズで楽しくお菓子づくり

こんにちは。キューピー株式会社 広報・グループコミ...



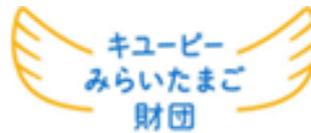
2020/06/03

お知らせ

社会

沖縄の子どもたちに、福島のお米を

こんにちは。 キューピー株式会社 那覇営業所の諸岡...



2020/06/01

社会

キューピーみらいたまご財団 緊急助成事業の募集開始  
こんにちは。公益財団法人キューピーみらいたまご財団...



2020/05/28

社会

食育

介護負担軽減の一助に  
こんにちは。 キューピー株式会社 ニュートリション...

## 更新情報

[> 一覧を見る](#)

2020/04/30

> キューピーグループ統合報告書 2020、キューピーグループ コミュニケーションブック2020をアップしました

## ニュースリリース

[> 一覧を見る](#)

2020/06/02 No.44

> 「キューピーグループ コミュニケーションブック」2020年度版を発行、公式サイトで公開中

2020/06/01 No.43

> 「キューピーみらいたまご財団」が 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う緊急助成事業の募集を開始

2020/04/08 No.37

> 中学校の技術・家庭 家庭分野 DVD教材を制作「食生活のこと、考えてみた!」

2020/04/06 No.35

> キューピー富士吉田工場の工場見学を2020年6月末に終了します

2020/02/18 No.30

> キューピーキッズ 第35回「家族でわくわくクッキング」を名古屋市で開催 ～三國シェフとキューピーの料理教室～

## CSRに関する活動



### 開示方針

当社ウェブサイトのCSR情報に関わる開示方針や対象期間・対象組織などについてご紹介しています。



### GRIスタンダード対照表

当社ウェブサイトの情報と、GRIガイドラインとの対照表をご覧いただけます。



### CSRブログ

キューピーグループの従業員より、最新情報をお知らせします。



### 各種報告書

各種報告書のダウンロードはこちらから。



### 社会・環境活動 (CSR) の歴史

キューピーのCSR活動の歴史をご紹介します。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## トップメッセージ

### 持続可能な社会の実現に貢献するとともに、 キューピーグループの持続的な成長をめざします

2019年、キューピーはその前身である食品工業株式会社の創業から数えて100年を迎えました。これまで私たちを支え、応援して下さった皆様に、厚くお礼申し上げます。

創始者の中島董一郎は、日本人の体位向上や食生活の充実など、食を通じた社会貢献を自らの志とし、その志を遂げるために数々の商品やビジネスを生み出し、事業を展開してきました。また、事業活動にとどまらず、社会や地球環境への貢献に向けたさまざまな活動にも早くから取り組み、従業員とともに長く続けてきました。

私たちは、この100年の歴史を引き継ぎ、更に広く世の中に貢献するキューピーグループでありたいと考え、めざす姿を「世界の食と健康に貢献する」としています。



創業100周年を迎えるにあたり、グループとしては初めての長期ビジョン「キューピーグループ 2030ビジョン」を策定しました。2030ビジョンは、2030年におけるグループの“ありたい姿”を表したものです。世界・お客様・社会の3つの視点から「食で多くの方々に笑顔をお届けできる存在でありたい」という想いを込めると共に、ビジョンを通してめざす姿の実現に向けた取り組みを進めていきます。

2030ビジョンの実現に向けた第1ステップである2019-2021年度中期経営計画で、当社グループの社会と環境への取り組みを定量的に測る指標として、サステナビリティ目標を設定しました。サステナビリティ目標は、それぞれ当社グループが取り組むべき社会的課題(サステナビリティに向けての重点課題)にひもづいており、社会や環境変化を捉え対応し、事業を通じた課題解決への貢献をめざすものです。

2030ビジョンの実現に向けて、業績目標とともにサステナビリティ目標のそれぞれを達成していきます。そして、次の時代の持続可能な社会の実現に貢献するとともに、キューピーグループの持続的な成長(サステナビリティ)をめざします。

キューピー株式会社  
 代表取締役 社長執行役員

**長南 収**

CSR

CSRトップ	>
トップメッセージ	>
ガバナンス	-
倫理規範	>
CSRの基本的な考え方	>
重点課題	>
CSRトピックス	+
安全・安心への取り組み	+
社会への取り組み	+
環境への取り組み	+
従業員への取り組み	+
対話と評価	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
社会・環境活動(CSR)の歴史	>

## ガバナンス



### コーポレート・ガバナンス

透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組みをご案内します。



### 倫理規範

理念に基づく倫理規範によってステークホルダーの皆様にご信頼していただける企業活動を行います。

## コーポレート・ガバナンス

### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

キユーピーグループでは、コーポレート・ガバナンスについて、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うための仕組みと定義し、「グループ規範」を遵守するとともに、次の基本方針に沿って、適切で効果的な体制の整備および充実に継続的に取り組んでいます。なお、当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な枠組みおよび考え方を「コーポレートガバナンス・ガイドライン」として定めています。

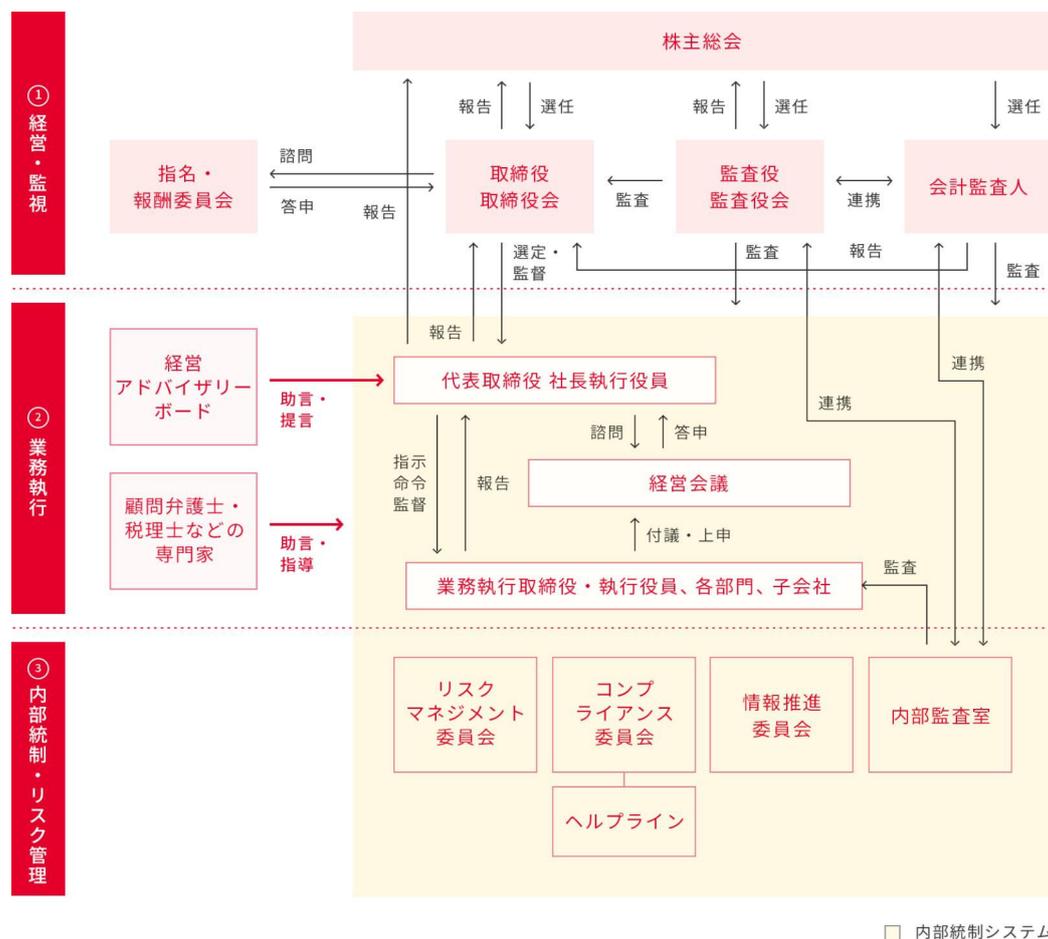
 [コーポレートガバナンス・ガイドライン \(283KB\)](#)

 [コーポレート・ガバナンスに関する報告書 \(410KB\)](#)

### コーポレート・ガバナンス体制の整備・充実にに関する基本方針

1. 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
2. お客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会等、様々なステークホルダーの立場や権利等を尊重し、適切な協働関係を構築する。
3. 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
4. コーポレート・ガバナンス体制を構成する各組織が連携する仕組みを構築する。
5. 中長期的な利益の実現を期待する株主との間で建設的な対話を行う。

# コーポレート・ガバナンス体制



## 経営・監視

概要(2020年2月28日現在)

組織形態	監査役(監査役会)設置会社
取締役の人数	11名(うち、社外取締役2名)
監査役の人数	5名(うち、社外監査役3名)
独立役員の数	5名
任意の委員会の設置状況	指名・報酬委員会
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人

## 取締役・監査役

詳細は役員一覧をご覧ください。

[役員一覧](#)

## 社外取締役および社外監査役

経営監視機能の客観性・中立性を確保するとともに、会社から独立した立場で、豊富な知識や経験を活かして経営全般に対する助言、意見をいただくため、以下の5名を選任しています。

社外取締役および社外監査役の5名は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員です。

社外役員の独立性基準については、コーポレートガバナンス・ガイドラインをご覧ください。

社外取締役	内田 和成	漆 紫穂子
監査役会出席状況	企業経営コンサルタントとしての長年の経験があり、企業経営に関する高度な専門知識および幅広い見識を有するものであり、また当社との間に特別の利害関係はなく、独立役員として適任であるため。	教育者としての豊富な経験に加え、経営者としての見識を有するものであり、また当社との間に特別の利害関係はなく、独立役員として適任であるため。
重要な兼職の状況	早稲田大学商学学術院 教授、ライオン株式会社 社外取締役	学校法人品川女子学院 理事長、教育再生実行会議(内閣府)委員、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 社外取締役、日新火災海上保険株式会社 社外取締役
取締役会出席状況	11/12回	11/12回

社外監査役	武石 恵美子	寺脇 一峰
選任理由	行政分野における経験に加え、人事制度・労働政策に関する幅広い見識を有するものであり、また当社との間に特別の利害関係はなく、独立役員として適任であるため。	法律家としての専門知識および幅広い見識を有するものであり、また当社との間に特別の利害関係はなく、独立役員として適任であるため。
重要な兼職の状況	法政大学キャリアデザイン学部 教授、東京海上日動火災保険株式会社 社外監査役	弁護士、株式会社商工組合中央金庫 社外監査役、東芝機械株式会社 社外取締役、鹿島建設株式会社 社外監査役
取締役会出席状況	11/12回	12/12回
監査役会出席状況	11/12回	12/12回

社外監査役	熊平 美香	
選任理由	海外を含む事業会社の経営経験があることに加え、企業変革やリーダーシップ開発についての知見を有するものであり、また当社との間に特別な利害関係はなく、独立役員として適任であるため。	
重要な兼職の状況	株式会社エイテックマヒラ 代表取締役、日鍛バルブ株式会社 社外取締役	
取締役会出席状況	-	
監査役会出席状況	-	

## 取締役の実効性評価

当社では、取締役会において、取締役会の実効性について第三者の視点も含めた分析・評価を行い、その結果を踏まえて取締役会の改善に取り組んでいます。

[PDF 第3回 取締役の実効性評価の概要\(312KB\)](#)

[PDF 第2回 取締役の実効性評価の概要\(324KB\)](#)

[PDF 第1回 取締役の実効性評価の概要\(321KB\)](#)

## 指名・報酬委員会

取締役会の構成や取締役などの指名、報酬のあり方などに関する客観性と妥当性および透明性を高め、ひいては当社グループの中長期的な成長と企業価値の向上につなげるため、取締役会の諮問機関として、2018年8月に設置しました。

### 構成

5名以上の委員(当社の取締役および監査役)で構成され、委員の半数以上は独立性基準を満たした社外役員と定めています。

委員の選出は、取締役会の決議によるものとし、任期は就任後最初に開催される当社の定時株主総会の終結時までになります。

委員長は、社外取締役の委員の中から、指名・報酬委員会の決議により選定しており、議長も務めています。

<委員一覧(2020年2月28日現在)>

社外取締役	内田 和成(委員長)
社外取締役	漆 紫穂子
社外取締役	寺脇 一峰
取締役会長	中島 周
代表取締役 社長執行役員	長南 収
取締役 常務執行役員	井上 伸雄

## 委員会の役割

以下の事項について審議し、必要に応じて決議を行います。

- (1) 経営組織の形態および取締役会の人員構成
- (2) 取締役、監査役および執行役員の選解任基準
- (3) 取締役および監査役の各候補者の選出
- (4) 取締役および執行役員の評価基準
- (5) 取締役および執行役員の報酬制度の基本設計
- (6) その他、当社グループの企業統治に関する事項で、指名・報酬委員会が必要と認めたもの

役員および執行役員の選解任基準、報酬の決定方針については、コーポレートガバナンス・ガイドラインをご覧ください。

[PDF コーポレートガバナンス・ガイドライン\(283KB\)](#)

## 業務執行

### 経営アドバイザリーボード

代表取締役 社長執行役員の諮問機関として設置しており、ボードミーティングには社外の有識者から構成される社外委員とオブザーバー委員(当社の社外役員)、当社の代表取締役 社長執行役員に加え、議題に応じて他の取締役などが参加しています。

当社グループの健全性、公平性、透明性を維持・向上させるための助言・提言を受け、意思決定に反映させています。なお、ボードミーティングは、定例会を年間で2回開催しているほか、必要に応じて随時開催しています。

### リスクマネジメント委員会

リスクマネジメント基本規程において当社のリスク管理を体系的に定め、個々のリスクを各担当部門が継続的に監視するとともに、全社的なリスクに関しては、リスクマネジメント委員会(委員長はリスクマネジメント担当取締役。事務局は危機管理室)で情報を共有し、そのリスクの評価、優先順位および対応策などを総括的に管理しており、その活動状況については当該担当取締役から取締役会および監査役会へ報告されています。

なお、リスクマネジメント委員会のメンバーには主要子会社の代表者が含まれているほか、子会社の経営リスクについては、各社から当社の担当取締役へ随時報告が行われています。

### コンプライアンス委員会

コンプライアンス担当取締役にコンプライアンス委員会(委員長はコンプライアンス担当取締役。事務局は内部監査室)を統括させ、これにより全社横断的なコンプライアンス体制の整備および問題点の把握に努めるとともに、同委員会を中心にコンプライアンス推進に関する企画、啓発および教育などを行います。その活動状況については当該担当取締役から取締役会および監査役会へ報告されています。

### ヘルプライン

公益通報者保護制度に対応した内部通報体制として、通報窓口の情報受領者に第三者機関や社外の弁護士を含む「ヘルプライン」を設置しています。情報受領者から報告を受けたコンプライアンス調査会が事実関係を調査し、違反行為があれば、再発防止策を担当部門と協議のうえ決定し、処分結果を含めて社内に公表するとともに、全社的に再発防止策を実施します。

### 情報推進委員会

情報セキュリティに関しては、会社情報取扱規程、個人情報保護基本規程およびそれらに関する各管理マニュアルを制定し、これらに従って情報の保存・管理を行っています。また、情報推進委員会(委員長はIT・業務改革推進担当の執行役員またはその指名を受けた者。)を中心に、情報管理に係る従業員教育や各規程などの運用状況の検証、各規程などの見直しを行っています。

### 内部監査室

自主監査などを行う品質・環境・安全・労務などの各スタッフとも連携し、当社グループの経営活動全般にわたる管理・運営の制度および業務の遂行状況について、合法性と合理性の観点から内部監査を行っています。また、財務報告に係る内部統制の有効性評価についても、代表取締役 社長執行役員の指名に基づき、その計画および実施の職責を担っています。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス -
- 倫理規範 >
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 倫理規範

キユーピーグループは、社是・社訓を基本とした理念のもと、私たちの活動を支えていただいているお客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様から、最も信頼していただけるよう私たちの姿勢を「グループ規範」として表しています。

グループ規範の心を一人ひとりの従業員が理解して誠実に遵守していくことは、企業としての一層の透明性とお客様からの信頼につながるものと考えています。

> [キユーピーの約束](#)

## 倫理規範に基づく取り組み

### 法令の遵守

企業の持続的な発展には、法令遵守はもとより、すべての役員および従業員が高い倫理感を持って事業活動を行う必要があります。また、持続的な企業運営を支えるのは従業員であることから、一人ひとりの行動の基本となる考え方をグループ内外に浸透させ、お客様からの信頼と従業員相互の自浄作用につなげることも重要です。この考えのもと、キユーピーグループはコンプライアンス推進体制を構築し、すべてのグループ従業員に徹底する取り組みを推進しています。

> [コーポレート・ガバナンス\(企業情報\)](#)

> [キユーピーグループ反贈賄基本方針制定\(企業情報\)](#)

### 人権の尊重

キユーピーグループは、従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境を実現します。従業員意識調査のアンケートを通じて、人権侵害の有無を調査する取り組みなどを進めています。また、事業展開を進める上で、さまざまな人権課題を把握し、それに配慮し適切に行動することが求められている中、サプライチェーン全体での人権の配慮にさらに取り組んでいきます。

### 人権尊重の考え方

キユーピーグループは、従業員の人権配慮に対する啓発活動に加え、食品業界に特有のグローバルな人権課題の把握に向けた取り組みを開始しました。

2017年度から、ISO26000のフレームワークを用いてキユーピー本社6部門に対して人権を含む課題の現状把握、および社会要請の共有を行いました。

さらに2018年1月には、サプライチェーン全体での人権尊重に向けて、「人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない」ことなどを定めた「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を策定し、お取引先と一緒に取り組んでいくことを表明しました。

### 従業員の人権への配慮

国内のキユーピーグループでは、人権配慮の考え方に基づき、さまざまなハラスメントに対する従業員の啓発活動や、ハラスメントの予防を目的とした管理職向け研修を実施しています。また、グループ内の不正・違反行為などコンプライアンス違反に対する通報・相談窓口「ヘルプライン」を設置しています。

海外グループ会社では各国・地域の法令の遵守、内部統制の推進、内部通報制度の整備およびグループ規範の遵守を通じた人権への配慮を進めています。

## 商品における人権配慮

キューピーは、マレーシアとインドネシアの2カ国でハラル認証を取得した商品を生産し、食の洋風化が進む現地および周辺諸国で販売を行っています。日本においても、近年増加するイスラム教徒およびイスラム圏からの訪日外国人の皆さまに安心して食べていただけるよう、「キューピー マヨネーズ ジャパニーズスタイル(ハラル認証)」を販売しています。



キューピー マヨネーズ ジャパニーズスタイル(ハラル認証)

## 公正・健全な企業活動

キューピーグループは、「良い商品は良い原料からしか生まれぬ」との考えのもと、調達先や販売先といったサプライチェーンに関わる皆さまとともに社会的責任を果たしてきました。「良い原料」に求められる条件は時代とともに変化します。私たちは、原料の品質はもとより、サプライチェーンにおける環境や人権に配慮した調達の取り組みを強化し、お取引先の皆さまとともに持続可能な社会の実現をめざしていきます。

- ▶ [原料・調達の品質](#)
- ▶ [持続可能な調達のための基本方針](#)

## 情報セキュリティの徹底

キューピーグループは、会社情報取扱規程、個人情報保護基本規程などに関する各管理マニュアルを制定し、情報推進委員会を中心に情報管理に係る従業員教育や各規程などの運用状況の検証、規程の見直しなどを行っています。

また、海外拠点においても、各国の制約やIT環境に合わせて規程の整備や従業員への周知を進めています。

- ▶ [プライバシーポリシー\(企業情報\)](#)
- ▶ [コーポレート・ガバナンス\(企業情報\)](#)

## 反社会的勢力への対応

キューピーグループは、社会の一員として社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求に対しては毅然として対応します。

グループ従業員への教育を行うとともに、警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。

また、お取引先との契約書に反社会的勢力排除に関する条項を設けています。

### 反社会的勢力排除の推進体制

反社会的勢力への対応マニュアルの作成、階層別研修やeラーニング等のコンプライアンス活動による従業員の指導・啓発、さらには必要に応じて警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。

### 契約書の反社会的勢力排除条項

キューピーグループでは、お取引先との契約書において、反社会的勢力排除に関する条項を設け、お取引先が反社会的勢力ではなく、また当該勢力との関係も有しないことを保証していただくとともに、もしそれに反することが判明した場合には直ちに契約を解除できる旨を定めています。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## CSRの基本的な考え方

私たちは、グループ理念と規範の実践を通じて、社会に貢献し続ける企業グループでありたいと考えます。「CSRの基本的な考え方」を定め、CSR活動を持続可能な社会と企業に向けた重要な活動と位置づけています。

### CSRの基本的な考え方

私たちはグループ理念と規範を遵守し、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、グループの持続的な成長の基盤として、CSR活動を推進します。

### CSRの推進体制

キューピーグループではCSR関連部門およびグループ会社からなるCSR委員会を設置し、CSR活動の方針・計画の策定や課題の進捗確認、CSR関連情報の共有などを行い、グループ横断のCSR活動を推進しています。また、経営会議や取締役会にてCSR活動の目標設定や取り組みの報告・議論を行うなど、事業との連携や活動の進化を図っていきます。



#### ● キューピーの約束

従業員一人ひとりが理解し、遵守に務めるグループ規範を掲載しています。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 重点課題

### サステナビリティに向けての重点課題

キユーピーグループでは、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的な成長をめざして、サステナビリティに向けての重点課題として以下の項目を設定しました。それぞれの重点課題の取り組みについて指標(サステナビリティ目標)を設け、実践につなげていきます。

- ・ 健康寿命延伸への貢献 
- ・ 子どもの心と体の健康支援 
- ・ 資源の有効活用と持続可能な調達 
- ・ CO<sub>2</sub>排出削減(気候変動への対応) 

上記4つのCSR課題に加え、グループの成長戦略の土台として下記を推進します。

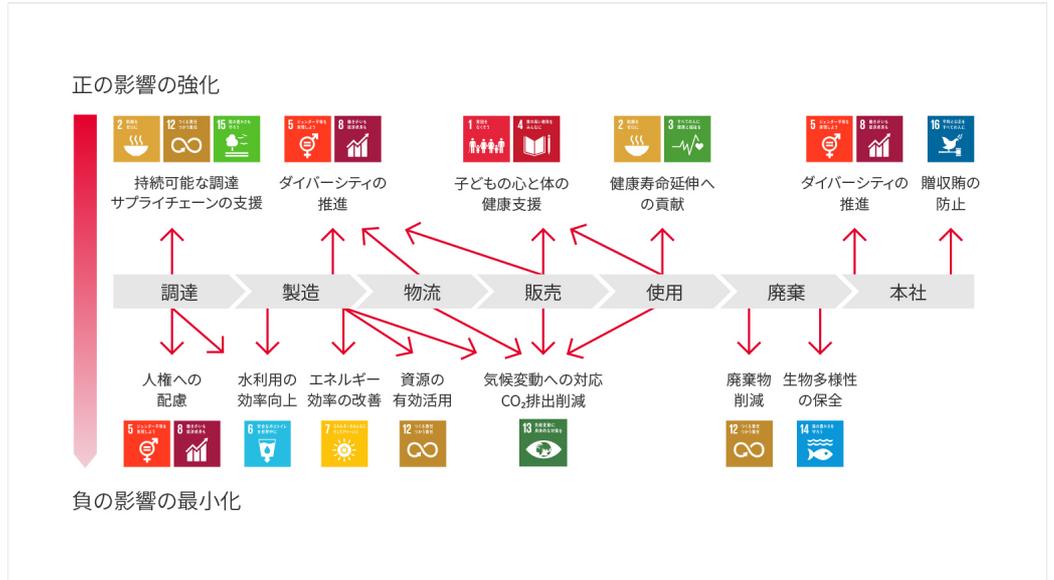
- ・ ダイバーシティの推進 

### 重点課題特定のプロセス

キユーピーグループが事業を通じて取り組むべき社会課題を、「持続可能な開発目標(SDGs<sup>※1</sup>)」を参考に、バリューチェーンにおけるリスクと機会の分析により抽出しました。

次に、それらの社会課題ごとに、ステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさを評価することで、グループが最優先で取り組むべき「サステナビリティに向けての重点課題」を特定しました。

重要性の評価においては、CSR関連の国際基準などを参考とし、グループで現在策定を進めている中長期計画の考え方を反映しています。



サステナビリティに向けての重点課題の特定



重点課題への取り組み

■ 健康寿命延伸への貢献

私たちの想い

- ・ 高齢になっても元気で過ごせる社会に貢献します

SDGsとの関連づけ



課題解決ストーリー

- ・ サラダ(野菜)と卵の栄養機能で、中高年の生活習慣病予防や高齢者の低栄養状態を改善します

## サステナビリティ目標

サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして

- ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350g<sup>※2</sup>の達成に貢献する  
※2「健康日本21」(厚生労働省)に定める成人1日当たりの野菜の平均摂取量の目標値
- ・たんぱく質の摂取に貢献するために、卵の消費量アップを推進する

具体的な活動トピックス



食と健康への貢献



## ■ 子どもの心と体の健康支援

### 私たちの想い

- ・食を通じて子どもの心と体の健康を支え、未来の活躍を応援します

### SDGsとの関連づけ



### 課題解決ストーリー

- ・サラダ(野菜)と卵を活用した食育や共食の体験の場を提供します
- ・子どもや子育て家族への食を通じた支援により、子どもと家族・社会とのコミュニケーションを応援します

### サステナビリティ目標

- ・2030年までに、グループの食育活動などで接する子どもの笑顔の数を、100万人以上にする(2019年からの累計)

具体的な活動トピックス



## ■ 資源の有効活用と持続可能な調達

### 私たちの想い

- ・自然の恵みに感謝し、地球の持続可能性に配慮します

### SDGsとの関連づけ



### 課題解決ストーリー

- ・食資源を余すことなく有効活用し、食品廃棄を削減します
- ・農業生産者との取り組みで、持続可能な農業を支援します

### サステナビリティ目標

- ・グループで利用する主要な野菜の未利用部について、2021年までに30%、2030年までに90%以上を有効活用する
- ・商品廃棄量を2021年までに25%、2030年までに50%削減する(2015年対比)

具体的な活動トピックス



## ■ CO2排出削減(気候変動への対応)

### 私たちの想い

- ・地球温暖化防止の実現に向け、CO2排出削減に取り組みます

### SDGsとの関連づけ



### 課題解決ストーリー

- ・原料調達から商品の使用・廃棄まで、サプライチェーン全体を通じたCO2排出削減を実現します

### サステナビリティ目標

- ・グループの年間のCO2排出量について、2021年までに7.5%、2030年までに20%削減する(2013年対比)

具体的な活動トピックス >

## ■ ダイバーシティの推進

- ・理念に共感するグループの一人ひとりが、互いを受容し、学びあい、持続可能な社会とグループの成長をめざします

### SDGsとの関連づけ



### サステナビリティ目標

- ・女性管理職比率を、2021年までに12%、2030年までに30%にする(キュービー単体)

ダイバーシティへの取り組み >



### ※1 持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)は、2015年に国連で採択された国際社会共通の目標です。持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべき17の目標で構成されています。

CSR

CSRトップ	>
トップメッセージ	>
ガバナンス	+
CSRの基本的な考え方	>
重点課題	>
<b>CSRトピックス</b>	<b>-</b>
トピックス①	>
トピックス②	>
トピックス③	>
トピックス④	>
安全・安心への取り組み	+
社会への取り組み	+
環境への取り組み	+
従業員への取り組み	+
対話と評価	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
社会・環境活動(CSR)の歴史	>

CSRトピックス



トピックス①  
 健康長寿を応援する取り組み



トピックス②  
 食を通じて子どもの心と体の健康を支える取り組み



トピックス③  
 自然の恵みに感謝し、ムダのない環境づくりに貢献する取り組み



トピックス④  
 地球温暖化防止に貢献する取り組み

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス -
  - トピックス① >
  - トピックス② >
  - トピックス③ >
  - トピックス④ >
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

トピックス①

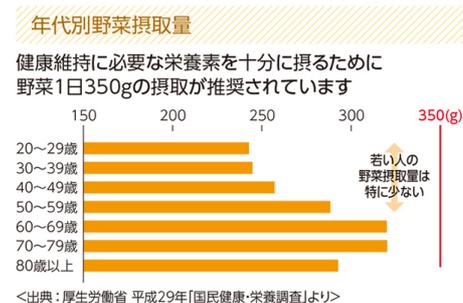
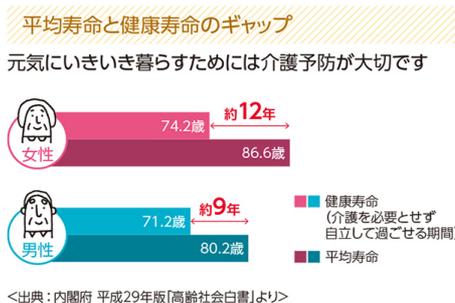
## サラダ(野菜)と卵で健康に!



### 重点課題:健康寿命延伸への貢献

#### 健康長寿は食生活から

日本人の平均寿命は世界でもトップクラス!でも、健康的に生活できる期間である「健康寿命」とのギャップは大きくなっています。健康寿命は食生活との関わりが強く、生活習慣病予防としては塩分を控え、野菜を積極的に摂取することが必要といわれていますが、実際はすべての世代で1日の野菜摂取量が足りていません。また、高齢期では低栄養により生活機能が低下しがちなので、たんぱく質やエネルギーの摂取が大切になります。



#### おいしく、無理なく、健康に

食物繊維をはじめ、ビタミン、カリウムなどのミネラルが豊富な「野菜」と、良質なたんぱく源である「卵」の摂取は栄養バランスのよい食生活に欠かせません。

私たちは、グループの事業と関わりの強い「サラダ(野菜)」と「卵」を中心としたさまざまな食の提案を通じて、毎日の食事から、おいしく無理なく続けていける健康的な食生活をサポートしています。

#### 健康寿命延伸への取り組み

“野菜”と栄養がギュッ!とつまった“卵”を組み合わせると最強コラボ!

卵からヒヨコが生まれるように、卵には人間の体にとって必要な栄養素がビタミンCと食物繊維以外はすべて含まれています。なかでも食べることでしか摂取できない必須アミノ酸がバランスよく含まれているのが特長で、野菜を組み合わせることで、理想的な栄養バランスに近づきます。また、野菜は噛む力を育てる食材です。口は健康の入り口ともいわれ、野菜の積極的な摂取は健康的な生活につながります。



キャベツの  
コールスローの **ウフ・マヨ**※

調理時間 **15分**

**【材料(2人分)】**

- ・ゆで卵 …………… 2個
- ・キャベツ …………… 2枚
- ・ハム …………… 2枚
- ・こしょう …………… 少々
- ・キューピー マヨネーズ … 大さじ3

**【作り方】**

1. キャベツはラップをかけ、レンジ(500W)で約2分加熱して冷水にさらして水気を切り、1cmの角切りにする。
2. ハムも1cmの角切りにする。
3. ①②をマヨネーズで混ぜ合わせる。
4. 器に③を広げ、縦半分に切ったゆで卵をのせ、マヨネーズで線描きし、こしょうをふる。



※ウフ・マヨ(ウフ・マヨネーズ): 「ウフ」はフランス語で卵のこと。卵とマヨネーズで「ウフ・マヨネーズ」。フランスでは定番の前菜メニューです。

[とっておきレシピはこちら](#)

「食」をテーマにした講演会

食についての正しい知識や、食の楽しさと大切さを伝えることは、私たちの重要な役割です。健康で楽しい食生活に貢献したいと考え、「食」をテーマにした講演会に講師となる社員を派遣し、食生活と健康について正しい情報を提供しています。

プログラムは全部で3つ。「野菜の魅力」をテーマにしたプログラムでは、野菜の栄養や理想的な摂取量などをDVDで観たり、毎日の生活で実践できる調理法など、参加される皆さんに関心を持っていただけるような内容にしています。参加した方からは、「1日350gの野菜摂取を意識して献立を考えます」「野菜の幅広い魅力、食卓での楽しみ方などを学ぶことができた」などの声も聞かれ、野菜の魅力が伝わっています。



年間講演回数  
**154回**  
(2018年度)

一人ひとりの食のパートナーへ!

私たちの  
想い

**植村 和之**

キューピー株式会社  
経営推進本部 食と健康推進プロジェクト

人生100年という時代に突入し、ますます健康への関心が高まっています。健康でいきいきとした生活を送るには「栄養」「運動」「社会参加」の3つをバランスよく取り入れることが大切といわれています。生活スタイルが多様化するなか、私たちは特に「栄養」に関して、「食事をおいしく楽しむこと」「栄養バランスや口から食べることの大切さ」について、それぞれの食生活にあったご提案をこれからも続けていきたいと思えます。

[重点課題](#)

CSR	
CSRトップ	>
トップメッセージ	>
ガバナンス	+
CSRの基本的な考え方	>
重点課題	>
CSRトピックス	-
トピックス①	>
トピックス②	>
トピックス③	>
トピックス④	>
安全・安心への取り組み	+
社会への取り組み	+
環境への取り組み	+
従業員への取り組み	+
対話と評価	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
社会・環境活動(CSR)の歴史	>

トピックス②

## 食を通じて子どもの心と体の健康を支える食育活動



### 重点課題：子どもの心と体の健康支援

#### 心と体の健康は食卓から

朝食の欠食や、食卓事情の問題点ともいえる6つの「こ」食※が増え、家族や友人など誰かと食事を共にする機会が少なくなっています。それにより、子どものさまざまな知識や体験の不足、人との関係性の希薄さなど、心と体の健康への影響が懸念されています。

※「こ」食：一人で食事をする「孤食」、同じ食卓に集まっても家族がそれぞれ別々のものを食べる「個食」、同じものばかり食べる「固食」、粉ものばかり食べる「粉食」、食事の量が少ない「小食」、味の濃いものを食べる「濃食」



#### 子どもたちの「生きる力」「考える力」を応援

人が集う食卓は、食事を通じて健康を支えるとともに、人と人が交流し、社会性や豊かな心を育む重要な場所となります。私たちは、子どもの心と体の健康を願い、想いを共有する団体とともに食育活動などに取り組み、子どもの「生きる力」「考える力」を育て、未来の活躍を応援しています。

#### 子どもの心と体の健康支援への取り組み

##### 笑顔と発見がいっぱいの参加型イベント！

マヨテラス(東京都調布市)は、食の楽しさと大切さを実感できる体験型施設です。そんなマヨテラスで開催されている笑顔あふれるイベントを2つ紹介します。



マヨテラス 

**3歳から6歳を対象にしたマヨソースづくりイベント**  
小さい頃からいろいろな野菜を食べて、好きになってほしい!

子どもたちは、マヨネーズを使ったいろいろなソースづくりに挑戦し、旬の野菜につけてモリモリ食べます。自分でできたという自信、「食べること=楽しい」を実感できる体験型イベントです。「野菜ってこんなにおいしかったんだ!」という子どもたちの声や、「こんなに野菜を食べているのを初めて見る」というご両親の声が聞かれます。



**ベビーフードを上手に利用した離乳食イベント**  
乳幼児をもつご家族の不安と負担を軽減し、子育てをもっと楽しんでほしい!

赤ちゃんが初めて口にする食べ物にはとても気を使います。離乳食やベビーフードに関する正しい知識を得ることで、食にまつわる不安が解消され、子どもとのコミュニケーションの時間が増えます。イベントを通じて離乳期の子どもをもつご家族同士のネットワークも生まれ、毎回好評です。



**見応えたっぷり!魅せるオープンキッチン**  
「工場は家庭の台所の延長」という考えから、工場見学のことを「オープンキッチン」と呼んでいます。小学生の社会科見学をきっかけに始まり、現在は全国5つの工場で開催しています。安全・安心な商品を作っている様子が見られるだけでなく、野菜や食についても学べ、子育て支援イベント、夏休みの自由研究イベントなども開催しており、子どもにも大人にも大人気です。



オープンキッチン 

地域が連携して進める食育活動や子どもの居場所づくりなどへの支援

キューピーグループは、想いを共有する団体の活動を広く支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献につなげていきたいという考えから「キューピーみらいたまご財団」を2017年に設立しました。

キューピーみらいたまご財団は、食育活動や子どもの居場所づくりに取り組む団体を支援したいと考えています。

子ども食堂は、食を通じて多世代と触れ合える地域のコミュニティで、その規模は急速に拡大しています。全国から子ども食堂の関係者が集まった「居場所づくりサミット」を開催し、多くの人に情報を届けるとともに、運営の課題や悩みを共有するなど、横のつながりも支援しています。



累計助成団体数

116団体

(2017~2019年度)



公益財団法人 キューピーみらいたまご財団

#### 助成先の声

##### 食育活動

珊瑚舎スコーレ 樋口様

昔から水不足に悩まされ続けてきた沖縄で、先人たちはさまざまな知恵をだして暮らしてきました。そうした暮らしを体験することは、若い世代の人たちが現代の生活を見直すきっかけになると考えて活動を続けています。自分たちで育てた野菜で地域の家庭料理や行事料理を作ったり、昔の遊び道具を作ったりしながら自然の中で一日を過ごします。助成いただいたおかげで、畑の野菜づくりや食事づくりなどの活動の幅がぐんと広がりました。



#### 食で笑顔を、明るい未来へ!

## 私たちの 想い

選考準備委員  
関川 美果



株式会社キューピーあい  
事業グループ 受託事業チーム

食には人を笑顔にする力があります。皆で食卓を囲み「おいしいね!」を共有する時。食材のルーツや食べ方を学び「そうなんだ!」と感じた時。そのような心も体も元気になれる食育活動や食を通じた居場所づくりに取り組む多くの方たちを支援したいと考えています。これまでも、全国の志ある方々からご応募いただき、団体や地域の特色を活かしたユニークな活動が実施されました。今後も、新たな食育活動が未来へはばたくことを願っています。

重点課題



CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス -
  - トピックス① >
  - トピックス② >
  - トピックス③ >**
  - トピックス④ >
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

トピックス③

捨てればゴミ、活用すれば資源



重点課題：資源の有効活用と持続可能な調達

“もったいない”日本の暮らし

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が、年間約643万トン<sup>※1</sup>あるといわれています。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量の約380万トン<sup>※2</sup>を大きく上回る量です。

※1 出典：農林水産省・環境省 平成28年度推計

※2 出典：国連世界食糧計画(WFP)「数字で見るWFP2017年」より

食品ロスの削減

生産段階において、廃棄物の削減と食品残さの有効活用に取り組んでいます。また年月表示や賞味期間延長による流通・消費段階における食品ロスの削減に取り組んでいます。

資源の有効活用への取り組み

“もったいない”を価値あるものへ

大切な原料をしっかり使い切ること、それをお客様にお届けすることを前提に、どうしても商品化できないところは、堆肥や飼料、染料の原料など新たな用途として活用しています。カット野菜の場合、商品に使用できない部分を長期保管できる乳牛用の発酵飼料として有効活用しています。これを混合した飼料を与えた乳牛は、乳量が増加することが報告されています。この取り組みは酪農家・国・地球環境のいずれにおいてもメリットがある“三方よし”の取り組みとして外部から高く評価され、資源循環に関わる賞<sup>※</sup>をいただいています。

> 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰「内閣総理大臣賞」

> 第6回食品産業もったいない大賞「農林水産省食料産業局長賞」



マヨネーズ教室で使われている野菜染めのエプロン



飼料を食べている乳牛の様子

飼料化までの道のりは想像以上に大変でした!

## 私たちの 想い



山本 暁大

株式会社グリーンメッセージ  
生産部 本社工場 原料調達課

商品に使用できない野菜の芯や外葉といった部位を細かく砕いて、脱水して・・・「私たちはいったい何を作っているんだろう?」最初の感想はそれでした。発酵に失敗し悪臭と格闘したこともありました。「もったいない」の一心で長い試行錯誤の末に、安全・安心で安定供給につながる乳牛の飼料化に成功。「こんな形の社会貢献もあるのか」と感動したのを覚えています。今後も現場で発生する未利用資源のさらなる価値を追求していきます。

重点課題



CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス -
  - トピックス① >
  - トピックス② >
  - トピックス③ >
  - トピックス④ >**
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

トピックス④

「運ぶ」「届ける」も環境に配慮



重点課題: CO<sub>2</sub>排出削減(気候変動への対応)

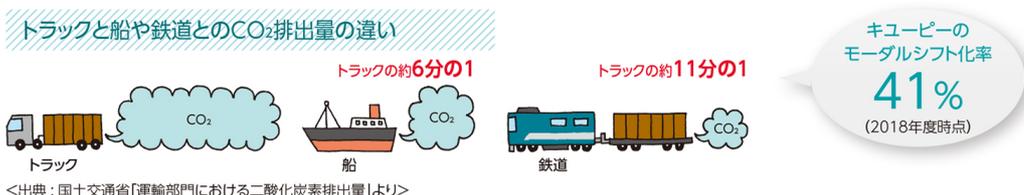
環境への負荷が大きい「人やモノの移動」

日本全体のCO<sub>2</sub>排出量の約18%<sup>※</sup>は、自動車や鉄道、航空、船などを利用した「人やモノの移動」によるものです。なかでも自動車から排出されるCO<sub>2</sub>は最も多く、貨物自動車だけでも全体の6.5%を占めています。こうした環境負荷を減らすためには、輸送の効率を高めるなど、輸送手段のエコ化が求められています。

※ 出典: 環境省 平成29年度 温室効果ガス排出量

「運ぶ」エコでCO<sub>2</sub>削減

キューピーグループの物流事業では、低燃費で安全にもつながるエコドライブをはじめ、トラックの共同利用や輸送手段をトラック輸送よりも環境負荷が少ない船や鉄道に切り替えるモーダルシフトなど、取引先やグループ会社とも連携して輸送・配送の効率化を図りCO<sub>2</sub>削減に努めています。



CO<sub>2</sub>排出削減への取り組み

異なる業界との共同輸送で環境に配慮

キューピーは、トイレタリー業界のライオン株式会社、レンタルパレット業界の日本パレットレンタル株式会社と一緒に共同輸送を実施しています。3社の荷物を載せることで、トラックが空での移動を1%未満に抑えることができました。

加えて、一部区間をトラックから船に切り替えるモーダルシフトを行うことでさらにCO<sub>2</sub>削減の効果を高めています。この取り組みは外部から高く評価され、平成30年度グリーン物流パートナーシップ会議優良事業者表彰において「国土交通大臣表彰」をいただいています。

> [平成30年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰を共同受賞](#)

子どもたちは好奇心が旺盛な反面、注意力や知識が十分ではないため、思いがけない事故にあうことがあります。物流事業のキューソーティス株式会社は安全・安心な社会づくりに貢献したいという思いから、「交通安全教室」を開催しています。触れ合いを通じて、安全に対する意識を一層高めることをめざしています。



運転席から見えない「死角」を体験

重点課題



CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
- 品質への想い >
  - 原料・調達の品質 >
  - 製造工程の品質 >
  - 容器包装の品質 >
  - 食の安全性評価 >
  - お客様相談室での対応 >
  - 商品の表示への取り組み >
  - ユニバーサルデザインへの取り組み >
  - 健康への取り組み >
  - 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 安全・安心への取り組み

健やかな生活には、安全・安心でおいしい食が欠かせません。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という信念をもっています。原料の調達から研究・開発・生産・営業・物流まで、サプライチェーンを担う従業員一人ひとりが日々の仕事の質を高めることで、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆さまの期待に応えていきます。



### 品質第一主義

私たちは、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えします。

- 品質への想い >
- 原料・調達の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様相談室での対応 >
- 商品の表示への取り組み >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 健康への取り組み >
- 海外商品への取り組み >



**品質への想い**  
 人・仕組み・技術の3つの取り組みによって品質を追求し続けています。



**原料・調達の品質**  
 品質を追求するため、原料の管理・提供元であるサプライチェーンとの取り組みを強化しています。



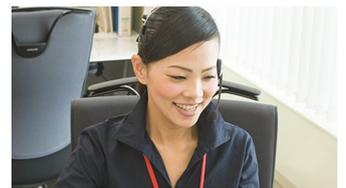
**製造工程の品質**  
 製造現場においては徹底したルール遵守と、安全のための仕組みづくりを行っています。



**容器包装の品質**  
 品質とおしさを守るため容器の改良を重ねてきました。



**食の安全性評価**  
 商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。



**お客様相談室での対応**  
 お客様からのご意見やご要望を商品やサービスの改善につなげています。



**商品の表示への取り組み**  
 食品の表示は、お客様が商品を選択する上で、また安心してお使いいただく上で必要不可欠な情報です。

## より多くのお客様に安心してご利用いただくために

キューピーグループでは、世界の食と健康に貢献していくために、障害の有無や年齢・性別などにかかわらずご利用いただける商品を心がけています。



### ユニバーサルデザインへの取り組み

できるだけ多くの方にお使いいただけるよう、ユニバーサルデザインの取り組みを行っています。



### 健康への取り組み

キューピーの商品は特定の条件をもったお客様への配慮を行っています。



### 海外商品への取り組み

海外商品では、現地の嗜好に合わせるだけでなく、商品における人権配慮も行っています。

CSRトップ >

トップメッセージ >

ガバナンス +

CSRの基本的な考え方 >

重点課題 >

CSRトピックス +

安全・安心への取り組み -

品質への想い >

原料・調達の品質 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様相談室での対応 >

商品の表示への取り組み >

ユニバーサルデザインへの取り組み >

健康への取り組み >

海外商品への取り組み >

社会への取り組み +

環境への取り組み +

従業員への取り組み +

対話と評価 +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 品質への想い

食とは、生きていくために必要な行動であるとともに、人と人との絆を深める役割も果たしています。

私たちがお届けしている商品も、その一端を担っています。

いちばん大切な方に安心して召しあがっていただける商品をお届けするために、企画から販売に至るまで全てのプロセスで品質第一主義を守り続けています。



## 品質を確かにする人づくり

品質を確かなものにするのは、人です。そこで私たちは、学びの場や発表の場を設け、品質の向上をめざしています。

### ものづくり学校

商品の製造に関わるすべての部門の担当者を対象にした学びの場「ものづくり学校 品質コース」を設けています。ものづくり学校では、商品の品質管理の入門から、高度な応用まで学んでいます。ものづくり学校を修了したメンバーが、各部署で教える側になり、知識や技術を伝えていきます。私たちの「ものづくり学校」は、核になる人を養成し、その人を中心にして仲間を増やして、グループ全体の品質を高めていくことをめざしています。

### ものづくり学校で学ぶこと

#### 安全の原理

微生物、分析など、品質の技術と知識を学びます。

#### 安心の原則

法令、自社の取り決めなど、品質のルールを理解します。

#### 安心の原点

過去の事例などに学び、品質の礎となる考え方を身につけます。



## わくわく活動合同発表会

わくわく活動とは、「お客様や従業員の笑顔へとつながる品質向上活動」のことで

す。生産部門だけでなく営業やスタッフ部門、さらには海外のチームも集まる「わくわく活動合同発表会」を開催し、他チームの取り組みをヒントとして、その学びを水平展開することで、グループ全体で品質の向上につなげています。



## 品質を裏付ける仕組みづくり

国際的な第三者の認証を取得することで、グループの品質レベルを維持・向上する仕組みを導入しています。

### 食品安全に関する第三者認証の導入

私たちは、グループ全生産拠点でGFSI認証と呼ばれる食品安全に関する国際的な第三者認証を取得しています。

外部機関の審査を定期的に受けることによって、品質保証の取り組みについて、客観的に見つけ、改善することで、継続的な品質レベルの維持・向上を実現しています。

#### GFSI認証とは

GFSI認証とは、2000年5月に設立された非営利財団 世界食品安全イニシアチブ(GFSI)が、安全な食品を提供するために構築した認証です。オランダで作られたFSSC22000、アメリカで作られたSQFも、GFSI認証の一部です。



## 品質を高める技術の追求

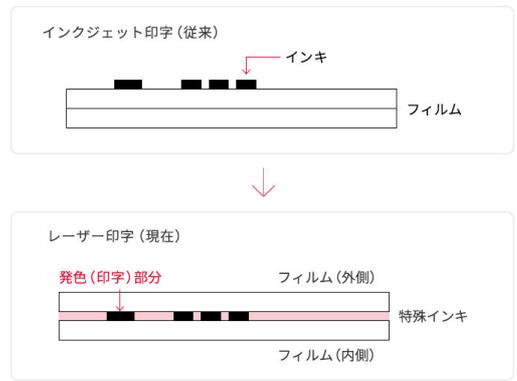
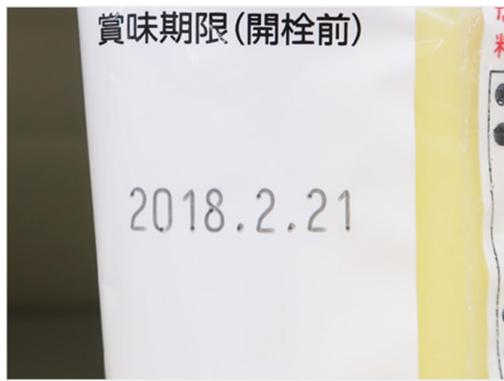
私たちは、最新の生産技術を学び、導入し、品質を高める努力をしています。

### 生産技術

#### マヨネーズの外袋の印字

マヨネーズの外袋の賞味期限は、従来はインクジェットによって印字をしていましたが、現在はレーザーを使って印字しています。

二層になっているフィルムの間に特殊なインキを塗布してあり、ここにレーザーを照射することでインキを黒色に発色させる方法です。直接印字する方法と比べて、印字部分に物が接触などしても印字が消えることがありません。



## 分析技術

食品に含まれる微生物の同定<sup>※</sup>に関する技術は、近年急速に進歩しています。

※ 微生物の種類を特定すること。

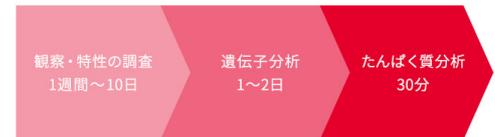
### 食品に含まれる微生物の同定

かつては微生物を食品から分離・培養した後、顕微鏡で観察し特性を調べ、1週間から10日かけて同定していました。それが、遺伝子を使った手法が登場して1～2日になり、今ではその微生物に特徴的なたんぱく質を調べることで30分に短縮できています。

私たちはこうした技術の変化に対して、有効なものは積極的に導入するとともに、外部の機関と共同で新技術構築にも取り組んでいます。



### 微生物同定の進歩



CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
- 品質への想い >
- 原料・調達の品質 >**
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様相談室での対応 >
- 商品の表示への取り組み >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 健康への取り組み >
- 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 原料・調達の品質

キユーピーグループは、原料の調達から商品の製造、容器包装、販売、安全性の評価まで、サプライチェーンの全段階で品質第一主義を徹底しています。

その根底にあるのが、創業からこだわり続けてきた、「良い商品をお届けする」という想いです。すべてのプロセスにおいて、自社およびグループ会社が直接関わることで、品質への責任を自身がしっかりと持つことを基本姿勢としています。



### 良い商品は良い原料からしか生まれない

「良い商品は良い原料からしか生まれない」というキユーピー創始者である中島董一郎の想いを大切にしています。私たちの基本的な考え方は、ここにあります。

良い原料を入手するために大切にしていることが、生産者や調達先の訪問です。

調達先には専門の担当者が定期訪問し、ものづくりの基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。

新規のお取引の場合にはまず訪問して私たちの品質への想い、考え方をお伝えし、製造環境なども確認します。

異物混入を防ぐ手立ては実施されているか、良い原料を供給できるかを確認し、信頼でき、一緒に取り組むことができる調達先とお取引しています。



#### サプライチェーンへの取り組み

キユーピーグループにとって、原料や資材を提供いただく調達先の皆さまや、商品を販売いただく販売先の皆さまは大切なパートナーです。お取引先と適切なコミュニケーションを図ることで信頼関係を築き、相互理解のもと一層の改善活動に取り組むことで、ともに成長できる関係をめざしています。

倫理規範を実践することで、ステークホルダーとの公正・健全な関係構築に努めています。



サプライチェーンへの取り組み >

持続可能な調達のための基本方針 >

## マヨネーズの原料

---

赤い網目と赤いキャップでお馴染みのキューピー マヨネーズの主要原料は卵黄、植物油、酢。

### 卵

---

卵で特に大切なのが鮮度。新鮮な卵でなければ割卵機で卵黄と卵白をきれいに分けられないからです。そこで、卵が工場についたらすぐに鮮度チェックを行い、基準に適合していることを確認しています。卵は傷みやすく衛生的に管理する必要があります。自分たちで責任を持って扱うため、割卵は、私たちのグループ会社で行っています。



卵の鮮度チェック

### 植物油

---

キューピー マヨネーズには、菜種油や大豆油などを使っており、その精製工程は調達先と細かいところまで確認合っています。こうして設けた「キューピースペック」と呼ばれる独自の基準は、安全でおいしい商品づくりを支えています。また、「事前サンプル制度」という仕組みは、調達先からあらかじめサンプルを取り寄せ、検査を行って、合格した原料だけを受け入れるものです。さらにその合格した植物油は、私たちのグループの車両で調達先まで受け取りに行っています。植物油の基準づくり、製造、品質確認、輸送まで、すべてに私たちは関わっています。



事前サンプル制度で届けられた植物油の品質をチェック



輸送した植物油の受取。輸送担当者と工場の担当者が確認しながら行う

かつて、日本で製造されている酢は米などを原料にした和風の酢が主体で、洋風調味料であるマヨネーズに合う酢の入手は困難でした。そこで私たちは、1962年に専門会社を作りました。マヨネーズに使っているのは、リンゴ果汁やモルトなどを原料にして作った専用酢。野菜やパンだけでなく、ご飯や和食などにもよく合うようにしています。



マヨネーズ専用酢を作っているキューピー醸造株式会社



発酵タンク

## ベビーフードの原料

### ベビーフードは品質の集大成

ベビーフードは、赤ちゃんが食べるもの。だから、私たちが使用する原料には公的基準に加えて、ベビーフード協議会の自主規格をもとにしたキューピー独自の基準も設定しています。

産地や調達先を直接訪問してベビーフードに使う原料であることを伝え、品質を確認し合っています。たとえば、私たちの原料検査で気になることがあれば、それを持って調達先を訪問し、対応について一緒に考えます。

ベビーフードには着色料、保存料、香料は使っていません。安全かどうかという尺度ではありません。赤ちゃんの食はどうあるべきかを考えたとき、素材を大切にすべきと思うからです。



[> 心を込めて、一つ、ひとつ。\(ベビーフード紹介サイト\) !\[\]\(8e37412c39fd92b0debf991c5429a292\_img.jpg\)](#)

### 異物探知機と人で原料を確認

農産物等の原料は、その状態、特性に応じて、X線を使った異物探知機や目視検査で確認しています。特に大切にしているのが、目で見て、匂いをかいで、手の感覚を働かせての選別です。

たとえば、家庭で使っている米には、割れたもの、一部が黒ずんだものも含まれています。でも、それがベビーフードに含まれていると、子育て中の皆さんは心配になってしまいます。そこで、米粒も人が確認し、こうしたものを取り除いて使っています。にんじんは小さく角切りにされたものが入荷されてきます。これも確認し、変色したもの、大きなものなどを人の手で除去しています。



CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
  - 品質への想い >
  - 原料・調達の品質 >**
  - 製造工程の品質 >
  - 容器包装の品質 >
  - 食の安全性評価 >
  - お客様相談室での対応 >
  - 商品の表示への取り組み >
  - ユニバーサルデザインへの取り組み >
  - 健康への取り組み >
  - 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## サプライチェーンへの取り組み

キユーピーグループにとって、原料や資材を提供いただく調達先の皆さまや、商品を販売いただく販売先の皆さまは大切なパートナーです。お取引先と適切なコミュニケーションを図ることで信頼関係を築き、相互理解のもと一層の改善活動に取り組むことで、ともに成長できる関係をめざしています。

倫理規範を実践することで、ステークホルダーとの公正・健全な関係構築に努めています。

### 原料・資材メーカーとの協働

キユーピーグループでは、調達先である原料・資材メーカーへ専門の担当者が定期訪問し、ものづくりの基本的な考え方を共有しながら、さまざまな課題の解決に向けた取り組みを進めています。

### 段ボール・紙器メーカーとの協働

キユーピーでは、環境保全や人権配慮の視点から段ボール・紙器メーカーとの協働で、適切に管理された森林木材を使用したFSC認証材の導入を進めています。現在、段ボールの約60%はFSC認証紙を使用しており、今後はカートンなどへのFSC認証表示導入を検討していきます。

### 鶏卵生産者との協働

キユーピータマゴでは、各地の養鶏会社訪問を通じて生産者の生の声を聴くと同時に、私たちの商品をご使用いただいているユーザーの声を伝え、相互の成長・発展につながる協働体制の構築に努めています。これにより、鶏卵の食卓への登場場面を増やし、需要拡大・業界の発展を担っていきたいと考えています。

### 生産農家との協働

良質な野菜原料を安定して調達するためには、地域農業の振興が重要になります。一方で、天候不順、後継者不足、耕作放棄地の拡大など、社会的な問題が顕在化しています。キユーピーグループは、全国の生産農家との協働によって、これらの問題の解決に貢献していきます。

#### 農業を基盤とした地域振興

キユーピーは、2017年より茨城県つくば市にある有限会社ワールドファームと提携し、全国の耕作放棄地を畑に再生する取り組みを進めています。現在、茨城県つくば市、石川県能登町、秋田県横手市などの契約産地から新鮮なキャベツが、グループ会社の製造するカット野菜などの原料の一部として供給されています。産地開発による安定的な原料調達だけでなく、農業の担い手となる若者が集まり地域が一体となった農業振興への貢献につなげていきたいと考えています。



耕作放棄地を再生し農業の担い手となる若者たち  
 (茨城県つくば市)

## サラダクラブによる産地表彰式

サラダクラブで取り扱う野菜は、生産者との顔が見える関係を基本に、全国約400の契約産地との「契約取引」で調達しています。「契約取引」は、一定価格で安定した原料調達が行えるだけでなく、生産者にとっては、安定的な収入を基盤に戦略的投資が行えるというメリットがあります。

2019年4月には、生産者の皆さまに感謝の想いを伝えることを目的に、「産地表彰式」を開催しました。今後も、産地との密なコミュニケーションを生かした独自の商品開発など、魅力ある商品づくりに努めます。



産地表彰式「Grower of Salad club 2019」の様子

## アヲハタによる果実生産者との取り組み

アヲハタグループの原料産地は、時代とともに世界各地に広がっています。安全でおいしい原料を調達するため、国内外の原料産地に技術者が出向き、育苗・栽培から一次加工までの勉強会や技術交流を行っています。2011年には、高品質な原料の安定確保に向けて「ウイルスフリー苺」の開発・供給を開始し、農家の反収増加と産地安定化に寄与しています。

## 持続可能なパーム油の調達への取り組み

パーム油は熱帯地域で栽培されるアブラヤシから得られる植物油ですが、その農場を開発するための熱帯林の大規模な伐採や、農場労働者の人権などで課題があることが指摘されています。

こうした問題がある原料を使わないようにするために、また課題の解決に貢献するために、キユーピーグループは、2018年1月に策定した「キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針」にもとづき、2018年7月、RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に加盟し、今後、弊社グループの持続可能なパーム油の調達に取り組んでまいります。

### 取り組みについて

2019年にキユーピーグループで調達するパーム油の一部についてRSPOの「ブックアンドクレーム方式<sup>※</sup>」による認証クレジットの購入を開始しました。今後2021年までにキユーピーグループで調達するすべてのパーム油について認証クレジットの購入を完了させ、その後、認証油の調達へと順次取り組みを検討して参ります。

※ブックアンドクレーム方式

RSPOにより認証された生産者が生産した認証油に、認証クレジット(証券)を発行。  
その認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組み。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
  - 品質への想い >
  - 原料・調達の品質 >**
  - 製造工程の品質 >
  - 容器包装の品質 >
  - 食の安全性評価 >
  - お客様相談室での対応 >
  - 商品の表示への取り組み >
  - ユニバーサルデザインへの取り組み >
  - 健康への取り組み >
  - 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 持続可能な調達のための基本方針

### キユーピーグループの持続可能な調達のための基本方針

#### 基本方針の策定にあたって

キユーピーグループは、「良い商品は、良い原料からしか生まれられない」という原料に対する強いこだわりをもち、お客様に安全で安心していただける商品づくりに努めてきました。しかし、今や商品の安全性だけでなく、環境や人権に与える影響にも配慮することが良い原料の条件であり、お客様の安心の要素となってきています。こうしたより良い原料を安定的に調達するためには、お取引先と一緒に取り組んでいく必要があります。そして、このことがお取引先と私たちの持続可能性を高め、お客様に良い商品をお届けし続けることにつながると考えます。

#### 基本方針

- 1 法令を遵守し、国際的なルール・慣行にも配慮した取引を行うとともに、腐敗行為の防止を徹底する。
- 2 公正で誠実な取引を行うとともに、機密情報や知的財産を適切に管理する。
- 3 人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない。
- 4 従業員の労働者としての権利を尊重し、適切な労働慣行と安全で衛生的な職場環境を確保する。
- 5 地域と地球環境の汚染と破壊を防止するため、資源の持続可能な利用に努める。
- 6 安全で高品質な原料を持続的に利用できるように、生態系への影響も考慮した管理を行う。
- 7 原料を生産する地域社会が持続可能になるよう、積極的に貢献する。
- 8 上記に関して、自社のお取引先にも同様の配慮をお願いする。
- 9 上記に関して、適時・適切な情報開示を行う。

#### 具体的な取り組み



#### ● サプライチェーンへの取り組み

品質を追求するため、原料の管理・提供元であるサプライチェーンとの取り組みを強化しています。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
- 品質への想い >
- 原料・調達の品質 >
- 製造工程の品質 >**
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様相談室での対応 >
- 商品の表示への取り組み >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 健康への取り組み >
- 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 製造工程の品質

私たちの工場では、エリアごとに靴を履き替えます。製造現場に入るときには必ず手を洗いなおします。加熱作業では毎回必ず温度を確認し、記録を残し続けています。

一見、地味で非効率的にすら思えるかもしれませんが、こうした品質を守るために欠かせない作業が「面倒」に思えてしまうとき、人的ミスが発生します。それを防ぐために、私たちは「なぜその作業が必要か？」を考え、一つひとつの作業の意味を正しく理解するようにしています。



## ルールの徹底とミス防止の仕組み

私たちの工場では、作業員からの異物混入を防ぐため、決められた服装にし、決められた手順で製造現場に入る規定があります。また、意図的な異物混入を防ぐフードディフェンスの仕組みを導入しています。原料の配合工程においても、独自の仕組みを利用し、配合事故未然防止を徹底しています。

### 意図的な異物混入防止の方針

1. 製造現場内には決められた者しか入れない
2. 意図的な悪戯をさせない
3. 問題ないことを後から証明できる

+従業員との対話を大切に

安全な商品を作るためのルール >



### 配合事故の未然防止

私たちの工場では、働く人のミスと不安をなくし、品質を守るため、自社開発で「配合事故未然防止システム」を構築しました。原料の入荷や計量、配合などの各工程において、二次元コードを読み込むことで、その都度原料の種類や使用量、賞味期限などについて照合と記録を行うことができる仕組みです。

さらに、この記録をたどることで、「その商品に使った原料は何か」「同じ原料を使った商品は何か」などを特定することができます。私たちのトレーサビリティシステムの根幹にあるのが、この「配合事故未然防止システム」です。



# マヨネーズの製造品質

おいしくて、安全で安心なマヨネーズをお届けするため、細部にまでこだわってマヨネーズを作っています。この根底にあるのが、1925年の発売以来こだわり続けてきた「良い商品をお届けする」という想いです。

## マヨネーズの製造工程



### 1 割卵

キュービー独自の割卵機で1分間に600個の卵を割り、卵黄と卵白に分けます。卵を衛生的に扱うために、定期的に割卵機を止めて洗っています。卵黄は61°C×3.5分以上の条件で加熱殺菌します。乳化力などの卵黄の機能は保持したまま、サルモネラ、鳥インフルエンザウイルスについては安心な状態になります。



### 2 調合

マヨネーズの大敵は酸素。酸化しないように、真空状態で乳化します。油の粒は1000分の2~4mm。手作りよりもキュービー マヨネーズがまろやかな風味なのは、この油の粒が細かくて、均質だからです。



### 3 ボトルの口部をカット

マヨネーズのボトルは、密封状態で入荷され、充てんの直前に逆さにして口部をカットします。切りくずが内部に入らないようにするためです。口部をカットしたらキャップ締めまで製造ラインに覆いをし、異物が混入しないようにしています。



### 4 充てん

マヨネーズをろ過した後、ボトルに充てんします。



### 5 キャップじめ・印字

マヨネーズを充てんしたらすぐにキャップをします。このとき口部の空気を窒素で置換し酸化を防止しています。その後キャップに賞味期限と、充てん時刻を意味する記号を印字します。これにより製造年月日と充てん時刻がわかり、その商品を作ったときの製造状況などを調べることができます。



### 6 包装・箱詰め

できあがった商品を袋に入れ、箱に詰めます。このとき重量を量り、決められた量が充てんされているか、箱には決められた本数が入っているか、全数確認します。



### 7 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

## ベビーフードの製造品質

発売以来「品質第一」を信条とし、ベビーフードの品質を守っています。大切にしているのは、赤ちゃんを育てている皆さんの気持ちになること。ベビーフード作りで培ったノウハウが、他の商品作りにも活かされています。

### レトルトパウチタイプの製造工程一例



#### 1 選別

注意深く見て、原料を選別します。



#### 2 調理

大きな釜に原料を入れて調理します。おいしく仕上げるために、かき混ぜ方などにひと工夫しています。



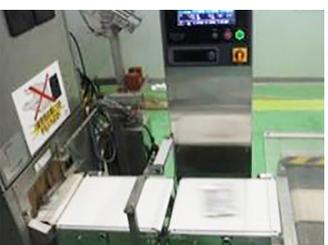
#### 3 金属異物確認

調理したものの中に金属異物が含まれていないことを確認するため、強力なマグネットを使用します。



#### 4 充てん密封

袋の中に一定量を充てんします。直後に袋の上部を熱を使って接着し、異物などが内部に入らないようにします。



#### 5 重量確認

定められた重量が充てんされていることを0.1g単位で全数確認します。



#### 6 加熱殺菌

レトルトパウチの場合、120℃、4分相当以上の加熱殺菌をします。そのため、保存料などは不要です。



## 7 異物確認

X線を使って内部を透過撮影し、異物が入っていないか、全数確認します。



## 8 密封検査包装

密封されていることを全数確認し、包装します。



## 9 最終検査

風味・状態などを最終チェックし、問題ないことを確認します。



## 10 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

CSR

CSRトップ >

トップメッセージ >

ガバナンス +

CSRの基本的な考え方 >

重点課題 >

CSRトピックス +

安全・安心への取り組み -

└ 品質への想い >

└ 原料・調達品質 >

└ 製造工程品質 >

└ 容器包装品質 >

└ 食の安全性評価 >

└ お客様相談室での対応 >

└ 商品の表示への取り組み >

└ ユニバーサルデザインへの取り組み >

└ 健康への取り組み >

└ 海外商品への取り組み >

社会への取り組み +

環境への取り組み +

従業員への取り組み +

対話と評価 +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 安全な商品を作るためのルール

安全・安心な商品を製造するため、工場では、服装・入室に関するルールだけでなく、意図的な異物混入を防ぐ対策もしています。

### 服装規定

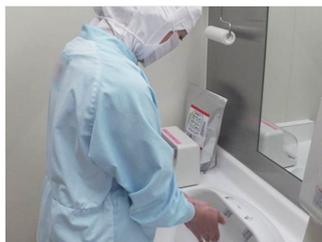
製造現場に入るときは、必ず決められた清潔な作業服に着替えます。帽子は二重になっていて、裾は作業服の中に入っています。作業服の袖部分、胴部分、裾部分にはそれぞれ二重に絞りを設けているので、万が一、毛髪が落ちても作業服内に留まります。



### 入室規定



1. 粘着ローラーで頭から足元まで40秒以上かけて毛髪などを取り除きます。



2. 30秒以上手を洗い、乾燥します。



3. アルコール消毒をします。



4. 空気のシャワーでほこりなどを吹き飛ばしてから、製造現場に入室します。

## フードディフェンス

私たちは以下の基本方針に基づいて、意図的な異物混入を防ぐ対策をとっています。

1. 製造現場内には決められた者しか入れない
  2. 意図的な悪戯をさせない
  3. 問題ないことを後から証明できる
- + 従業員との対話を大切に

### 意図的な異物混入防止対策 一例



1. 製造現場への入室管理  
静脈認証や暗証番号などで管理し、関係者以外は入室できないようになっています。



2. 薬品庫、屋外タンクの鍵管理  
社員証がなければキーボックスを開錠できません。さらに、鍵は誰がいつ持ち出し、いつ返却したかも記録されます。



3. 安心カメラ  
万が一の不測の事態の際に、当時の製造状況を確認し、安全・安心が証明できるようにしています。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
- 品質への想い >
- 原料・調達の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >**
- 食の安全性評価 >
- お客様相談室での対応 >
- 商品の表示への取り組み >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 健康への取り組み >
- 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 容器包装の品質

食品の容器包装は、時には何カ月も内容物を守り、品質を保持するという大切な役割を果たしています。同時に、使いやすさも容器包装の重要な要素です。

内容物の配合や特性に加え、輸送や店頭での陳列、ご家庭での使用場面などを想定して容器の設計を行います。設計通りに作られているか、実際の使い勝手に問題ないかなど、さまざまな方法で容器の品質を確認しています。

また、機能的評価や安全性評価は容器包装メーカーと連携しながら、課題解決と品質の維持向上に努めています。



マヨネーズのキャップの開けやすさの評価

## 品質評価

私たちは容器として必要な要件や、お使いいただく過程で想定されるリスクを洗い出し、一つひとつ確認します。

### おいしさを守る



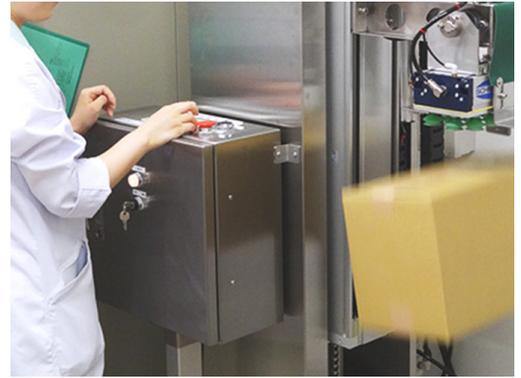
容器の肉厚を精密に測り、品質を守るために必要な厚みがあるか、部位ごとの厚みのばらつきは問題ないかなどを評価します。



赤い浸透液を使って微細なシール不良がないかなど、「容器の密封性が保たれているか」を評価します。



上から圧力を加え、どの程度の荷重に耐えられるかなどを評価します。



流通での荷扱いや店頭での陳列を想定した高さから商品を落下させ、変形や破損がないかなどを評価します。

### 安全に快適にお使いいただく



マヨネーズのアルミシールの開封しやすさを評価します。



ドレッシングのプルリングを引っ張り、同様に、開封しやすさを評価します。

### マヨネーズの酸化防止

酸素はマヨネーズの植物油を酸化させ、風味を劣化させてしまいます。キュービー マヨネーズでは酸化を防ぐために、容器包装にもさまざまな工夫をしています。



口部はアルミシールで酸素を遮断しています(1988年から)。



ポリエチレン層の間に酸素を通しにくい層を挟み込み、酸素を遮断しています(1972年から)。さらにキュービーハーフでは酸素吸収層も挟み込んでいます(2005年から)。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
  - 品質への想い >
  - 原料・調達の品質 >
  - 製造工程の品質 >
  - 容器包装の品質 >
  - 食の安全性評価 >
  - お客様相談室での対応 >
  - 商品の表示への取り組み >
  - ユニバーサルデザインへの取り組み >
  - 健康への取り組み >
  - 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 食の安全性評価

キューピーグループには、科学的データに基づいて食の安全を支える「食品安全科学センター」という部門があります。

お客様に安全・安心な商品をお届けするために、各工場の品質保証部門と連携し、日々商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。また、食の安全に関する情報を集め、審議、評価を行って、リスク低減にも努めています。



## 理化学的評価

### 化学的有害物質の分析

原料や商品の安全性を確認するために、残留農薬や動物用医薬などの定期検査を行っています。使用する機器は、ガスクロマトグラフ質量分析計や液体クロマトグラフ質量分析計などの最新の分析機器です。



1.成分の抽出・調製



2.分析機器による測定



3.分析結果の解析

### 食物アレルギー検査

ベビーフードなどの商品は、国で定められた方法で定期的検査を行い、商品に表示していない特定原材料(アレルギー)が混入していないことを確認しています。



1.サンプルの分注



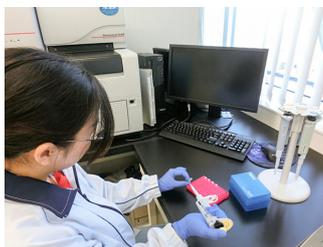
2.サンプルの測定

## 微生物学的評価

マヨネーズは保存料などは使わず、食塩と酢の力で日持ちさせています。また、加熱殺菌して日持ちさせている商品もあります。原料にはどのような微生物がいるかを評価し、どのような配合にすれば安全か、どのくらいの温度と時間で加熱殺菌すれば良いか、などを調べます。常に最新の情報を確認しながら新規技術開発にも取り組み、より迅速な検査ができるようにしています。



1.一般的な微生物検査



2.遺伝子検査



3.それぞれに特有なたんぱく質検出による微生物同定<sup>※</sup>

<sup>※</sup> 微生物の種類を特定すること。

## 放射性物質検査

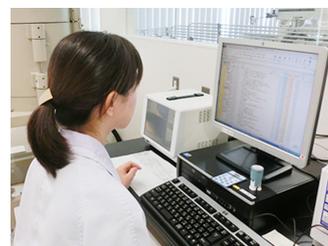
私たちの商品には、原料の産地を確認するなどの徹底した管理体制のもと、安全性が確保された原料を使用しています。さらに、私たちは、ゲルマニウム半導体検出器やNaIスペクトロサーベイメータを用い、放射性物質を定期的にモニタリング検査を実施して、問題ないことを確認しています。また、行政などの情報も随時確認することで、お客様に安全な商品をお届けしています。



1.サンプルの調製



2.ゲルマニウム半導体検出器にセッティング



3.データ解析

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
- 品質への想い >
- 原料・調達の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様相談室での対応 >
- 商品の表示への取り組み >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 健康への取り組み >
- 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## お客様相談室での対応

お客様からのご意見やご要望はとても貴重です。お客様相談室ではそうしたご意見に迅速に、的確に、そして誠意を持って対応することをめざし、一人ひとりのお客様にご満足いただけるよう心がけています。

さらに、ご意見の内容を把握して社内で共有し、商品やサービスの改善を推進していくこともお客様相談室の役割です。

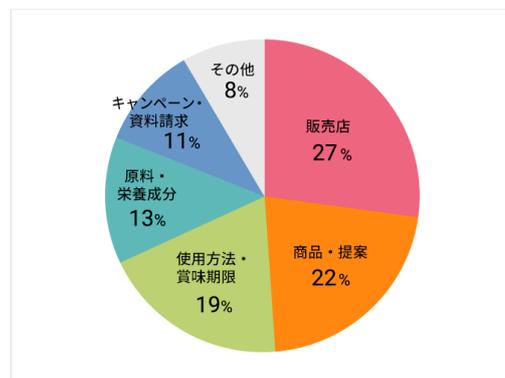
## お客様の声を活かす仕組み

### お客様相談室におけるお問合せ・ご指摘数の推移

お問い合わせ・ご指摘数の推移



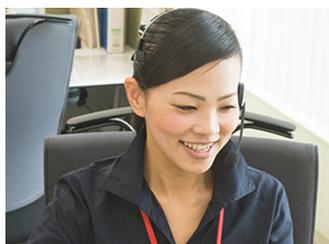
2019年度 お問い合わせ内容



※ 2017年度の深煎りごまドレッシング 自主回収実施件数は除く

### お客様の声の活用

お客様からは、商品の見直しなどの参考になるご指摘、ご要望を日々いただいています。そうしたお申し出を社内で共有し、商品やサービスの改善に繋げています。



#### 1 お客様の声のデータベース化

お客様からいただいたお申し出を、その内容により、「お問い合わせ」と「ご指摘」に区分けし、データベース化します。



#### 2 全件の聴き取り・分析

ご意見を全件聴き取り、その内容を分析し、関連部門に情報を共有します。改善の必要な内容を議案として提出します。



### 3 お客様の声委員会で審議

定期的に開催される「お客様の声委員会」は、品質保証本部長を委員長として、お客様相談室をはじめ、商品開発、研究開発、営業、生産、広報などの各部門の責任者が参加して開催される会議です。ここで改善に必要な案件を審議決裁します。



### 4 開発部門で検討

改善を行う商品について、さまざまな角度から方向性や設計などを研究開発部門・商品開発部門で検討します。



### 5 研究部門で試作

専門家や容器メーカー様などの協力のもと、試作・テストを繰り返し、商品づくりを進めます。進捗は都度「お客様の声委員会」に報告し、お客様のご意見と照らし合わせながら内容を確認します。



### 6 商品化

商品の使いやすさや表示のわかりやすさなど厳しいチェックを経て、お客様の声を活かした新しい商品が完成します。

## お客様の声に関する情報



### お客様相談室 □

お客様相談室では、過去のお問い合わせをQ&Aとしてまとめたり、問い合わせ状況の掲載を行っています。



### お客様の声から生まれた商品 □

キューピー エッグケアは卵アレルギーに関するお問い合わせがもととなって開発されました。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
  - 品質への想い >
  - 原料・調達の品質 >
  - 製造工程の品質 >
  - 容器包装の品質 >
  - 食の安全性評価 >
  - お客様相談室での対応 >
  - 商品の表示への取り組み >**
  - ユニバーサルデザインへの取り組み >
  - 健康への取り組み >
  - 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 商品の表示への取り組み

食品の表示は、お客様が商品を選択し、安心してお使いいただく上で、なくてはならない情報です。その中には、法令で義務付けられている義務表示と、任意表示の2種類があります。



### 義務表示

義務表示については、法令に則った間違いのない表示にするため、食品法令に関する専門部署を設けています。

### 任意表示

法令による任意表示と、お客様によりわかりやすい情報を提供するために、私たちが独自に表示しているものがあります。

## 表示の見方

商品ごとの各表示の掲載項目についてご紹介します。



マヨネーズの表示の見方



ベビーフードの表示の見方



ドレッシングの表示の見方

CSR

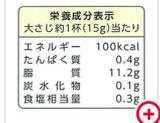
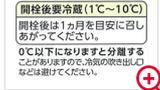
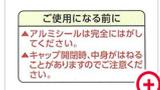
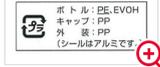
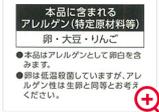
- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
  - 品質への想い >
  - 原料・調達の品質 >
  - 製造工程の品質 >
  - 容器包装の品質 >
  - 食の安全性評価 >
  - お客様相談室での対応 >
  - 商品の表示への取り組み >
  - ユニバーサルデザインへの取り組み >
  - 健康への取り組み >
  - 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## マヨネーズの表示の見方

### マヨネーズの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ 2015年に施行された食品表示法に基づく表示についてご紹介しています。現在販売している商品は、食品表示法に基づく表示と、旧表示が混在しています。ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

	実際の商品	裏面表示
		
栄養成分表示		
賞味期限		
ご使用中の注意事項		
ご使用になる前に		
		
リサイクル表示		
JASマーク		
公正マーク		
		
		
		
		
		

ベビーフードの表示の見方 >

ドレッシングの表示の見方 >

CSR

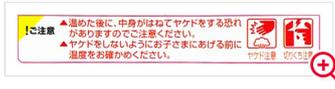
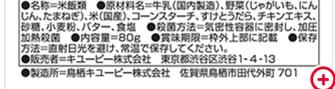
- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
  - 品質への想い >
  - 原料・調達の品質 >
  - 製造工程の品質 >
  - 容器包装の品質 >
  - 食の安全性評価 >
  - お客様相談室での対応 >
  - 商品の表示への取り組み >**
  - ユニバーサルデザインへの取り組み >
  - 健康への取り組み >
  - 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## ベビーフードの表示の見方

### ベビーフードの表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧ください。

※2015年に施行された食品表示法に基づく表示についてご紹介しています。現在販売している商品は、食品表示法に基づく表示と、旧表示が混在しています。ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

実際の商品	表面表示
	<p>アレルギーアイコン</p>  <p>対象月齢</p> 
	<p>裏面表示</p> <p>賞味期限</p> <p>20□□.3.1</p> <p>賞味期限</p>  <p>召しあがり方</p>  <p>ご使用中の注意事項</p>  <p>一括表示</p>  <p>栄養成分表示</p>  <p>ご使用中の注意事項</p>  <p>リサイクル表示</p> <p>お客様相談室のフリーダイヤル</p>  <p>乳児用規格適用食品</p>  <p>WFP</p>

[マヨネーズの表示の見方 >](#)

[ドレッシングの表示の見方 >](#)

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
  - 品質への想い >
  - 原料・調達の品質 >
  - 製造工程の品質 >
  - 容器包装の品質 >
  - 食の安全性評価 >
  - お客様相談室での対応 >
  - 商品の表示への取り組み >
  - ユニバーサルデザインへの取り組み >
  - 健康への取り組み >
  - 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## ドレッシングの表示の見方

### ドレッシングの裏面表示

裏面の各部を選択すると、拡大画像および各部の説明をご覧いただけます。

※ 2015年に施行された食品表示法に基づく表示についてご紹介しています。現在販売している商品は、食品表示法に基づく表示と、旧表示が混在しています。ご不明な点は、お客様相談室までお問い合わせください。

実際の商品	裏面表示
	<p>中栓の開け方</p> 
	<p>ドレッシングの振り方</p> 
	<p>中栓の分別方法</p> 
	<p>賞味期限</p> <p>賞味期限 2020.3.1</p>
	<p>ご使用中の注意事項</p> 
	<p>リサイクル表示</p> 
	<p>一括表示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●名称=乳化液状ドレッシング</li> <li>●原材料名=食用植物油(国内産)・しょう油・砂糖・醤油・ごま・しんじょうエキス・食塩・卵黄/香辛料抽出物・調味料(アミノ酸)・増粘剤(キサンタンガム)・甘味料(スクラール)。(一部に卵・小麦・大豆・りんごを含む)</li> <li>●内容量=180g</li> <li>●賞味期限=中央・下部に記載</li> <li>●製造者=キューピー株式会社 東京都渋谷区渋谷1-4-13</li> <li>●製造所=兵庫県神戸市東灘区深江浜町2</li> </ul>
<p>栄養成分表示</p> <p>栄養成分表示 大豆(油)15g/当たり エネルギー320kJ/100kcalたんぱく質0.5g/100g 脂質5.4g/炭水化物2.1g/食塩相当量0</p>	
<p>その他</p> <p>お伝えしたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●上部と下部に分離が見られる事がありますが、品質上問題ありません</li> </ul>	
<p>アレルギー</p> <p>アレルギー(特定原材料等) 卵・小麦・ごま・大豆・りんご</p> <p>●本品はアレルギーとして卵白を含む</p>	
<p>お客様相談室のフリーダイヤル</p> <p>お客様相談室 ☎ 0120-14-1172</p>	

[マヨネーズの表示の見方 >](#)

[ベビーフードの表示の見方 >](#)

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
- 品質への想い >
- 原料・調達の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様相談室での対応 >
- 商品の表示への取り組み >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >**
- 健康への取り組み >
- 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## ユニバーサルデザインへの取り組み

できるだけ多くの方に使いやすいことをめざすユニバーサルデザインの取り組みは、キューピーグループのめざす姿「私たちは『おいしさ、やさしさ、ユニークさ』をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします。」を具現化することでもあると考えています。

キューピーグループではお客様相談室、研究開発本部、商品開発本部など、さまざまな部署が集まる「お客様の声委員会」でユニバーサルデザインにかかわるテーマについて話し合いを行っており、その結果を各部署で具体的に検討しながら、商品の改善に努めています。



### キューピーのユニバーサルデザイン原則

1. 誰でも公平に利用できる
2. 使う上で自由度が高い
3. 使い方が簡単ですぐに分かる
4. 必要な情報がすぐに理解できる
5. うっかりミスや危険につながらない
6. 無理な姿勢を取ることなく少ない力で楽に使用できる
7. アクセスしやすいスペースと大きさの確保
8. 人体に危害を加えない
9. 環境に配慮している
10. 利便性に優れている

### ユニバーサルデザインを取り入れた商品例

#### 使いやすさへの工夫



**ダブルキャップ**

細口にも星型にも使えます。また、開け閉めしやすい工夫をしました。

#### 細口と星型のダブルキャップ

キューピー マヨネーズのふたは、細口と星型のダブルキャップだということをご存じですか？ふたを開けると細口、キャップを回して外すと星型の口があらわれます。お料理の仕上げのデコレーションには細口で、タッパリとかけたいときは星型で。お料理の楽しさが広がるダブルキャップをぜひご活用ください。

また、キャップには、回したときに手が痛くない、壊れにくいなど、ユニバーサルデザインの発想が随所に隠されています。





### プラスチックボトル

これまでガラス瓶だった容器を「プラスチックボトル」に変更しました。「キャップ」にもさまざまな改良を加え、お客さまにより使いやすい容器を実現しました。

### より軽く、より使いやすく、を追求したプラスチックボトル

キュービー ドレッシングは「軽さ」「開けやすさ」「振りやすさ」「注ぎやすさ」「分別しやすさ」「環境配慮」を実現したオリジナルの新容器です。これまでガラス瓶だった容器を「プラスチックボトル」に変更し、「キャップ」にもさまざまな改良を加え、お客さまにより使いやすい容器を実現しました。



### キャップシール

右利き、左利きのどちらの方にも開けやすいよう、キャップ部分のフィルムに工夫をしました。

### 左右どちらでも空けられる易開封シュリンク

ドレッシングのキャップ部分のシュリンク(フィルム)に、右利き・左利きのどちらの方でも1回の動作で開封できる新たなユニバーサルデザインを採用しました。ペルマークもより外しやすくなりました。この「易開封シュリンク」は、「2009 日本パッケージングコンテスト」において食品包装部門賞を受賞しています。

【開封の流れ】右利きでも左利きでも開けやすく、1回の動作で開封可能



### 多面体デザイン

瓶の上部を多面体にする事で、握りやすさと開けやすさを実現しました。





### ディスペンパック

片手で、しかも小さい力で使うことができます。

## 片手で容易に開封できるディスペンパック

「ディスペンパック」は、片手で容易に開封でき、従来の袋やカップに比べ、手を汚すことなく中身を完全に押し出すことができる容器です。1983年にアメリカで発明され、1987年にはキュービートのグループ会社であるディスペンパックジャパンが、世界に先駆けて技術開発および商品化に成功しました。さまざまな食シーンにあわせ、出し口を工夫するなどラインアップを拡充しています。現在では中食や外食産業をはじめ、家庭や学校給食などで幅広く使用されており、2017年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞しました。

※グッドデザイン・ロングライフデザイン賞：長年にわたり作り手と使い手、社会との対話の中で醸成され、暮らしや社会の礎となり、未来においてもその役割を担い続けてほしいデザインを選び、顕彰する賞です。



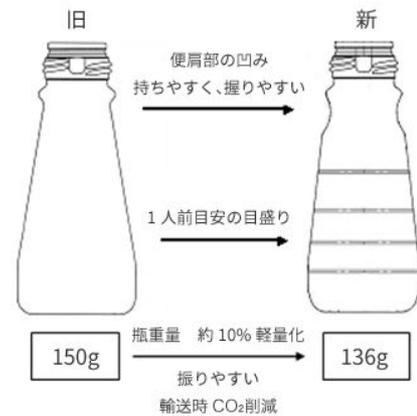
ディスペンパック「トマト&あらびきカスタード」  
2種類の液を同時にらせる



### 瓶肩部のへこみ

持ちやすく、握りやすい「凹み」を採用し、振りやすくしました。また環境に配慮し、約10%軽量化をしました。

## ユニバーサルデザイン化した新容器



分かりやすい工夫



開栓日メモ

開栓した日を記入する「開栓日メモ」



点字表示

「アラハタ」「ジャム」「ドレ」という点字を入れ、より多くのお客様に判断しやすいようにしています。



大きな文字

文字が大きくなり、一目で見やすく、分かりやすくなりました。

キューピーマヨネーズ  
おいしさのひみつ

**卵黄のコク**  
卵黄をたっぷり使用することで、コクとうま味を作り出しています。

**風味豊かなお酢**  
卵黄のコクを引き出す、風味豊かな専用酢を独自の技術で開発しています。

キューピーマヨネーズならではの、コクと風味が料理の味を引き立てます。

●名称=マヨネーズ

栄養成分表示	
大きさ約1杯(15g)当たり	
エネルギー	100kcal
たんぱく質	0.4g
脂質	11.2g
炭水化物	0.1g
食塩相当量	0.3g

開栓後要冷蔵(1℃~10℃)  
開栓後の保存目安は1ヵ月です。

0℃以下になりますと分離することがありますので、冷気の吹き出し口などは避けてください。

賞味期限(開栓前)

## ユニバーサルデザインフード

どなたにも食べやすくおいしい食事として楽しんでいただきたいという想いから、キユーピーはさまざまな商品を開発してきました。いつまでも「食」を楽しむことのできる豊かな食生活の実現を応援しています。

「やさしい献立」は、食べやすさから生まれたユニバーサルデザインフードです。食べる人のかむ力、飲み込む力に合わせて4段階に区別されています。



### ユニバーサルデザインフード (UDF) とは

ユニバーサルデザインフード (UDF) は、日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。2002年設立の日本介護食品協議会(加盟73件:2017年12月現在)は消費者がより分かりやすいように咀嚼嚥下(かむ力・飲みこむ力)に配慮し、「かたさ」や「粘度」に応じて4段階に区分されています。各区分に分類される商品にユニバーサルデザインフードロゴマークを使用しています。



区分	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる	かまなくてよい
かむ力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安 (ごはんの調理例)	ごはん ～やわらかごはん 	やわらかごはん ～全がゆ 	全がゆ 	ペーストがゆ 
かたさの目安 (たまごの調理例)	厚焼き卵 	だし巻き卵 	スクランブルエッグ 	やわらかい茶碗蒸し(具なし) 

[日本介護食品協議会ホームページ](#) 

### ユニバーサルデザインに関する情報



#### やさしい献立商品紹介サイト

『やさしい献立』は、食べやすさから生まれた介護食(ユニバーサルデザインフード)です。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
  - 品質への想い >
  - 原料・調達品質 >
  - 製造工程の品質 >
  - 容器包装の品質 >
  - 食の安全性評価 >
  - お客様相談室での対応 >
  - 商品の表示への取り組み >
  - ユニバーサルデザインへの取り組み >
  - 健康への取り組み >**
  - 海外商品への取り組み >
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 健康への取り組み

キユーピーグループでは、1925年のマヨネーズ製造・販売開始以来、野菜摂取の拡大を通して健康な食生活に貢献するため内食・中食・外食に幅広く事業を展開し、多様化する食シーンに合わせてさまざまな取り組みを行ってきました。また育児食(ベビーフード)・ヘルスケア食・介護食・医療食を販売するなど、赤ちゃんから高齢者までそれぞれの世代の食と健康に貢献するための事業活動を行っています。

### 商品・プロジェクトを通じた取り組み

厚生労働省統計「平成26年患者調査」によると、日本には高血圧性疾患の患者が1,000万人以上いるとされており、「血圧が高めの人」はさらに多いと推定されます。キユーピーは、一般的な調味料に比べ食塩の使用量が少なく、味の満足度があるマヨネーズの特性に着目し、「キユーピー アマニ油マヨネーズ」を2016年6月に発売しました。アマニ油は、血圧が高めの人に適した機能を持つ「α-リノレン酸」が豊富に含まれています。サラダをはじめ野菜を使ったメニューとあわせた提案により、血圧が高めの方の食生活の改善を支援していきます。



### 食物アレルギーへの取り組み

近年、日本をはじめとする先進国では、食物アレルギーは増加の一途をたどっており、食品メーカーとして対応すべき重要な課題と考えています。キユーピーでは、より多くの方に食事を楽しんでいただけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

#### 原材料表示

キユーピーでは、一目でわかりやすいように、商品に含まれるアレルゲン(特定原材料7品目と表示が推奨されている20品目について)をまとめて表示しています。また育児食(ベビーフード)については、重篤度が高い、あるいは症例数が多い食物アレルギー7品目「卵・乳成分・小麦・えび・かに・そば・落花生」の使用の有無について、商品の正面に一目でわかるように表示しています。



アレルゲンアイコン

## 食物アレルギー7品目不使用のベビーフード

小麦を含まないしょうゆなど原材料から配慮し、食物アレルギー7品目を使用しない育児食(ベビーフード)の開発を行っています。

## 「卵不使用」のマヨネーズタイプ調味料

キューピーは2014年春、学校給食向けに卵アレルギーに配慮し、卵を使わないマヨネーズタイプ調味料(業務用)を発売しています。発売後の状況から家庭用のニーズが高まっていると判断し、2015年2月から「キューピー エッグケア(卵不使用)」を市販向けに発売しています。今後も社会に求められる商品づくりで食生活に貢献していきます。



## 卵アレルギー研究

### 卵アレルギーは「食べて予防」へ

食物アレルギーは、じんましんや呼吸困難などを引き起こす病気で、特に卵アレルギーは乳幼児に多いといわれています。これまでアレルギーを引き起こす食品の摂取は避けた方がよいとされてきましたが、最近の研究で「離乳早期に少しずつ食べ始めるほうがアレルギー発症予防に有効<sup>※</sup>」であることがわかってきました。キューピーグループは、加熱などによりアレルギー性を低下させた卵を用いて、より安全な卵アレルギーの診断・治療および予防につなげる研究を専門医療機関と共同で行っています。これからも診断から治療・予防法確立までの支援を継続していきます。



加熱などによりアレルギー性を低下させた卵素材

<sup>※</sup>2016年、国立成育医療研究センターは、卵アレルギーの予防に関する研究成果を発表しました。アトピー性皮膚炎の乳児121人を対象に行った結果、皮膚の治療を十分に行った上で6カ月齢から微量の加熱した卵の粉末を食べた乳児の1歳時における卵アレルギー発症率は8% (食べなかった乳児は38%) となり、その有効性が示されました。

## 子どもたちへの取り組み

食に対する正しい知識は、豊かな食生活に欠かせないものです。キュービーグループは、未来を創る子どもたちに食の大切さを伝えるとともに、食を通じて心と体の健康を育む活動を積極的に展開しています。

### まめ活®(豆をまめに食べる活動)

「豆」は栄養バランスがよい食材ですが、食べられていない子どもも多く、食感が苦手などを理由に学校給食で食べ残しが多い食材です。キュービーは子どもたちに「豆」のよさを伝え親しんでもらいたいと考え、2016年より小学校に「豆」の食育授業の教材を提供しています。また豆を取り入れた学校給食の献立提案を行い、豆を食べる食習慣の形成を支援しています。

### 朝食プロジェクト

消費者庁との官民一体プロジェクト「家族であつまる朝ごふん」に参画しています。子育てファミリーに向け、子どもの健やかな成長をめざし、朝5分の朝食を通じたコミュニケーションを提案しています。

## 医療への取り組み

キュービーのファインケミカル事業は、卵由来のレンチンやリゾチーム、食酢の研究から生まれた酢酸菌酵素など、さまざまな素材を食品・化粧品・医薬品などの分野へ提供しています。中でも30年以上にわたり研究を重ねてきたヒアルロン酸は、事業の中核となる素材であり、国内販売量No.1(2017年富士経済調べ)となっています。

キュービーは国内で唯一、鶏のトサカからの抽出と微生物発酵の2つの方法でヒアルロン酸を製造するメーカーです。分子量のコントロール技術や修飾技術を強みとし、顧客ニーズに合わせた技術支援を行ってきました。

キュービーのヒアルロン酸は、医療用点眼薬や関節機能改善剤の原料など、さまざまな医薬品に使用されています。これらの取り組みで得た製造・品質管理のノウハウを生かし、ヒアルロン酸を活用した医療機器の企画、開発を行うビジネスを展開しています。

消化管(胃・食道・大腸など)の粘膜層にとどまる早期がんなどの病変を通電しながら切除する際に使用される医療機器「内視鏡用粘膜下注入材」には、ヒアルロン酸ナトリウムが使われています。ヒアルロン酸の粘性により粘膜の下にとどまることで粘膜層と筋層を分け、その状態を維持することで病変部位の切除または剥離操作性向上をサポートします。キュービーは内視鏡による早期がん治療の普及を通じ、健康寿命の延伸に貢献します。

他にも大腸検査を受けられる方や医療機関の皆様へ、検査前日にご使用いただける商品もご用意しています。

> [検査食](#)



キュービー初の医療機器、内視鏡用粘膜下注入材「ケイスマート」

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み -
- 品質への想い >
- 原料・調達の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様相談室での対応 >
- 商品の表示への取り組み >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 健康への取り組み >
- 海外商品への取り組み >**
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 海外商品への取り組み



安全・安心への取り組み -

- 品質への想い >
- 原料・調達の品質 >
- 製造工程の品質 >
- 容器包装の品質 >
- 食の安全性評価 >
- お客様相談室での対応 >
- 商品の表示への取り組み >
- ユニバーサルデザインへの取り組み >
- 健康への取り組み >

海外商品への取り組み >

社会への取り組み +

環境への取り組み +

従業員への取り組み +

対話と評価 +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

社会・環境活動(CSR)の歴史 >

キューピーグループは、国内においては経営資源を駆使したユニークな事業展開で発展し、海外においては国内で培った力を活かして成長することをめざしています。こうした取り組みを通じて国内外のお客様に、キューピーグループならではの食の喜びや楽しさ、そして健康的な食生活をお届けしていきたいという想いがあります。

それぞれの国のライフスタイルや食の歴史・文化を理解し、お客様に寄り添いながら、キューピーグループが持つ「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」によって新しい食べ方や食シーンを提案し、世界中の人々の心と体の健康に貢献していきます。

## 世界各国の食文化に合わせた「味づくり」

キューピーグループは、日本のオリジナルマヨネーズの味を大切にしながら、海外拠点において製造販売する一方で、現地の食材や料理に合った調味料の開発にも力を注いでいます。

たとえば中国ではフルーツサラダに好んで使われる甘いタイプのマヨネーズを開発し、広く使われるようになっています。また、中国北部で一般的に食べられている大拌菜(ダーバンツァイ)というサラダに対してドレッシングを販売し、現在では北京で人気の商品になっています。

このように日本の味をお届けするとともに、現地のニーズに合わせた商品の開発という両面から、世界中においしさを提供しています。



左:甘いタイプのマヨネーズ  
 右:大拌菜ドレッシング

## 商品における人権配慮

キューピーはマレーシアとインドネシア、タイの3カ国でハラル認証を取得した商品を生産し、食の洋風化が進む現地および周辺諸国で販売を行っています。日本においても、近年増加するイスラム教徒およびイスラム圏からの訪日外国人の皆さまに安心して食べていただけるよう、「キューピー マヨネーズ ジャパニーズスタイル(ハラル認証)」を販売しています。



キューピー マヨネーズ ジャパニーズスタイル  
(ハラル認証)

## 卵殻カルシウム配合の栄養強化食品

ベトナムでは、骨粗しょう症が増加しカルシウム不足が社会的課題となっています。キューピーがハノイ国立栄養研究所と共同でベトナム人女性を対象に行った基礎研究の結果などを受け、キューピーベトナムでは、2017年12月から卵殻カルシウム(卵殻由来の炭酸カルシウム)を配合した栄養強化食品の販売を開始しました。米食が盛んなベトナムの食生活の中で、炊飯時に加えて炊くだけで手軽にカルシウムを摂取できます。

日本では同様の商品を「元気な骨」の商品名で販売しています。



左:分包タイプ(10ml×10包)  
右:ボトルタイプ(1L)



ベトナムの米売場での試食販売の様子

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み -
- ↳ 食を通じた社会貢献 >
- ↳ 地域貢献 >
- ↳ 文化貢献 >
- ↳ その他の社会貢献活動 >
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 社会への取り組み

キユーピーグループは人々の生活になくてはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現に貢献をしていきたいと考えています。

地方自治体や地域のNPOなどとの協働を通じて、地域社会との共生につながる活動に取り組んでいます。



### キユーピーの社会貢献活動

キユーピーグループでは、「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、地域社会とのより良い共生をめざして社会貢献活動に取り組んでいます。特に、地方自治体や地域のNGO・NPOなどの団体との協働を通じて、さまざまな地域の発展につながる活動を行っています。



➤ **食を通じた社会貢献**

食品メーカーとして、食育を中心とした食に関する社会貢献活動に力を入れています。



➤ **地域貢献**

グループ全体を通して国内外の地域社会との連携や貢献活動を行っています。



➤ **文化貢献**

歌やダンスといった文化を通じて、社会の皆さまが健康で楽しく生活できるような活動を応援しています。



➤ **その他の社会貢献活動**

キユーピーが長く続けているベルマークや、寄付活動などの社会貢献活動をご案内します。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み -
- 食を通じた社会貢献 >**
- 地域貢献 >
- 文化貢献 >
- その他の社会貢献活動 >
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 食を通じた社会貢献

核家族化、共働き、ひとり親家庭の増加などにより子育ての環境は大きく変化しています。また近年、子どもの貧困といった問題も表出し、多面的な子育て支援の必要性が高まっています。子どものうちに健全な食生活を確立することは、豊かな人間性を育むことにもつながり、生涯にわたる健康の基礎となります。一方、高齢化が進む中、健康寿命を延ばすことで、個人の生活の質をあげることや社会的損失を防ぐことも大きな社会的課題となっています。キューピーグループは、子どもの心と体の健康や、健康寿命の延伸などの課題解決をめざし、事業活動とともに食育を中心とした社会貢献活動を通じ、より良い社会の実現に貢献します。



### 食育活動

キューピーグループは、「食の安全・安心」とともに「食の楽しさと大切さ」をお伝えする食育活動を実施しています。1961年に「オープンキッチン(工場見学)」を開始し、2002年からは小学校への出前授業「マヨネーズ教室」を全国で実施しています。そのほか、食に関する情報を提供しています。健康な心と身体づくりを応援する情報誌、「キューピーニュース」を毎月発行、DVDを学校や消費生活センターなどに無償で配布する「メディアライブラリー活動」なども行っています。



**食育活動** >

### フードバンク活動の支援

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が、年間約643万トン(平成28年度推計:環境省及び農林水産省)あるといわれています。その一方、十分な食事が摂れない人たちも数多く存在しています。キューピーグループは、フードバンク活動※を行う「認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン」を2007年から支援し、マヨネーズ やドレッシング、ジャムなどを寄贈しています。2018年度は、キューピーグループ4社国内8事業所から各地域の8フードバンク団体に寄贈しました。

※ フードバンク活動:食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、児童養護施設などの福祉施設や生活困窮者へ無償で提供する活動

## 食を通じた「子どもの貧困対策」への支援

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が急速に進む一方、若い世代を中心とした食に関する知識・興味の低下、食を通じたコミュニケーションの希薄化、子どもの貧困など、食を取り巻く社会課題はますます深刻化しています。キューピーは「食を通じて社会に貢献する」という創業当初からの精神のもと、2017年4月に「一般財団法人キューピーみらいたまご財団」を設立しました。想いを共有しうる団体の活動を広範に支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献に繋げていきたいと考えています。独自の食育活動とあわせ、長期的な視野をもって健やかで持続的な社会の実現をめざします。



### 公益財団法人 キューピーみらいたまご財団

“食育活動”および“子ども食堂など食を通じた子どもの居場所づくり”に取り組む団体への、寄付を中心とした助成活動を行っています。2018年度は26団体への助成を決定し、2018年5月にはキューピー渋谷本社にて、10月にはキューピー大阪支店にて、「活動報告会」と子ども食堂などの運営や支援に携わる方々から、「地域の居場所づくり講座」として、子ども食堂の果たす役割や衛生・食育について講演いただきました。

さらにキューピーみらいたまご財団は2019年4月1日から公益財団法人に移行しました。



> [公益財団法人 キューピーみらいたまご財団](#) 

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み -
  - 食を通じた社会貢献 >
  - 地域貢献 >**
  - 文化貢献 >
  - その他の社会貢献活動 >
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 地域貢献

### 地域との連携

キューピーグループは、さまざまな自治体と協働して地域社会の課題解決に取り組んでいます。

#### 山形県との取り組み

キューピーは、山形県と2019年2月、地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進に関する包括連携協定を締結しました。キューピーと山形県の双方が持つ資源を有効に活用して協働することにより、「やまがた創生」に資することを目的としています。

#### キューピーと山形県が包括連携協定で取り組む内容

キューピーと山形県は、以下の地域社会の課題に取り組めます。具体的な内容については、今後連携して検討し、実施します。

#### 協定内容

1. 山形県産農産物の地産地消の推進と利用拡大に関する事項
2. 健康増進に関する事項
3. 食育の推進に関する事項
4. 子どもの貧困対策に関する事項
5. 災害対策に関する事項
6. その他、「やまがた創生」の推進に関すること

#### 渋谷区との取り組み

キューピーは、渋谷区と2016年12月、相互の協働のもと、地域社会の課題解決を目的とした包括連携協定である「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定(SSAP)」を締結しました。本協定を通じて、新たな取り組みを渋谷区と協働して推進し、社会・地域とのより良い共生を図ります。

#### 協定内容

1. 食育や子どもの貧困課題の解決に関する支援
2. 超高齢社会における健康増進領域の支援
3. 環境領域の課題(食品ロス含む)に関する研究と解決策の提供
4. 文化・芸術振興における支援、企画立案、情報発信施策の企画開発
5. ダイバーシティの実現に向けた研究や啓発活動への支援
6. 人材開発や研修プログラムにおける人的交流



## 広島市との取り組み

---

キューピーは、広島市と2018年3月、地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進に関する包括連携協定を締結しました。キューピーと広島市の双方が持つ資源を有効に活用した取り組みを推進していきます。

キューピーと広島市は、本協定を通じて「広島近郊6大葉物野菜」などの地産地消の推進や1日あたりの野菜摂取量増加につながる取り組みなどを、連携して行います。

例えば、広島市の市内産農産物の消費拡大に向けたPR活動と連携し、量販店にて旬の野菜のおいしい食べ方のメニュー提案や試食の販売促進を推進しています。

### 協定内容

1. 地産地消の推進に関する事項
2. 野菜摂取向上に関する事項
3. 健康増進に関する事項
4. 食育の推進に関する事項
5. 災害対策に関する事項

## 広島県との取り組み

---

アヲハタ株式会社は、2013年より広島県と「包括的連携に関する協定」を締結しています。この協定を通じて、広島県産オリジナル商品(瀬戸内ブランド)の開発や観光振興、県民サービスの向上や地域経済活性化の推進、健康増進・食育に関する事、地域の安全・安心に関する事など、多岐にわたる取り組みを進めています。

### 協定内容

1. 瀬戸内ブランドの推進や県産品の販売促進に関する事
2. 県政情報の発信、観光振興に関する事
3. 教育・文化の振興に関する事
4. 健康増進・食育に関する事
5. 環境対策・リサイクルに関する事
6. 地域の安全・安心に関する事
7. 障がい者支援に関する事
8. 子育て支援に関する事
9. その他、県民サービスの向上、地域社会の活性化に関する事



瀬戸内ブランドの登録商品

## 福島県における取り組み

---

キューピー仙台支店郡山営業所では、「福島の食卓に笑顔を！」をテーマに掲げ、従来の「マヨネーズ教室」の枠を超え、福島県産野菜の地産地消サイクルの構築と、その先にある「新たな食シーンの創出」までを見据えた社会貢献プログラムを実施しています。JA全農福島と地元の農園との協働で、福島県の代表的な野菜であるきゅうりの苗を県内の小学校に配布し、収穫時期に合わせてマヨネーズ教室を開催して、自分たちで育てたきゅうりを手作りマヨネーズで皆と一緒に食べる体験の場を提供しています。食の楽しさや野菜のおいしさを伝えるとともに、地域との共生を図っています。

## 地域清掃活動

各事業所で敷地周辺の自主的な清掃活動を実施しています。また、地域で行われている周辺の河川や商店街の定期的な清掃に参加しています。こうした取り組みは「CSRブログ」でも紹介しています。

[> CSRブログ](#)



## オープンキッチン

キューピーは、「工場は家庭の台所の延長」と考えています。そのため、一般の方の工場見学を「オープンキッチン」と呼んでいます。商品がどのように生産されているのかをお客様の目で見ていただくことが、商品をご理解いただき、安心をお届けする最良の機会であると考えています。

オープンキッチン(工場見学)の歴史は古く、1961年に活動を開始。食品業界では生産現場を公開することが珍しかった当時、小学生の社会科見学を実施したことがきっかけです。現在では、地域の産業を学ぶ場として年間約6万人の見学者を受け入れています。

[> 詳しくはこちら](#)

## 国内グループ会社の教育支援活動

アヲハタでは、教育支援活動の一環として、高等学校、大学などで講義や講演、ジャム製造実習などを実施しているほか、インターンシップ(職場体験学習)の学生・生徒を受け入れ、働くことの大切さ・厳しさなどへの理解を深めていただいています。また、アヲハタからの寄付金をもとに本社のある広島県竹原市では「アヲハタ奨学金基金」が設立されています。給付型の奨学金制度で、毎年新たに2名の大学生に奨学金を給付しています。

## 海外グループ会社での地域貢献活動

キューピータイランド (KEWPIE (THAILAND) CO., LTD.) では、「環境」「子ども支援」「地域貢献」の3つのテーマに沿った活動を、利益の2%を予算計上して実施しています。これは現地合弁先であるサハグループの企業方針にも沿ったものです。環境活動では、LED化、水のリサイクル、バイオマス燃料の使用推進により環境負荷低減を進めるとともに、地域と共同で水源保持の為の植林活動を継続的に行っています。(2018年度8,000本)。子ども支援として、従業員子女への就学支援、近隣の小学校の食堂・トイレ・飲み水等衛生施設の整備の導入・メンテナンスを行っています。また地域貢献では、保健局と連携した生活環境改善支援、デイケアセンターへの支援、工場見学の受け入れ、従業員による清掃ボランティア活動等に取り組んでいます。



植林活動



衛生施設の整備

左:改善前 右:改善後

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み -
- 食を通じた社会貢献 >
- 地域貢献 >
- 文化貢献 >**
- その他の社会貢献活動 >
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

文化貢献

おかあさんコーラス

キユーピーは、「全日本おかあさんコーラス大会(全日本合唱連盟・朝日新聞社主催)」と「全沖縄おかあさんコーラス大会(全沖縄おかあさんコーラス連盟・琉球新報社主催)」に協賛しています。

これらの大会は日頃、家事や仕事などで忙しいおかあさんに、コーラスの楽しさを存分に味わっていただく場です。

ご家族の笑顔と健康を支えているおかあさんたちを、私たちは応援しています。



全日本おかあさんコーラス大会

毎年全国各地で支部大会が行われ、およそ900団体、約2万人が参加する大規模な催しです。そのなかから選ばれた約60団体が、全国の主要都市で行われる全国大会に出場。日頃の練習の成果を発表しています。主婦コーラスの愛好家にとっては、欠かせない発表の場になっています。



全日本合唱連盟 

全日本おかあさんコーラス大会のあゆみ

全日本おかあさんコーラス大会は、当時の石井勲全日本合唱連盟理事長の「おかあさん方に芸術を知っていただくことが、健康な家庭を作るために必要だ」という信念のもと、1978年に全日本合唱連盟と朝日新聞社の主催で「全日本ママさんコーラス大会」として始まりました。

第1回大会は全国で232団体・約1万人が参加し、全国大会は虎ノ門ホール(東京)で25団体が出場して盛大に開催されました。その後、参加団体は順調に増え、現在、毎年3月から7月に行なわれる各地の支部大会におよそ900団体、約2万人が参加する大規模な催しになっています。

開催実績 -

回数	開催地	会場	あゆみ
第42回	石川県	金沢歌劇座	—
第41回	愛媛県	ひめぎんホール	—

第40回	岡山県	岡山シンフォニーホール	—
第39回	青森県	リンクステーションホール 青森	—
第38回	北海道	札幌コンサートホールKitara	—
第37回	新潟県	りゅーとびあ新潟市民芸術 文化会館	—
第36回	大阪府	フェスティバルホール	—
第35回	東京都	文京シビックホール 大ホ ール	35回記念大会として、全国大会 を3日間開催。
第34回	福岡県	アクロス福岡	—
第33回	長野県	長野県県民文化会館 ホク ト文化ホール	—
第32回	愛媛県	ひめぎんホール	—
第31回	福島県	郡山市民文化センター 大ホ ール	—
第30回	鳥取県	鳥取県立県民文化会館 梨花 ホール	—
第29回	北海道	札幌コンサートホール Kita ra	—
第28回	長崎県	長崎ブリックホール大ホー ール	—
第27回	神奈川県	よこすか芸術劇場	—
第26回	滋賀県	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホ ール	—
第25回	東京都	東京文化会館 大ホール	25回記念大会として、「ひびけ おかあさん in Tokyo!」をサ ブタイトルに全国大会を3日間 開催。
第24回	富山県	富山市芸術文化ホール オー バード・ホール	—
第23回	香川県	香川県県民ホール グランド ホール	—
第22回	岩手県	岩手県民会館	—
第21回	岡山県	倉敷市民会館	連盟創立50周年記念事業とし て、全国大会1日目の夜に「コー ラスジャンボリー」を倉敷チボ リ公園で開催。

第20回	北海道	札幌コンサートホール Kitara	—
第19回	熊本県	熊本県立劇場コンサートホール	—
第18回	群馬県	群馬音楽センター	—
第17回	京都府	京都会館 第1ホール	—
第16回	石川県	金沢市観光会館	この年から全国大会を2日間開催。
第15回	東京都	東京芸術劇場 大ホール	—
第14回	愛媛県	愛媛県立県民文化会館 メインホール	—
第13回	福島県	郡山市民文化センター 大ホール	—
第12回	広島県	広島厚生年金会館ホール	—
第11回	北海道	北海道厚生年金会館ホール	—
第10回	福岡県	福岡サンパレス 大ホール	少年少女合唱祭(第1回)を併催。もう一つのおかあさんコーラス大会と銘打った「おかあさんカンタート」を始める。
第9回	神奈川県	神奈川県県民ホール	少年少女合唱団大集合を前日に併催。この年から開催地は全国持ち回りとなる。
第8回	大阪府	フェスティバルホール	—
第7回	東京都	ゆうぼうと簡易保険ホール	—
第6回	愛知県	名古屋市民会館 大ホール	初めて東京・関西以外で全国大会を開催。
第5回	兵庫県	神戸文化ホール 大ホール	—
第4回	東京都	普門館	—
第3回	京都府	京都会館 第1ホール	名称を「全日本おかあさんコーラス大会」と変更。
第2回	東京都	東京文化会館 大ホール	—
第1回	東京都	虎ノ門ホール	「全日本ママさんコーラス」を開催し、継続行事として意義のある第一歩をしるした。

## 全沖縄おかあさんコーラス大会

全沖縄おかあさんコーラス大会は「楽しく歌う」を原点到に1979年にスタートしました。最初は舞台上立って歌い終わると、そこから客席に行き、次の団体の歌を聴くというような発表会規模の小さな催しでした。回を重ねるごとに各市町村へと広がり、歌を愛する人が集まる素晴らしい文化活動へと成長しました。今ではコーラスのレベルも上がり、沖縄の歌も多く歌われ、その普及にも貢献しています。



### 全沖縄おかあさんコーラス大会のあゆみ

「ママさんバレーがあるのに、ママさんコーラスもあってしかるべき」との発想から、全沖縄おかあさんコーラス連盟初代理事長の故仲里朝太郎氏、前相談役の鳩間用吉氏、前理事長の新島ユキさん、兵庫県在住の柴田民子さんを中心に1979年2月14日、5団体による「親睦演奏会」が那覇中央公民館で開かれ、これが今日の「全沖縄おかあさんコーラス大会」の基礎となりました。翌1980年3月1日、当時全日本合唱連盟理事長の石井欽氏を招いて「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を琉球新報ホールで開催し、継続行事として意義ある第一歩を歩きました。その後、参加団体の範囲が「那覇」から「全県」へ広がり、今では加盟団体への還元事業として合唱講習会や指導者講習会を定期的に行き、組織の結束力の強化、演奏技術の向上にも努めています。

#### 開催実績

回数	会場	あゆみ
第40回	琉球新報ホール	—
第39回	豊見城市立中央公民館	—
第38回	豊見城市立中央公民館	—
第37回	浦添市てだこホール	—
第36回	浦添市てだこホール	—
第35回	宮古島市マティダ市民劇場	名称を「全沖縄おかあさんコーラス大会」と変更。
第34回	那覇市民会館 大ホール	—
第33回	浦添市てだこホール	—
第32回	浦添市てだこホール	—
第31回	那覇市民会館 大ホール	—
第30回	浦添市てだこホール	—
第29回	那覇市民会館 大ホール	—
第28回	那覇市民会館 大ホール	—
第27回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—

第26回	那覇市民会館 大ホール	—
第25回	沖縄市民会館 大ホール	—
第24回	名護市民会館 大ホール	—
第23回	那覇市民会館 大ホール	—
第22回	那覇市民会館 大ホール	初めて沖縄本島以外で開催。
第21回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
第20回	那覇市民会館 大ホール	—
第19回	那覇市民会館 大ホール	—
第18回	那覇市民会館 大ホール	—
第17回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
第16回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
第15回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	連盟歌、連盟旗を作成。
第14回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
第13回	那覇市民会館 大ホール	—
第12回	沖縄市民会館 大ホール	—
第11回	那覇市民会館 大ホール	—
第10回	那覇市民会館 大ホール	10回参加した団体へ表彰を始める。
第9回	那覇市民会館 大ホール	—
第8回	那覇市民会館 大ホール	—
第7回	那覇市民会館 大ホール	—
第6回	那覇市民会館 大ホール	名称を「全沖縄おかあさんコーラス発表会」と変更。
第5回	労働福祉会館 大ホール	—
第4回	労働福祉会館 大ホール	—
第3回	労働福祉会館 大ホール	名称を「那覇おかあさんコーラス発表会」と変更。
第2回	琉球新報ホール	—
第1回	琉球新報ホール	「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を開催し、継続行事として意義のある一歩をしるした。

## 全日本小中学生ダンスコンクール

キューピーは、「全日本小中学生ダンスコンクール(朝日新聞社主催)」に協賛しています。

ダンスは、小中学校の学校教育やクラブ活動に採り入れられるようになりました。基礎体力の向上はもちろん、リズム感や自己表現、創造力、さらにはコミュニケーション力を養うことで教育の面でもとても期待されています。キューピーは、元気の源となる食を通じて、ダンスを頑張る子どもたちの健やかな成長を応援しています。



### 全日本小中学生ダンスコンクールとは？

「小中学生が学校の授業やクラブ活動などで仲間と練習したリズムダンスのパフォーマンスを演じるハレの舞台をつくりたい」。そして、「ダンスを通じて健やかな体と豊かな表現力、仲間とともにがんばる心を育みたい」という願いのもとで2013年夏に創設された大会です。

[公式ホームページ](#)



CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み -
- 食を通じた社会貢献 >
- 地域貢献 >
- 文化貢献 >
- その他の社会貢献活動 >**
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## その他の社会貢献活動

### マッチングギフト制度(QPeace)

キユーピーグループは、従業員が社会課題の解決に取り組む団体に寄付を行うことを支援する活動として、マッチングギフト制度「QPeace(キユーピース)」を2008年度より導入しています。寄付先の団体は、従業員の推薦を受け、有志による選定委員会で決定しています。2018年度は、グループ25社より615名の従業員が参加し、「子ども」「環境」「食」を活動のテーマとする15の社会・環境団体へ寄付を行いました。従業員が社会課題への関心を高めるきっかけとしています。



#### QPeaceの流れ

1. 従業員が支援したい団体を推薦。従業員からなるプロジェクトメンバーと事務局で、推薦された団体を審査し、決定
2. 寄付を希望する従業員は毎月100円を1口として給与天引きし、QPeaceに積立
3. 会社は従業員の積立金と同額を支援
4. 各社会・環境活動団体へ寄付



### ベルマーク運動

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いからはじまった運動です。

キユーピーグループはこの願いに共感し、ベルマーク運動が開始された1960年より、公益財団法人ベルマーク教育助成財団に協賛し、運動に参加した学校などへの教育支援活動に協力しています。

これからも、幅広い社会教育活動を支援しているこの運動を応援していきます。



## ベルマークとキューピー商品



### ベルマークがついている商品

ベルマークはキューピーのマヨネーズとドレッシングについています。



### ベルマークを外しやすくする工夫

キューピー テイスティシリーズでは、ドレッシングのキャップシールをはがす際、ベルマークを開け口（あけくち）の間に配置し、切り取り線により、取り外しやすいように配慮しました。

財団法人 ベルマーク教育助成財団



## 寄附研究部門の開設

キューピーは、お茶の水女子大学に寄附研究部門「食と健康」を2013年4月1日から開設しました。本寄附研究部門では、食の役割・機能について基礎研究から人への応用をめざした発展型の研究まで行い、食の重要性を広く発信する拠点になることを目指します。日本人の平均寿命、健康寿命は世界でもトップレベルで、その要因の一つが日本型食生活にあるのではないかとわれています。本寄附研究部門では日本食をベースに、生活習慣病の予防に寄与する食品成分の探索と作用機構について研究し、その成果を世界に向けて発信します。また、研究成果に基づいた健康食スタイルを提案し、公開講座などで市民にも情報を発信していきます。

部門名	食と健康
設置場所	お茶大アカデミック・プロダクション産学官連携部
設置期間	2013年4月1日から2020年3月31日まで(7年間)
担当教員	寄附研究部門准教授 岸本良美 寄附研究部門講師 田口千恵 客員教授 近藤和雄

お茶の水女子大学



CSR

CSRトップ	>
トップメッセージ	>
ガバナンス	+
CSRの基本的な考え方	>
重点課題	>
CSRトピックス	+
安全・安心への取り組み	+
社会への取り組み	+
環境への取り組み	-
└ 環境マネジメント	>
└ 資源の有効活用	>
└ 地球温暖化の防止	>
└ 自然環境の保全	>
└ 商品における環境配慮	>
従業員への取り組み	+
対話と評価	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
社会・環境活動(CSR)の歴史	>

環境への取り組み

キユーピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っており、事業活動が与える自然への影響へ十分に配慮し、将来にわたってこれまでと同様の環境を残し、次世代に引き継いでいく使命があると考えています。

キユーピーグループでは、環境基本方針を「生産から販売の全ての活動と商品で、環境への配慮に努めます。」と定め、その行動指針に基づき、グループ各社が目標を定めて環境保全活動に取り組んでいます。  
 2016年度からの中期経営計画では「資源の有効活用」「地球温暖化の防止」「自然環境の保全」の3つを活動の軸としました。



② 環境マネジメント

グローバルなキユーピーグループの方針として環境基本方針を定めています。



② 資源の有効活用

資源の再資源化と、水資源の効率活用を中心に資源の有効活用に取り組んでいます。



② 地球温暖化の防止

CO2排出量の削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスで省エネルギー、エネルギー転換に取り組んでいます。



② 自然環境の保全

「キユーピーの森」での活動を中心に、自然環境の保全に取り組んでいます。



② 商品における環境配慮

容器の改良・賞味期間の延長を通じた食品ロスの低減を中心に、循環型社会の形成をめざしています。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み -
- 環境マネジメント >**
- 資源の有効活用 >
- 地球温暖化の防止 >
- 自然環境の保全 >
- 商品における環境配慮 >
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 環境マネジメント

### 環境保全の考え方

キユーピーグループは、国内外での環境保全の意識の高まりを受けて、1998年12月に「環境基本方針」を制定し、事業における環境への配慮に取り組んできました。その後、「環境理念」「行動指針」からなる「環境基本方針」は2度の改定を経て、グローバルなキユーピーグループの方針としてきました。

### 環境理念

生産から販売の全ての活動と商品で、環境への配慮に努めます。

### 行動指針

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
2. 環境への影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
3. 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の遵守はもとより社会的要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。

2015年、国連サミットで持続可能な世界を実現するために国際目標として、SDGs(Sustainable Development Goals)が合意されました。また、気候変動に関するパリ協定が採択され、企業が事業活動を通じて環境負荷低減に取り組むことへの期待が高まってきました。キユーピーグループは、このたび「CSRの基本的な考え方」をまとめ「サステナビリティに向けての重点課題」を設定しました。SDGsとパリ協定がめざす中長期での目標をふまえ、計画策定とその実践を進めていきます。

> [CSRの基本的な考え方](#)

> [サステナビリティに向けての重点課題](#)

### 環境保全推進体制

これまでキユーピーグループでは、各本部およびグループ企業の環境管理責任者によって構成される環境委員会を設置し、グループ全体の環境保全活動を促進してきました。2017年度には、環境委員会を基盤として新たにCSR委員会を発足しました。CSR委員会は、グループ全体の社会・環境活動の推進を担っていきます。CSR委員会は「サステナビリティに向けての重点課題」の解決に向け、環境面では「資源の有効活用と持続可能な調達」「CO<sub>2</sub>排出削減(気候変動への対応)」の2つの重点課題に取り組んでいきます。各課題の解決に向けた部会を設置し、目標や取り組みを検討していきます。

## ISO14001 認証取得状況

キューピーグループでは、環境保全活動のPDCAサイクルを回すための基本ツールとして、各事業所でISO14001あるいはこれに準じた独自のシステムを導入しています。

グループ生産82事業所中19事業所がISO14001認証を取得しています(2018年11月末現在)。

## 環境法規の遵守

キューピーグループの各事業所は、各国・地域ごとの環境法規への対応を適正に行っています。

※ 2018年度は、関連法規等の違反や事故の発生はありませんでした。

## 環境監査

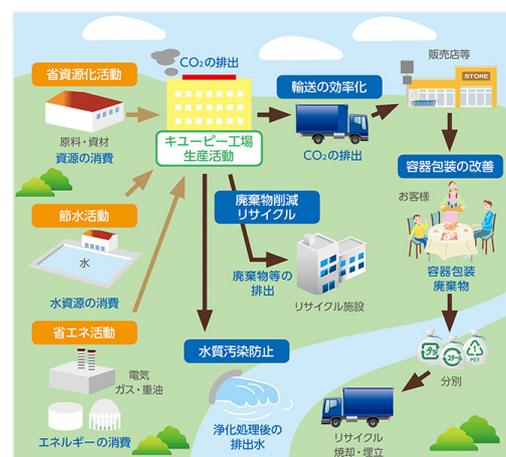
キューピーグループは、関連法規等の遵守、管理推進体制の整備、施設管理状況等についての基準を定め、年1回の内部監査を実施することで、それらを徹底するとともに環境保全活動を推進しています。このほかISO14001認証取得事業所では、規格に基づいた外部機関による審査を受けています。

## 事業活動における環境影響

キューピーグループでは商品の生産工程において、原料・資材・水などの資源や、電気・ガス・重油などのエネルギーを投入し、産業廃棄物や排水、CO<sub>2</sub>などを排出しています。また、商品輸送時のエネルギー使用に伴う環境負荷や、お客様のご使用後に容器包装廃棄物も発生します。

そうした事業活動に伴う環境への負荷を正しく認識し、商品開発、原資材調達、生産、販売、物流のすべての活動で、持続可能な地球環境に配慮し、省エネルギー・省資源、廃棄物削減、容器包装の改善、輸送の効率化、汚染防止などの環境保全活動を推進しています。

### キューピーグループ生産部門における物質とエネルギーの流れ



バリューチェーン全体で、有効資源活用に取り組んでいます。

## キューピーグループ生産部門における物質とエネルギーの流れ(2018年度)

### インプット

エネルギーの使用	購買電力	2,445 千GJ(245,669千kWh)
	燃料 <sup>※1</sup>	1,473 千GJ
	エネルギー合計	3,918 千GJ
水の使用	水(地下水、水道水)	9,322 千m <sup>3</sup>

### アウトプット

大気への排出	CO <sub>2</sub>	200.3 千トン
	NO <sub>x</sub>	37.9トン
	SO <sub>x</sub>	9.35トン
水域への排出 <sup>※2</sup>	排出量	7,246千m <sup>3</sup>
廃棄物の排出	排出量(再資源化率)	60.5 千トン(95%)

※1 発電燃料含む

※2 河川、公共下水道含む

対象:キューピーグループ生産工場

## 地域への環境配慮

キューピーグループの生産事業所では、近隣にお住いの皆さまや、地域の環境に配慮して操業を行っています。

### 水質汚濁の防止

排水処理設備で浄化処理後の排水は自主管理基準を定めて水質等を管理し、地域ごとの基準を遵守しています。また、液体原料・燃料のタンクなどには漏洩防止設備を設置するとともに、万が一の公共水域への排出、地下浸透などを想定した訓練を行っています。

### 大気汚染の防止

ボイラーやコジェネレーション等は、適切な運転管理に努めるとともに、定期点検・メンテナンス、ばい煙測定を実施しています。また、ボイラー等の燃料についても、ばいじんや硫黄酸化物の発生が少ないガスへの転換を進めています。

### 騒音防止と臭気対策

排水処理や調理の際に発生する臭気対策として、工程改善や脱臭装置の整備を行っています。また、騒音防止のため、防音壁の設置や設備導入時の騒音評価、従業員や納入業者への指導等を実施しています。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み -
- 環境マネジメント >
- 資源の有効活用 >
- 地球温暖化の防止 >
- 自然環境の保全 >
- 商品における環境配慮 >
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 資源の有効活用

### 生産・商品設計における資源の有効活用の考え方

キューピーグループは、環境活動の3つの軸のひとつ「資源の有効活用」として、生産および商品設計に関する取り組みを進めています。生産では、廃棄物の削減と食品残さの有効活用に取り組んでいます。商品設計では、容器包装の軽量化、簡素化や、賞味期間延長による流通・消費段階における食品ロスの低減に取り組んでいます。

### 廃棄物排出量の削減

#### 廃棄物排出量の削減目標

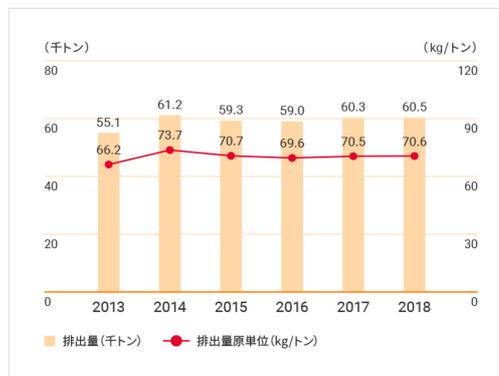
- ・ 総量および生産数量当たりの原単位 前年比減

キューピーグループは、製造工程における歩留まりの改善や、容器包装の改善などによる廃棄物の発生抑制を第一として取り組んでいます。

工場の主な廃棄物は、製造工程から排出される食品残さや包装資材のロスとしての廃プラスチック類、排水処理設備における排水処理後の汚泥などがあります。

2018年度は、キューピーグループ工場での廃棄物排出量は、総量60.5千トンで前年度より0.3%増加、生産数量1トン当たりの廃棄物排出量(原単位)は70.6kgで前年度より0.1%増加となりました。

#### 廃棄物排出量\*



対象: キューピーグループ生産工場

※ 卵殻粉などグループ内で再資源化している副産物を除く

### 再資源化の推進

キューピーグループは、卵殻の肥料化や野菜の未利用部位の飼料化などの食品残さの社内再生や、廃棄物等として外部に再資源化を委託することにより、工場が発生する廃棄物等の再資源化率100%(単純焼却・埋立て処分ゼロ)に取り組んでいます。

2018年度の再資源化率は95%となっています。また、再資源化率100%達成工場は、グループ生産82事業所中28事業所となっています。

## 卵の再資源化

キューピーグループでは、マヨネーズ以外にもさまざまなタマゴ加工品を生産しており、日本で生産される卵の約10%を使用しています。

「キューピー マヨネーズ」は、卵黄を使用し、卵白はかまぼこなどの水産練り製品や、ケーキなどの製菓の食品原料として使われます。

また、年間約2万8千トン(2018年度実績)発生する卵殻は土壌改良材やカルシウム強化食品の添加材などに有効活用し、100%再資源化しています。卵殻膜は、化粧品やうまみ調味料などへの高度利用に取り組んでいます。



タマゴの有効活用

### 卵殻の施肥による米の食味向上

キューピーグループ(国内)では、年間約2万8千トン発生する卵殻を有効活用しています。特に、卵殻の主な用途である肥料としての価値を向上させるための研究を積極的に行っています。

2016年度に、卵殻を水稻に施肥することで、米の物性・食味が向上することを証明しました。この結果を、第63回日本食品科学工学会にて発表し、大学との共同研究に発展しました。今後は、大学との共同研究により食味向上のメカニズムを解明していきます。また、大規模農家にご協力いただき、圃場での実証試験を行なっています。



## 野菜の再資源化

キューピーグループでは、サラダ・惣菜の加工時に生じる野菜の芯やへた、外葉や皮などの未利用部位の有効活用に取り組んでいます。

2017年度、カット野菜工場の株式会社グリーンメッセージでは、これまで事業規模では難しいとされたキャベツ・レタスの葉物野菜の飼料化に成功しました。東京農工大学とキューピーの共同研究※で、この飼料を与えた乳牛は乳量が増加することが報告されています。

今後も、野菜の未利用部位をより有効に活用する方法を探求します。

※ 日本畜産学会第124回大会(2018年3月)発表

▶ 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 キューピーグループが内閣総理大臣賞を受賞

▶ 第6回「食品産業もったいない大賞」キューピーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞



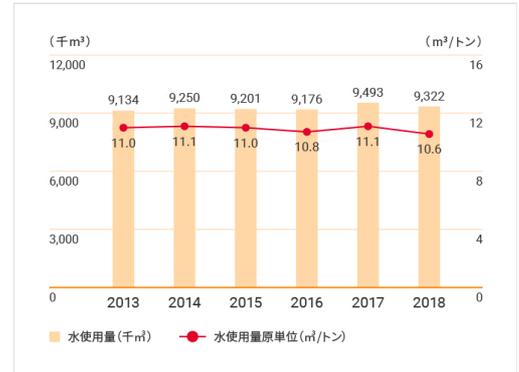
野菜の未利用部位の有効活用(例:キャベツ)

## 水資源の効率的活用

キューピーグループでは、製造の各段階における節水と排水の浄化を徹底しています。また、将来の水資源のひっ迫に備えて、新たに高度処理技術などを導入して、再生水の利用による取水・排水の削減を推進しています。

2018年度、キューピーグループ工場の水使用量は、総量9,322千m<sup>3</sup>で前年度より1.8%減少、生産数量1トン当たりの水使用量(原単位)は10.9m<sup>3</sup>で前年度より2.0%の減少となりました。

### 水使用量



### 高度処理水の利用

新設事業所においては、人と環境にやさしい工場づくりの一環として、排水の高度処理システムを導入し、節水に取り組んでいます。

#### 株式会社旬菜デリ昭島事業所

2012年11月に生産を開始した株式会社旬菜デリ昭島事業所では、生産ラインからの排水の再利用に向けて、膜処理(RO)技術を活用した設備を導入しています。一日平均160トンの純水を再生し、加工場内のトイレや樹木への散水、床の洗浄水、屋根散水、空調設備の室外機冷却などに使用しています。



中空糸膜モジュールユニット



中空糸膜モジュールユニット(散気中)

#### キューピータマゴ株式会社 飯能工場

2015年3月に生産を開始したキューピータマゴ株式会社 飯能工場では、中空糸膜排水処理設備の処理水を活性炭やRO膜で浄化した後、中水として工場のトイレの洗浄水や冷凍機の室外機の冷却などに再利用しています。室外機の省エネ対策などに向けて、今後も再利用の範囲を広げていく予定です。



活性炭塔



RO膜ユニット

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み -
- 環境マネジメント >
- 資源の有効活用 >
- 地球温暖化の防止 >**
- 自然環境の保全 >
- 商品における環境配慮 >
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 地球温暖化の防止

### バリューチェーンを通じたCO<sub>2</sub>削減活動

地球温暖化の防止は人類共通の課題です。キューピーグループでは地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>排出量の削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階において、省エネルギーやエネルギー転換など積極的に取り組んでいます。

### バリューチェーンにおけるCO<sub>2</sub>排出量(2018年度)

スコープ	CO <sub>2</sub> 排出量(千トン-CO <sub>2</sub> )
スコープ1 燃料	78.7
スコープ2 購入電力	124.6
スコープ3 輸送 カテゴリー4	34.2

スコープ1,2 国内生産事業所・オフィス  
 スコープ3 省エネ法の定期報告の対象2社

### 各部門における取り組み



**生産における取り組み**  
 CO<sub>2</sub>の削減、省エネルギーの推進を行い、地球温暖化防止に取り組んでいます。



**物流における取り組み**  
 物流システム事業の中核を担う株式会社キューソー流通システムでは、CO<sub>2</sub>削減やエコドライブに取り組んでいます。



**オフィスにおける取り組み**  
 省エネルギー・廃棄物削減などによる環境負荷低減に取り組んでいます。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み -
  - 環境マネジメント >
  - 資源の有効活用 >
  - 地球温暖化の防止 >**
  - 自然環境の保全 >
  - 商品における環境配慮 >
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 生産における取り組み

### 生産部門のCO<sub>2</sub>排出削減

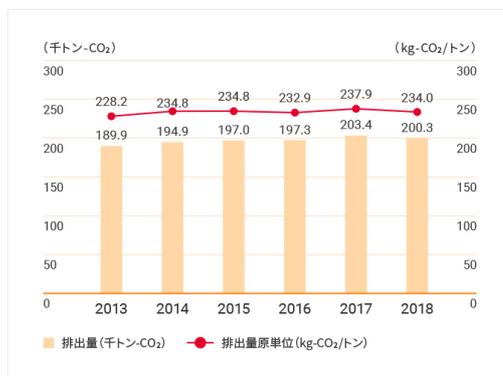
キユーピーグループでは、製造工程での効率改善、設備の導入などによる省エネルギーを基本として、A重油から都市ガス・天然ガスへの燃料転換、コジェネレーション(熱電併給)や太陽光発電の利用を進めています。また、グループ事業所での優れた取り組み事例を共有・展開することによってCO<sub>2</sub>排出削減に努めています。

#### 生産部門のCO<sub>2</sub>排出削減目標

- ・ 総量 前年比減
- ・ 生産数量あたり原単位 前年比1%減

2018年度、キユーピーグループ生産工場でのエネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、総量200.3千トンで前年度より1.5%減少、生産数量1トン当たりのCO<sub>2</sub>排出量(原単位)は234.0kgで前年度より1.7%減少となりました。

#### CO<sub>2</sub>排出量



対象:キユーピーグループ生産工場

#### CO<sub>2</sub>量換算に用いた係数(2013年度から固定)

地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(2002年12月改正)、エネルギー源別標準発熱量表(2002年2月資源エネルギー庁)および、電気事業者別の排出係数(2011年度実績、経済産業省・環境省公表)より

#### 購入電力

0.491kg-CO<sub>2</sub>/kWh

**A重油**:2.710kg-CO<sub>2</sub>/L

**都市ガス(13A)**:2.188kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>

**LPG**:6.007kg-CO<sub>2</sub>/m<sup>3</sup>

### 生産部門の省エネルギーの推進

キユーピーグループでは、生産事業所の各工程にエネルギー測定装置を設置するなど「エネルギー使用の見える化」を進め、設備運用改善・メンテナンスの徹底、省エネ型機器の導入をグループ全体で展開して、省エネルギーを推進しています。

2018年度、キユーピーグループ生産工場のエネルギー使用量は熱量換算3,918千GJで前年度より1.5%減少しました。生産数量1トン当たりのエネルギー使用量(原単位)は熱量換算で4.58GJとなり、前年度より1.7%減少しました。

## 再生可能エネルギーの活用

キューピーグループでは、2013年3月の「キューソー流通システム」松戸営業所・伊丹第三営業所への太陽光発電システム設置を皮切りに、再生可能エネルギー普及に向けた取り組みを開始しました。太陽光発電システムは10拠点到導入され、発電量は4,500MWh、これはグループ生産部門の電力使用量の約2%に相当します(2018年11月現在)。また、アラハタでは、2005年より地中冷熱利用による熱交換冷却システムを活用しています。



五霞工場に新設した太陽光発電設備



キューピーグループの太陽光発電導入状況

[物流における取り組み](#) >

[オフィスにおける取り組み](#) >

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み -
  - 環境マネジメント >
  - 資源の有効活用 >
  - 地球温暖化の防止 >
  - 自然環境の保全 >
  - 商品における環境配慮 >
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 物流における取り組み

### 物流部門のCO<sub>2</sub>排出削減

キューピーグループでは、お取引先やグループ会社と連携し、原料の輸送から商品の配送にいたるまで、すべての輸配送で環境負荷低減に取り組んでいます。  
 2018年度は、輸配送量に対しCO<sub>2</sub>排出量を削減することができました。

#### キューピー

	2017年度	2018年度	前年度比
輸配送量(千トンキロ)	154,240	144,842	93.9%
CO <sub>2</sub> 排出量(トン)	24,956	23,220	93.0%

#### キューピータマゴ

	2017年度	2018年度	前年度比
輸配送量(千トンキロ)	50,873	51,992	102.0%
CO <sub>2</sub> 排出量(トン)	10,729	10,945	102.0%

※ 省エネ法の定期報告の対象2社について報告しています。

### 輸配送効率化の推進

輸配送距離の短縮化と輸配送ロット効率の向上(=積載効率の向上)により輸配送効率化に取り組んでいます。

- ・ 配送地域に応じた生産拠点の最適化
- ・ 輸送・配送ロット効率の向上による配送頻度の削減
- ・ 中継輸送の抑制
- ・ 商品在庫の適正化による外部倉庫の使用抑制

## 輸送事業者としてのCO<sub>2</sub>排出量の削減活動

国内における食品物流最大手であり、キューピーグループの商品の保管・輸配送業務を担っているキューソー流通システムでは、空車情報管理により空車を削減するとともに、共同配送の推進により積載効率を向上させています。また、1台で3温度帯(冷凍・チルド・常温・加温)の中で最大3温度帯が選択可能)に対応するフレキシブル車両「FCD3+1」をメーカーと共同開発をおこない、配送の効率化を図っています。



共同配送の効率化を実現するフレキシブル車両の導入

## エコドライブの推進

2004年から本格的にデジタルタコグラフ<sup>※</sup>を導入し、現在、運送車両の90%以上の車両に装着しています。デジタルタコグラフでの評価データをもとにドライバーへの指導を行い、安全運転の強化、事故未然防止、マナー・燃費の向上に取り組んでいます。

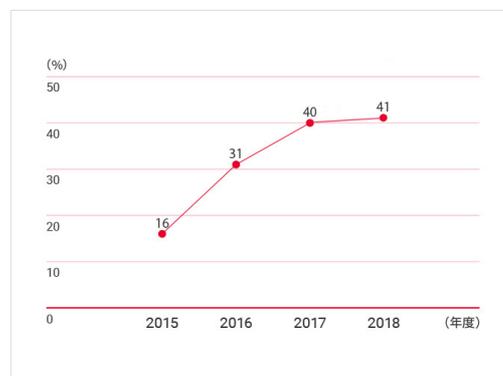
※ デジタルタコグラフ: 運転記録(距離・時間・速度・温度など)の装置

## モーダルシフトの取り組み

専用31フィートコンテナ8基を導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフト<sup>※1</sup>を推進しています。モーダルシフト化率<sup>※2</sup>は2015年度16%、2016年度31%、2017年度40%、2018年度41%となっています。

※1 モーダルシフト: 500km以上の長距離トラック輸送を鉄道・船舶でのコンテナ輸送へ転換すること

※2 モーダルシフト化率: 500km以上の輸送トン数に対し、鉄道や船舶による輸送トン数の比率



鉄道・船舶積載用31フィートコンテナを6基導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフトを進めています

モーダルシフト化率の推移

生産における取り組み

オフィスにおける取り組み

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み -
  - 環境マネジメント >
  - 資源の有効活用 >
  - 地球温暖化の防止 >
  - 自然環境の保全 >
  - 商品における環境配慮 >
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## オフィスにおける取り組み

### オフィスのCO<sub>2</sub>排出削減

キューピーグループは、2013年10月の仙川キューポート新設を皮切りに、本社・研究部門を中心としたオフィス事業所の集約・移転を進めています。省エネ設計・設備の導入とともに、オフィス事業所間の連携により、省エネ性能を十分に発揮するためのノウハウの共有や運用改善、改修を継続的に行っています。

#### 渋谷オフィスでの取り組み

キューピーグループの渋谷オフィス(渋谷董友ビル)は、ビル全体を2重のガラスが覆い(ダブルスキン)、ガラス間を自然換気することで高い断熱性を実現しています。また、高効率空調機やLED照明といった省エネ設備も導入しています。

これらの環境設計により、建築総合環境評価システム「CASBEE」の総合評価Aランクに認定されています。また、グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業<sup>\*</sup>に採用されています。



2重ガラスが覆う(ダブルスキン)外観

<sup>\*</sup> グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業:環境省が公募した、地球温暖化対策のための設備投資の事業に係る融資に対する利子の一部を補給する対象となる事業。

#### AI活用による空調の運用最適化

仙川キューポートでは、吹き抜けを活用した自然換気システム、コージェネレーションシステム、太陽光発電、LED照明などを導入しています。省エネ設計性能を最大化するため、設備メーカーとの連携を深めるとともに、仙川キューポートに勤務する多くの社員に聞き取りなどを行うことで、運用精度の向上を図っています。

さらに、株式会社日立製作所との協働により、クラウドサーバ上のAIを利用して、気象予報データと空調機器(冷凍機、ヒートポンプ、ガスボイラー、コージェネレーション発電)の稼働状況などに基づく最適化運転パターン分析を実現、運用を検証しました。

導入前に比べ、空調機器のエネルギー使用量(原油換算)を夏季・冬季で11~12%、中間期(春季)で37%削減しました。AI活用により、さらなる最適化をめざします。



自然換気システム

## グループ会社の取り組み

キューソー流通システム本社ビルでは、通路などのLED照明をセンサーで自動制御するなどの省エネ施策を導入しています。また、テレビモニター(サイネージ)を設置し、各フロアでの電気使用量をリアルタイムで表示するなど、「見える化」により、従業員の意識づけを行っています。



フロア電力消費量・金額を表示するサイネージ

生産における取り組み

物流における取り組み

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み -
- 環境マネジメント >
- 資源の有効活用 >
- 地球温暖化の防止 >
- 自然環境の保全 >**
- 商品における環境配慮 >
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 自然環境の保全

### 自然環境の保全の考え方

キユーピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っています。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれたい」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努め、持続可能な社会を次世代につないでいきます。

### 工場における生物多様性保全

富士吉田キユーピーは、国立公園内に立地しています。保護地域内や隣接地域でもあるため、敷地内で自然の整備や水資源を涵養する緑地面積の確保、日照に恵まれた立地を活かし、再生可能エネルギーを取り入れるなど特に自然保全に向けた取り組みを行っています。

今後は、事業活動と自然環境の関連について評価し分析するとともに、地域の皆さまとの情報共有を通じて、取り組むべき活動を策定し実施していきます。



富士吉田キユーピーに設置した太陽光パネル

### キユーピーの森

キユーピーグループは、2007年9月より山梨県富士吉田市の富士北麓にある森林「キユーピーの森」で、水源涵養を目的とした森林保全活動を開始しました。社員とその家族から参加者を募り、間伐・植樹活動を中心に、森林散策、地元食材を用いた料理体験などを行ってきました。第3期となる2016年度からは、森林保全活動とともに、周辺環境が抱える諸問題について参加者に知っていただくことを目的に、専門家から自然環境や生息する生き物について学ぶ講座も開設しました。

2018年度は、間伐材の資源循環利用を目的に木製スプーンやコースターづくりなどの木材加工を体験して、自然の恵みとその活用法について学びました。



参加者集合写真



間伐の様子

## 霧多布湿原ナショナルトラストへの支援

国内3番目の面積をもつ霧多布湿原は、その価値が国際的に評価され、1993年にラムサール条約に登録されています。

キュービーグループは、この貴重な自然を保全する活動を行う認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストを資金面で支援するとともに、2014年からは年1回社員が参加し、湿原を中心とした保全活動を実施しています。

2018年度は、湿原に隣接する小学校のスケートリンク場として使われていた人工池「はぐくみの池※」周囲の下草刈りおよび湿原の木道整備を実施しました。

※ はぐくみの池:小学校閉鎖により埋め立て予定でしたが、水鳥たちが飛来することから霧多布湿原ナショナルトラストで保全を開始。キュービーグループの支援活動に対する評価と今後への期待から、池の命名権を授与され、2016年社内公募の結果、命名されました。2017年度の生態調査により、環境省レッドリストの絶滅のおそれのある種であるババアメンボなどの棲息を確認しています。



木道整備の様子



参加者集合写真(はぐくみの池にて)

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み -
- 環境マネジメント >
- 資源の有効活用 >
- 地球温暖化の防止 >
- 自然環境の保全 >
- 商品における環境配慮 >**
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 商品における環境配慮

### 容器包装の軽量化・簡略化

商品の容器包装は、商品の品質を保ったまま、おいしく食べていただくために欠かせないものですが、生産する際にエネルギーを消費し、使用後は廃棄物となります。キューピーグループでは容器包装の軽量・簡素化を、継続的に活動しています。

#### 容器包装選定の基本方針

- ・ 食品の容器として適切であること
- ・ 環境汚染物質を発生させないこと
- ・ 省資源・省エネルギーに努め、多重包装はなくすこと
- ・ リサイクルへの適正を向上させ、促進すること
- ・ 環境に配慮した包装技術の確立に努めること

#### 配送陳列用紙箱の簡略化

サラダクラブシリーズで新たに採用した「シェルフ・レディ・パッケージ」は、開けやすくそのまま店頭で陳列できるカートンです。従来の内箱・段ボールの2重構成から内箱を廃止し、段ボールのみとしたことで、製造面、配送面においてCO<sub>2</sub>排出量を76.8%削減することができました。



## 賞味期間延長によるロス削減

食品ロスの削減は、世界的な課題となっています。この食品ロスの中には、家庭内ストックの賞味期限切れによる廃棄分も含まれています。キューピーグループでは、製法や容器包装の改良による賞味期間延長を通じて、食品ロス削減に貢献していきます。

### マヨネーズの賞味期間延長

マヨネーズを長期間保存した場合、酸素などの影響により品位が低下することがあります。「キューピー マヨネーズ」は発売以来、酸素を通しにくい多層容器採用や、植物油中に溶け込んでいる酸素を限りなく取り除いた「おいしさロングラン製法」の導入、製造工程中の酸素レベルの低減など、製法・容器でさまざまな工夫をしてきました。また、「キューピーハーフ」では、配合の変更により品位を向上させることに成功しました。これにより、「キューピー マヨネーズ (50g～450g)」「キューピーハーフ」の賞味期間を、従来の10カ月から12カ月に延長することができました。



### パッケージサラダの消費期限延長

株式会社サラダクラブでは、「野菜本来の抵抗力を活かし、なるべくダメージを与えないように洗浄すること」と「10°C以下の低温流通管理(コールドチェーン)」を両立させ、パッケージサラダの鮮度を維持する技術の確立に取り組んできました。

「野菜にやさしい製法(特許4994524号)」取得後、約4年間の検証を重ね、野菜へのダメージを更に抑えながら洗浄する技術を確立しました。その結果、「千切りキャベツ」の消費期限を1日延長することができ、加工日に加え5日間となります。

消費期限延長により、販売店では売れ残りによる廃棄ロスや売り切れによる販売機会ロスが低減できます。また、お客様には必要な時にまとめてご購入いただきやすくなります。



CSR

従業員への取り組み

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み -
- ダイバーシティへの取り組み >
  - 人材育成への取り組み >
  - 健康経営・労働安全衛生への取り組み >
  - 働き方改革・ワークライフバランスへの取り組み >
  - 新たな挑戦への取り組み >
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

私たちは、新たな挑戦で飛躍的な成長をめざしています。そのためには、多彩な経験を持つ従業員の活躍が欠かせません。多様な人材が、理念を大切にしながら、力を合わせていることがキューピーグループの強みであり、特長です。多様な意見やものの見方、考え方がグループ内に広がり、グループ協働にもつながっていきます。一人ひとりがやりがいを持って働き続け、「**楽業偕悦**」を実感できるグループであり続けるために、キューピーグループらしいダイバーシティ推進に取り組んでいきます。



➤ **ダイバーシティへの取り組み**

多彩な人材が活躍できるよう、ダイバーシティの推進を行っています。



➤ **人材育成への取り組み**

キューピーグループは研修や自己啓発を通じたキャリア形成を支援しています。



➤ **健康経営・労働安全衛生への取り組み**

キューピーグループは、2016年度より「健康経営」に取り組んでいます。



➤ **働き方改革・ワークライフバランスへの取り組み**

従業員一人ひとりが成長し豊かな人生を送ることを大きな目的としたワークライフバランスの実現に取り組んでいます。



➤ **新たな挑戦への取り組み**

イノベーション創出のための制度や、ワークスタイル変革といった新しい風土作りに取り組んでいます。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み -
- ダイバーシティへの取り組み >
- 人材育成への取り組み >
- 健康経営・労働安全衛生への取り組み >
- 働き方改革・ワークライフバランスへの取り組み >
- 新たな挑戦への取り組み >
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## ダイバーシティへの取り組み

### ダイバーシティへの考え方

キユーピーグループは、ダイバーシティを成長戦略の土台と捉え、世界で働く従業員一人ひとりの個性や成長する意欲を尊重し、個々の能力を最大限に発揮できる企業風土づくりに努めています。

すべての従業員がダイバーシティの担い手であること、対話やお互いを理解する姿勢などダイバーシティを身近に感じることを大切にして、次の3つを掲げて取り組みを進めています。

- 1.一緒に働いている仲間一人ひとりの声に耳を傾けましょう
- 2.自分の意見を積極的に発言し、活発な議論をしましょう
- 3.さまざまな場に参加し、いつもと違うメンバーと交流の機会を作りましょう

### ダイバーシティの推進状況

キユーピーグループでは、ダイバーシティの推進により、「ダイバーシティを受容する企業風土の醸成」と「グループ従業員一人ひとりの能力の発揮」の実現をめざし取り組みを進めています。

「ダイバーシティを受容する企業風土の醸成」に向けては、ダイバーシティに対する理解を進める各種啓発活動を始めとして、働き方改革への取り組み、従業員それぞれの働きやすさを実現する制度の拡充や改定などを実施しています。

「グループ従業員一人ひとりの能力の発揮」に向けては、女性管理職の育成を始めとして、外国人、シニア、障害者を含めたすべての従業員の能力の発揮に向けた施策を展開しています。

2018年度時点でのグループ女性管理職比率は7.1%となっており、キユーピー単体では、2018年度女性管理職比率8.2%を2021年度12%まで引き上げるべく、女性総合職の育成施策や、「転居を伴う異動」のない総合職制度導入による地域職から総合職への転換を促進しています。

## ダイバーシティを受容する企業風土の醸成

### ダイバーシティ壁新聞「なないろ」の発行

キューピーグループのダイバーシティの考え方や関連知識をわかりやすい言葉とイラスト等で紹介しています。

オフィスや休憩場所など気軽に読める場所に掲示し、経営層の考え方やコメントを伝えることで、従業員のダイバーシティ推進の意義に対する理解を促進しています。



2017年7月に創刊し、年3回発行  
キューピーグループの各事業所で掲示

### ダイバーシティセミナーの開催

従業員が多様性を理解し、受け入れるための取り組みとして、「LGBT」セミナーなど社内外の講師によるさまざまなセミナーを実施しています。従業員一人ひとりが、「ダイバーシティ」に対する新たな知識と気づきを得ることで、互いの個性を認め合い、成長を促進し合える企業風土づくりを目的としています。

## グループ従業員一人ひとりの能力の発揮のために

### グループ女性管理職勉強会

グループの女性管理職が一堂に会し、役員による講義やワーキンググループ活動を実施しています。管理職として必要な知識を深め、女性管理職のネットワークづくりを図るとともに、ありたい姿とそのステップ、また自分らしいマネジメント方法の模索を通して、管理職として貢献できる自信を身につけていくことをめざしています。

### 若手地域職向けステップアップ研修

グループの男女若手地域職社員向けに選抜型育成研修を実施しています。当社グループの経営戦略や理念、事業、生産拠点を学ぶことで、自身の成長意欲を高め、総合職転換や管理職に向けた成長機会としています。

## グローバル研修の実施

事業の持続的な成長に必須となる海外マーケットの開拓に向け、文化や背景が異なる国で新たなビジネスを創出する力を養うべく、2017年より若手から中堅社員を中心に、アジア地域での海外研修を実施しています。

また海外関連会社では、それぞれの国で採用された管理職社員を中心に、現地でのスキル研修や日本での理念・専門研修等を実施しており、多くの従業員が参加しています。

※アメリカ2社、中国3社、タイ、マレーシア、ベトナム、インドネシア、ポーランドの計10社



日本で行われた、海外グループ各社の従業員を集めた研修の様子

## 障害者雇用

### 障害者雇用への考え方

キューピーグループでは、障害のある方も他の社員と同様に、個々の力を発揮し、働く喜びや生きがいを実感できる環境づくりをめざしています。

その一助として、障害者雇用のグループ適用を行わず、キューピー単体、特例子会社を含むグループ各社それぞれが各地域で雇用を行うことで、幅広い地域での多様な雇用創出に繋がっています。

2018年12月1日現在の国内キューピーグループ(物流システム事業を除く)の障害者雇用率は3.54%です。

### 障害者雇用率の推移(2018年12月1日現在)

2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
2.50%	2.69%	3.02%	3.30%	3.54%

※対象：国内キューピーグループ(物流システム事業を除く)

### グループ会社における取り組み

タマゴ事業やサラダ・惣菜事業の生産事業所では、積極的に障害者雇用を進めています。キューピータマゴは、全国26カ所のすべての工場における障害者雇用を意欲的に行っており、障害者雇用率は6.01%、成田工場では15.93%を超えています(2018年12月1日現在)。また、特例子会社であるキューピーあいでは、館内物流、清掃、販促物作成・発送など多岐にわたる業務を展開し、障害者雇用を推進しています。

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み -
- ダイバーシティへの取り組み >
- 人材育成への取り組み >
- 健康経営・労働安全衛生への取り組み >
- 働き方改革・ワークライフバランスへの取り組み >
- 新たな挑戦への取り組み >
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

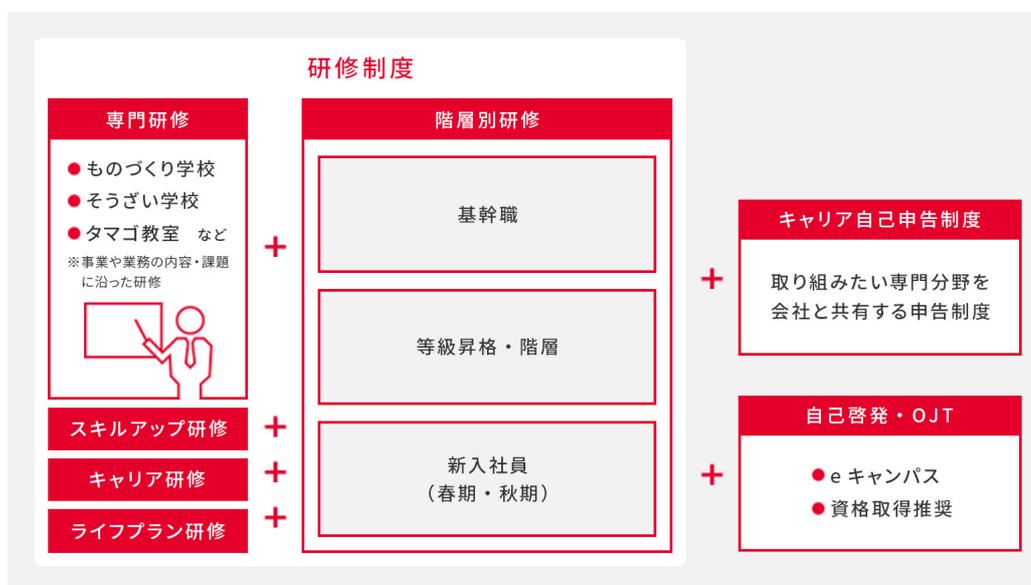
## 人材育成への取り組み

### 人材育成の考え方

キユーピーグループは、社是「楽業偕悦」の考え方のもと、日々の取り組みの中で社員一人ひとりの成長を後押しするとともに、研修や自己啓発を通じたキャリア形成を支援しています。

### 2018年度の研修参加者数

人材育成センター主催	2,757名
ものづくり学校	883名
そうざい学校	600名
各部門主催	391名
人事本部主催	250名
合計	4,881名



キユーピーキャリア支援体系図

## プロセスを重視した人事評価制度

---

グループ経営戦略の遂行と、一人ひとりのさらなる成長を両立するための評価制度を導入しています。日々の取り組み(プロセス)の価値を大切にしつつ、以下の3点を強化していきます。

- 1.一人ひとりの挑戦と業績の達成を後押しすること
- 2.OJTを活発化し、成長の実感が高まること
- 3.キューピーグループの理念の大切さを実感し、実践していくこと

プロセスを重視した評価制度を軸に、グループ協働で、キューピーグループらしい成果につながる行動を実践していくことで、一人ひとりの成長につなげていきます。

## 褒賞制度

---

キューピーでは、積極的に挑戦し学習する風土づくりと、従業員のキャリア形成を支援する制度の一つとして、資格取得賞をはじめとする各種褒賞規程を定めています。資格取得賞の対象となる資格・検定は定期的に見直しを行っています。

- ・ 資格取得賞
- ・ 社長賞
- ・ 発明賞
- ・ キューピー論文賞
- ・ 新規ビジネスの社内公募制度 (Kewpie Start Up Program)

## キャリア支援

---

キューピーグループでは、専門研修や自己啓発プログラムを充実させて一人ひとりの成長の後押しをするとともに、仕事上の夢や進路を会社や上司と共有する「キャリア自己申告制度」によって、キャリアの実現を支援しています。また、「理念研修」などの人材育成プログラムについては、パート社員・契約社員を含むグループ全従業員を受講対象として実施しています。

## 従業員の雇用に関する各種データ

### 従業員の状況

		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
社員・嘱託社員	男性	1,437名	1,421名	1,385名	1,381名	1,388名	1,382名
	女性	1,143名	1,128名	1,135名	1,129名	1,135名	1,126名
パートその他 (期中平均)	男性	271名	305名	314名	303名	270名	243名
	女性	528名	613名	649名	623名	583名	531名
平均年齢	男性	41.5歳	41.7歳	41.6歳	42.2歳	42.5歳	43.0歳
	女性	31.9歳	32.6歳	33.4歳	34.3歳	35.2歳	35.9歳
平均勤続年数	男性	16.1年	16.2年	16.3年	16.8年	17.1年	17.5年
	女性	8.2年	8.8年	9.3年	10.0年	10.7年	11.3年

対象：キューピー ※平均年齢、平均勤続年数はキューピー社員

### 従業員数の推移

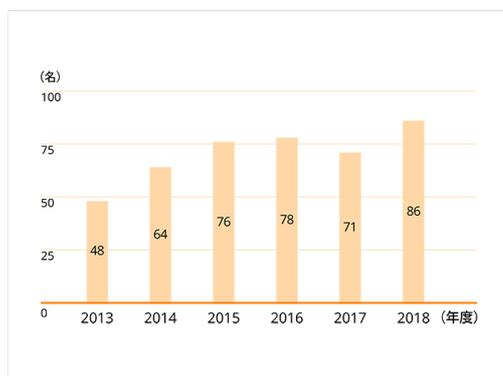
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
従業員数	3,379名	3,467名	3,483名	3,436名	3,376名	3,282名
常用雇用者数	2,580名	2,549名	2,520名	2,510名	2,523名	2,508名
平均臨時雇用者数	799名	918名	963名	926名	853名	774名
グループ従業員数	23,914名	24,773名	24,997名	25,245名	26,380名	24,651名
常用雇用者数	12,598名	12,933名	13,478名	14,095名	14,924名	14,808名
平均臨時雇用者数	11,316名	11,840名	11,519名	11,150名	11,456名	9,843名

### 新規採用者数

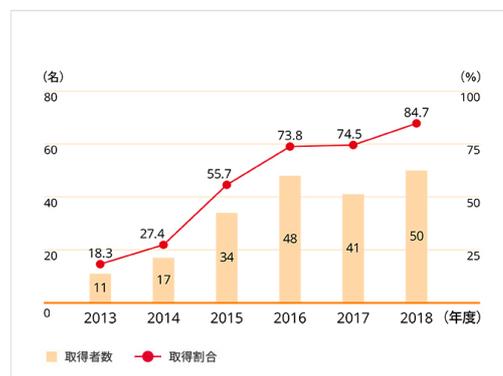
2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
67名	55名	57名	41名	49名	50名

対象：キューピー総合職

## 育児休業取得状況



女性従業員



男性従業員

対象: キューピー

※ 男性は育児休業を取得した年ではなく、子どもが生まれた年で算出した。

※ 取得割合: 当年に配偶者出産した方で、子どもが2歳になるまでに育児休業を取得された方の割合。

※ 2015年、2016年に配偶者が出産し、2017年に育児休業を取得した方は子どもが生まれた年に追加しているため、昨年と数字が変わっている。

CSR

健康経営・労働安全衛生への取り組み

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み -
  - ダイバーシティへの取り組み >
  - 人材育成への取り組み >
  - 健康経営・労働安全衛生への取り組み >**
  - 働き方改革・ワークライフバランスへの取り組み >
  - 新たな挑戦への取り組み >
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

グループ健康経営の考え方

キューピーグループは、2016年度より「健康経営®」※の取り組みを開始し、「『おいしさ・やさしさ・ユニークさ』をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします」というグループ理念のめざす姿のもと、グループで働く一人ひとりの健康のための取り組みを進めています。キューピー単体では、2019年2月21日に優良な健康経営を実践している法人として「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」の認定を受けました。この制度は2017年にスタートし、キューピーが認定を受けるのは昨年に続き、2回目となります。2019年度からの3年間では、①健康管理体制の構築②からだの健康③こころの健康という切り口で活動を行い、グループ各社・各事業所を含めて更なる健康意識の醸成を進めます。

※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

基盤創り

従業員の定期健康診断結果のデータを元にさまざまな健康増進活動に活かす為に健康管理システムを導入しました。2019年度も定期健康診断受診率100%および二次健診受診勧奨100%の徹底、がん検診受診の啓蒙を行います。また、全国の保健スタッフ会議を開催し、グループ健康管理のルール作りを進め、グループ全体での産業保健体制を充実させていきます。

風土創り

健康意識の共有と健康保持・増進活動を進めてきました。

ヘルスアップキャンペーンの参加推進

キューピー・アヲハタ健康保険組合では毎年5~6月にかけてヘルスアップキャンペーンを実施しております。生活習慣改善を呼びかけるこの活動を、2018年度は事業所対抗戦を取り入れて、グループ全体で会社をあげて取り組んだ結果、対象者の57%にあたる7,631名が参加し、その約8割の人が自分が掲げた目標を達成しました。キャンペーン期間中だけでない取り組みを2019年度も推進します。

健康お役立ち情報の発信

2018年度より、毎月の衛生委員会や職場朝礼で活用できるように「健康お役立ち情報」を全事業所へ向けて発信しています。テーマは「骨密度」「心の健康」「熱中症」等、季節や従業員の興味に合ったものを選定しています。資料はプレゼンテーション資料で解説文をつけ、また掲示でも伝わる内容で作成しています。

## 私の健康宣言

2016年度より、キューピー役員が「私の健康宣言」を行い、グループ内健康経営サイト(2016年2月オープン)に掲載しました。

2017年度は、グループ各社社長へ展開するとともに、仙川・渋谷のオフィスでは、従業員一人ひとりの「私の健康宣言」を掲示しました。2018年度は「私の健康宣言」をグループ各事業所へ展開し、事業所毎に独自の掲示を実施しました。2019年度は統一の宣言書で9,200枚の配付が完了しています。健康に関する会話が増えていくことを願っています。

## 食・運動のイベント

社員食堂がある一部の事業所では、野菜摂取量が多い従業員の表彰や、食にまつわる健康情報の発信を行っています。また、運動習慣への気付きの一環として、歩き方講座や、身体能力テストなどの運動イベントを実施し、経営層を含む従業員が参加しました。



歩き方講座



身体能力テスト

## 労働安全衛生に関する考え方

キューピーグループの生産事業所では、キューピー生産本部部長の直轄である「安全担当」が中心となり、従業員が健康で安全な職場生活を送ることができる快適な職場環境づくりに努めています。主な活動として、次の3つを実施し、災害の未然防止と安全意識向上に努めています。

1. 全生産工場の安全監査(国内78カ所、海外12カ所)
2. グループ安全会議(毎年6月開催)
3. 災害情報の水平展開

## グループ一体となった予防安全の取り組み

キューピーグループでは、2004年より予防型安全活動を推進しています。次の3つを実施することにより、リスクを許容可能なレベルまで下げ、安全第一の風土構築をめざしています。

1. リスクアセスメントの実施
2. 安全教育手順書による教育
3. QBSS(キューピー・アラハタ安全基準)点検と是正

休業災害発生件数の推移(各年度4月末集計)

	2013年 度	2014年 度	2015年 度	2016年 度	2017年 度	2018年 度
休業災害件数	13	15	12	7	17	24
度数率 <sup>※1</sup>	0.56	0.72	0.56	0.35	0.76	0.99
強度率 <sup>※2</sup>	0.024	0.035	0.018	0.013	0.027	0.034

対象: キューピーグループ国内工場

※1 度数率=労働災害による死傷者数/延べ実労働時間×1,000,000

※2 強度率=労働損失日数/延べ実労働時間×1,000

## CSR 働き方改革・ワークライフバランスへの取り組み

CSRトップ	>	
トップメッセージ	>	<b>働き方改革・ワークライフバランスについての考え方</b>
ガバナンス	+	キユーピーグループでは、一人ひとりが成長し豊かな人生を送ることができるよう、働き方改革を通じたワークライフバランスの実現を推進しています。
CSRの基本的な考え方	>	
重点課題	>	
CSRトピックス	+	<b>働き方改革の取り組み</b>
安全・安心への取り組み	+	2017年度から「働き方改革チャレンジ活動」として、働きやすい環境づくりと生産性向上に向けて、各部門が目標を掲げて取り組んでいます。
社会への取り組み	+	
環境への取り組み	+	
従業員への取り組み	-	<b>キユーピーの基本施策（各本部の状況にあわせて目標設定）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li> <span style="display: inline-block; width: 1em; height: 1em; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span>                     ダイバーシティへの取り組み &gt;                 </li> <li> <span style="display: inline-block; width: 1em; height: 1em; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span>                     人材育成への取り組み &gt;                 </li> <li> <span style="display: inline-block; width: 1em; height: 1em; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span>                     健康経営・労働安全衛生への取り組み &gt;                 </li> <li style="background-color: #f0f0f0;"> <span style="display: inline-block; width: 1em; height: 1em; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span>                     働き方改革・ワークライフバランスへの取り組み &gt;                 </li> <li> <span style="display: inline-block; width: 1em; height: 1em; border: 1px solid black; margin-right: 5px;"></span>                     新たな挑戦への取り組み &gt;                 </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー残業デーの設定</li> <li>・17時までに会議終了</li> <li>・社内の17時以降の問い合わせは行わない</li> <li>・オフィスの一斉消灯</li> </ul> <p>一斉消灯時間の設定などの基本施策とあわせて、フレックスタイム、在宅勤務の導入など、それぞれの職場にあった施策を実施することで、効率的に時間を使う意識や風土が醸成されました。活動の結果、残業時間は、昨年対比10.5%削減されました。</p>
対話と評価	+	<b>フレキシブルな働き方</b>
開示方針	>	フレックスタイム制や時差勤務などによる時間の有効活用、サテライトオフィスや在宅勤務など場所に捉われない働き方を推進しています。
各種報告書	>	そのために、テレビ会議システムやサテライトオフィス利用者へのパソコンの貸し出しなど、環境の整備も進めています。
GRIスタンダード対照表	>	<b>オフィスの生産性向上</b>
社会・環境活動(CSR)の歴史	>	会議の高質化、パソコンスキル勉強会、改善事例の共有などの取り組みを進めています。会議の高質化は、必要な会議の精査、時間の短縮に加えて、事前に資料を送付するなど「会議5カ条」を定めて会議室に掲示し、より効果的になるよう取り組んでいます。

## 出産・育児支援の取り組み

キューピーの本社や工場、支店では、育児休業復帰前にセミナーおよび上司との面談を行い、復帰後の働き方やキャリア形成について上司と共有するとともに、上司から復帰者へ期待を伝えています。男性の育児休業も推奨しており、2018年度の取得率は84.7%となっています。



育児休業のしおり



育児支援サイト

CSR

新たな挑戦への取り組み

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み -
- ダイバーシティへの取り組み >
- 人材育成への取り組み >
- 健康経営・労働安全衛生への取り組み >
- 働き方改革・ワークライフバランスへの取り組み >
- 新たな挑戦への取り組み >**
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

キューピーグループは、マヨネーズやドレッシング、さらには卵や野菜まで、幅広い研究開発を推進するとともに、イノベーションを創出する制度やワークスタイル変革に向けた取り組みを進めることで、新たな挑戦を生み出す風土づくりを積極的に行っています。外部の力も活用しながらグループ協働で新たな価値を創造し、ステークホルダーの皆さまの期待に応えていきます。

社内公募制度「Kewpie Startup Program」

従業員一人ひとりのアイデアの実現と新たな事業の創出に向け、社内公募制度「Kewpie Startup Program」を設けています。プログラム参加者は、部門の枠を超えたメンターとのネットワークを築くことができ、スキルアップ・キャリアアップへとつながっています。

「Kewpie Startup Program」発のアイデア

酢酸菌酵素を配合したサプリメント「よいとき」

キューピーグループは、マヨネーズの原料としてお酢の研究を重ねてきました。「よいとき」は、世界初、酢酸菌酵素の大量生産技術から生まれた商品です。

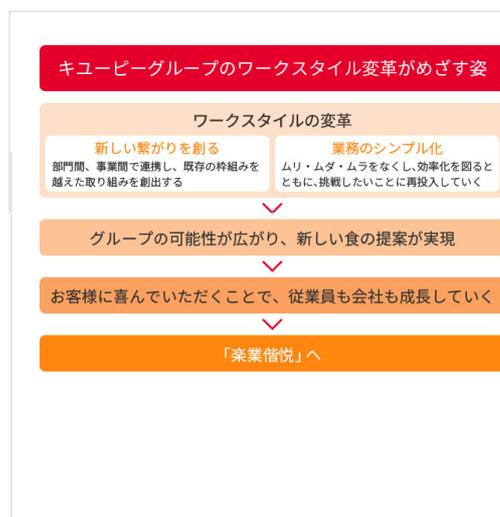


野菜の魅力を体験できる複合型施設

埼玉県深谷市にて、「野菜にときめく、好きになる!」をコンセプトとする複合型施設の事業化を進めています。野菜や卵に関するキューピーグループの知見を活かし、地域と一緒に、野菜を楽しむ、魅力的なコンテンツを提供していきます。

## ワークスタイルの変革

キューピーグループは、「新しいつながりを創る」と「業務のシンプル化」の2つを柱とし、ワークスタイルの変革を進めています。個人の生産性を高めるとともに部署や部門、会社の枠を超えてシナジーを生み出すことで、お客さまやお取引先に新たな食を提案し、個人も会社も成長していくことをめざしています。



## ワークスタイル変革が可能にしたスピーディな商品開発

卵由来の独自素材を配合したキッチン用アルコール除菌スプレー「K Blanche(ケイブランシュ)」を2016年10月に発売しました。「新しいつながりを創る」ワークスタイルにより、多様なメンバーとタイムリーで多彩な会話が実現し、スピーディな商品開発につながりました。

CSR

対話と評価

CSRトップ	>
トップメッセージ	>
ガバナンス	+
CSRの基本的な考え方	>
重点課題	>
CSRトピックス	+
安全・安心への取り組み	+
社会への取り組み	+
環境への取り組み	+
従業員への取り組み	+
対話と評価	-
<ul style="list-style-type: none"> <li>└ ステークホルダーとの対話 &gt;</li> <li>└ 社外からの評価 &gt;</li> </ul>	
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
社会・環境活動(CSR)の歴史	>



**➤ ステークホルダーとの対話**  
 ステークホルダーの皆様への姿勢と主な対話の手段についてご紹介します。



**➤ 社外からの評価**  
 キューピーグループの社外からの評価についてご紹介します。

CSR

ステークホルダーとの対話

CSRトップ	>
トップメッセージ	>
ガバナンス	+
CSRの基本的な考え方	>
重点課題	>
CSRトピックス	+
安全・安心への取り組み	+
社会への取り組み	+
環境への取り組み	+
従業員への取り組み	+
対話と評価	-
<ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーとの対話 &gt;</li> <li>社外からの評価 &gt;</li> </ul>	
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
社会・環境活動(CSR)の歴史	>

	ステークホルダーへの姿勢	主な対話の手段(2018年度実績)
お客様	行動規範のもと、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えしていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様相談室(お客様の声 36,052件/年)</li> <li>コミュニティサイト「キューピーコミュニティおはなしダイニング」(会員数12,113名)</li> <li>コミュニティサイト「キューピーマヨネーズファンクラブ」(会員数71,720名)</li> </ul>
従業員	倫理規範のもと、人権を尊重し差別やハラスメント行為を行わず、また行動規範のもと、従業員一人ひとりの個性や成長する意欲を尊重するダイバーシティを推進していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事考課を含む育成面接</li> <li>キャリア自己申告(1回/年)</li> <li>従業員意識調査(2年に1回)</li> <li>役員による事業所訪問(1回/年)</li> <li>労使委員会</li> </ul>
お取引先	倫理規範のもと、公正・自由な競争を行うとともに、透明で健全な関係を築き、相互の発展につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業活動を通じたお取引先とのコミュニケーション</li> <li>原材料調達先への定期・不定期訪問および現場交流会(200回超/年)</li> <li>生産農家・団体との取り組み</li> </ul>
株主・投資家	倫理規範のもと、透明で健全な関係を築いていくとともに、当社グループをより理解していただけるよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時株主総会(1回/年)(事前にご意見をいただける工夫)</li> <li>アナリスト向け決算説明会(2回/年)</li> <li>株主優待見学会(2回/年、3事業所)</li> </ul>
地域社会	行動規範のもと、食育を中心とした社会貢献活動を積極的に行うことで、社会・地域とのより良い共生を図っていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンキッチン(工場見学)とマヨネーズの見学(99,417名/年)</li> <li>マヨネーズ教室(食育活動)(14,203名/年)</li> <li>食をテーマにした講演会(154回/年)</li> <li>介護に関するイベント(200回/年)</li> <li>各エリアにおける地域とのコミュニケーション</li> </ul>

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 -
  - ステークホルダーとの対話 >
  - 社外からの評価 >**
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 社外からの評価

### 認定

#### 健康経営優良法人

キューピーは、2019年2月21日に経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として健康経営優良法人2019(ホワイト500)の認定を受けました。この制度は2017年にスタートし、キューピーが認定を受けるのは昨年に続き、2回目となります。

> 「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」の認定を受けました



#### プラチナくるみん<sup>※</sup>認定

キューピーは「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を通算7回受けています。2018年5月にプラチナくるみん<sup>※</sup>の認定を受けました。

※ プラチナくるみんとは  
 2015年4月1日より、くるみん認定を既に受け、相当程度両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取り組みを行っている企業を評価しつつ、継続的な取り組みを促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。



#### 「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得

キューピーは、「健康な食事・食環境」コンソーシアムが進める第1回「健康な食事・食環境」認証制度の給食部門に応募し、グループオフィス「仙川キューポート」内の社員食堂での取り組みが、最高ランクの「3つ星」認証を受けました。

> 「仙川キューポート」の社員食堂が第1回「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得しました

## ESG・SRIインデックスへの選定

---

### MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

---

MSCIはESGリサーチの最大手です。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中からESG格付けが相対的に高い銘柄を選別して構成する指数です。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用対象として採用され、キューピーは2017年の初回より継続して構成銘柄に選定されています。



### MSCI日本株女性活躍指数(愛称はWIN)※

---

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき、多面的に性別多様性スコアを算出し、各業種から性別多様性スコアの高い企業を選別しています。年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)の運用対象として採用され、キューピーは2017年の初回より継続して構成銘柄に選定されています。



※ THE INCLUSION OF Kewpie Corporation. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Kewpie Corporation. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES

### SNAMサステナビリティ・インデックス

---

SNAM(損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社)が、調査会社によるESG評価を重視して独自に投資対象銘柄を選定するインデックスです。2012年8月から運用が開始された「SNAMサステナブル運用」は、当インデックスに基づいて保有ウエイトが決定されています。キューピーは2019年度の投資対象銘柄に選定されました。



## 表彰

---

### 第6回「食品産業もったいない大賞」をキューピーグループが受賞

---

キューピー株式会社と株式会社グリーンメッセージが取り組んでいる未利用資源(野菜の未利用部)を活用した資源循環の推進活動が、第6回「食品産業もったいない大賞」において、農林水産省食料産業局長賞を受賞しました。

▶ [第6回「食品産業もったいない大賞」をキューピーグループが受賞](#)

### 世界包装機構の「ワールドスター賞」を「キューピー ドレッシング」が受賞

---

「キューピー ドレッシング」の180ml容器が、世界包装機構(WPO:World Packaging Organisation)主催の「ワールドスターコンテスト2019」のフード部門にて、「ワールドスター賞」を受賞しました。

▶ [世界包装機構の「ワールドスター賞」を「キューピー ドレッシング」が受賞](#)

### 平成30年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰を共同受賞

---

キューピーは、ライオン株式会社・日本パレットレンタル株式会社ほか3社(株式会社キューソー流通システム・ライオン流通サービス株式会社・関光汽船株式会社)と共に「平成30年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において、国土交通大臣表彰を受賞しました。

▶ [平成30年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰を共同受賞](#)

### 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰

#### キューピーグループが内閣総理大臣賞を受賞

---

キューピー株式会社と株式会社グリーンメッセージが取り組んでいる未利用資源(野菜の未利用部)を活用した資源循環の推進活動が、「平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」において、内閣総理大臣賞を受賞しました。

▶ [平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰  
キューピーグループが内閣総理大臣賞を受賞](#)

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 開示方針

### 基本的な考え方

キユーピーグループではこれまで、CSRに関するさまざまな取り組みや成果に関する情報を「社会・環境報告書」を通して、ステークホルダーの皆様へ報告してきました。

2019年は、株主・投資家をはじめとしたすべてのステークホルダーの皆様に対して、当社グループの中長期的な価値創造について、より一層の理解を深めていただくことを目的に、ビジネスの全体像、企業価値創造に向けた戦略や計画を総合的にご報告するため、これまで発行してきた「社会・環境報告書」と「インベスターズガイド」を合わせ「キユーピーグループ統合報告書 2019」を作成しました。

統合報告書に掲載されていない取り組みを含めたCSR情報については、ウェブサイトにて網羅的に公開していきます。なお、これらの報告は、GRIサステナビリティ・レポート・スタンダードを参照して作成しています。

また、広く一般のお客様にも親しんでいただけるよう、CSRに関する情報をわかりやすくコンパクトにまとめたコミュニケーションブックを新たに作成しました。

### 報告書の変遷

2001年度～	環境報告書
2005年度	環境・社会報告書
2006年度～	社会・環境報告書
2019年度	ウェブサイト、統合報告書、コミュニケーションブック

### 対象期間・対象組織など

対象期間:2018年度(2017年12月1日から2018年11月30日)

※ 一部対象期間外の活動も含まれます。

対象組織:キユーピー株式会社および連結子会社・持分法適用会社合計61社

報告サイクル:年次報告として毎年更新

公開:2019年6月

### お問い合わせ

当社のCSRに関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

キユーピー株式会社 広報・CSR本部 CSR部  
 東京都渋谷区渋谷1-4-13 Tel:03-3486-3052

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 各種報告書

[報告書ダウンロード](#)

[報告書バックナンバー](#)

### キユーピーグループ統合報告書 2020

株主・投資家をはじめとした全てのステークホルダーの皆様に対して、当社グループの中長期的な価値創造について、より一層の理解を深めていただくことを目的に、ビジネスの全体像、企業価値創造に向けた戦略や計画、具体的な取り組み内容等を総合的にご報告します。

[統合報告書 >](#)



### キユーピーグループ コミュニケーションブック2020

広く一般の皆様に対して、当社グループとして取り組むサステナビリティに向けての重点課題に沿って、私たちの想いや取り組み事例などをわかりやすくご紹介します。

 [キユーピーグループ コミュニケーションブック2020 \(4.2MB\)](#)



CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## 各種報告書

報告書ダウンロード

報告書バックナンバー

2019年度のコミュニケーションブックは以下よりご覧いただけます。

コミュニケーションブック	
2019年	 <a href="#">コミュニケーションブック2019 (6.9MB)</a>

2018年度以前の社会・環境報告書は以下の一覧よりご覧いただけます。

社会・環境報告書		
2018年	 <a href="#">ダイジェスト版(3.80MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(7.12MB)</a>
2017年		 <a href="#">フルレポート(7.61MB)</a>
2016年	 <a href="#">ダイジェスト版(4.84MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(7.31MB)</a>
2015年	 <a href="#">ハイライト(2.52MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(3.73MB)</a>
2014年	 <a href="#">ハイライト(4.25MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(2.88MB)</a>
2013年	 <a href="#">ハイライト(7.60MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(4.14MB)</a>
2012年	 <a href="#">ハイライト(1.06MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(4.75MB)</a>
2011年	 <a href="#">ハイライト(3.31MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(4.20MB)</a>
2010年	 <a href="#">ハイライト(5.82MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(8.44MB)</a>
2009年	 <a href="#">ハイライト(7.87MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(5.71MB)</a>
2008年	 <a href="#">ハイライト(6.73MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(6.14MB)</a>
2007年	 <a href="#">ハイライト(3.83MB)</a>	 <a href="#">フルレポート(3.88MB)</a>
2006年	 <a href="#">冊子版(5.15MB)</a>	 <a href="#">ウェブ版(3.31MB)</a>
2005年	 <a href="#">冊子版(2.30MB)</a>	
2004年	 <a href="#">冊子版(1.19MB)</a>	
2003年	 <a href="#">冊子版(1.19MB)</a>	
2002年	 <a href="#">冊子版(1.19MB)</a>	
2001年	 <a href="#">冊子版(1.19MB)</a>	

CSR

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

## GRIスタンダード対照表

当ウェブサイトは、GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポート・スタンダード 2016」を参照して制作しています。

番号	タイトル	記載ページ	ISO26000 (中核主題)	
共通スタンダード				
102:一般開示事項				
組織のプロフィール				
102-1	組織の名称	> 会社概要	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則及び権利 労働慣行の概要、原則及び考慮点 雇用及び雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出及び技能開発
102-2	活動、ブランド、製品、サービス	> グループの事業		同上
102-3	本社の所在地	> 会社概要		同上
102-4	事業所の所在地	> 事業所・グループ会社		同上
102-5	所有形態および法人格	> グループの事業		同上
102-6	参入市場	 有価証券報告書 > 主要な設備の状況 > 会社概要 > ステークホルダーとの対話		同上
102-7	組織の規模	> 会社概要		同上
102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	> 人材育成への取り組み		同上

102-9	サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 重点課題</li> <li>&gt; 原料・調達の品質</li> <li>&gt; 持続可能な調達のための基本方針</li> <li>&gt; サプライチェーンへの取り組み</li> </ul>		同上
102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	当該期間については該当なし		同上
102-11	予防原則または予防的アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 事業等のリスク</li> <li> 有価証券報告書 &gt; コーポレート・ガバナンスの状況等</li> <li> 統合報告書 &gt; コーポレート・ガバナンスの推進</li> </ul>		同上
102-12	外部イニシアティブ	> 社外からの評価		同上
102-13	団体の会員資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 一般財団法人 食品安全マネジメント協会 </li> <li>&gt; 公益財団法人 キューピーみらいたまご財団 </li> </ul>		同上
<b>戦略</b>				
102-14	上級意思決定者の声明	<ul style="list-style-type: none"> <li> 統合報告書 &gt; トップメッセージ</li> <li>&gt; トップメッセージ</li> </ul>	4.7 6.2	国際行動規範の尊重 組織統治
102-15	重要なインパクト、リスク、機会	> 事業等のリスク		同上
<b>倫理と誠実性</b>				
102-16	価値観、理念、行動基準・規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 理念</li> <li>&gt; キューピーの約束</li> </ul>	4.4 6.6.3	倫理的な行動 汚職防止
102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	 統合報告書 > コーポレート・ガバナンスの推進		同上
<b>ガバナンス</b>				
102-18	ガバナンス構造	> コーポレート・ガバナンス	6.2	組織統治
102-19	権限移譲	 有価証券報告書 > 企業統治の体制		同上
102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	 有価証券報告書 > 企業統治の体制		同上

102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	> CSRの基本的な考え方 > ステークホルダーとの対話 PDF 統合報告書 > 経営アドバイザーリーボード		同上
102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-23	最高ガバナンス機関の議長	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-25	利益相反	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	> CSRの基本的な考え方		同上
102-27	最高ガバナンス機関の集会的知見	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	> 重点課題 > ステークホルダーとの対話 PDF 統合報告書 > 経営アドバイザーリーボード		同上
102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	> CSRの基本的な考え方 PDF 統合報告書 > 価値創造モデル PDF 統合報告書 > ダイバーシティの推進とESGの取り組み		同上
102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	> CSRの基本的な考え方		同上
102-33	重大な懸念事項の伝達	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-35	報酬方針	> コーポレート・ガバナンス		同上
102-36	報酬の決定プロセス	> コーポレート・ガバナンス		同上

102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	<p>第106回定時株主総会招集ご通知 &gt; 取締役および監査役の報酬等の額</p> <p>第4号議案 取締役賞与支給の件</p>		同上
102-38	年間報酬総額の比率			同上
102-39	年間報酬総額比率の増加率			同上
ステークホルダー・エンゲージメント				
102-40	ステークホルダー・グループのリスト	<p>&gt; ステークホルダーとの対話</p> <p>&gt; キュービーみらいたまご財団 &gt; 事業内容</p>	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント
102-41	団体交渉協定	> 人材育成への取り組み	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則及び権利 労働慣行の概要、原則及び考慮点 雇用及び雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出及び技能開発
102-42	ステークホルダーの特定および選定	<p>&gt; ステークホルダーとの対話</p> <p>&gt; キュービーみらいたまご財団 &gt; 助成募集について</p>	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント
102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	<p>&gt; ステークホルダーとの対話</p> <p>&gt; キュービーみらいたまご財団 &gt; 助成募集について</p>	5.3 4.6 6.7.6	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント 法の支配の尊重 課題4:消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決
102-44	提起された重要な項目および懸念	> ステークホルダーとの対話	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント

報告実務				
102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	 有価証券報告書 > 関係会社の状況	5.2	社会的責任の認識
102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	> 重点課題		同上
102-47	マテリアルな項目のリスト	> 重点課題		同上
102-48	情報の再記述	当該期間については該当なし		同上
102-49	報告における変更	当該期間については該当なし		同上
102-50	報告期間	> 開示方針		
102-51	前回発行した報告書の日付	2019年7月3日		
102-52	報告サイクル	年1回発行		
102-53	報告書に関する質問の窓口	> 開示方針		
102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	> 当ウェブサイトはGRIスタンダードを参照して制作しています。		
102-55	内容索引	> GRIスタンダード対照表		
102-56	外部保証			
103: マネジメント手法				
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	> CSRの基本的な考え方 > 重点課題 > 事業等のリスク	5.2	社会的責任の認識
103-2	マネジメント手法とその要素	> CSRの基本的な考え方 > 重点課題 > CSRトピックス > 社会への取り組み > 環境への取り組み > 従業員への取り組み		
103-3	マネジメント手法の評価方法	 統合報告書 > 価値創造モデル  統合報告書 > ダイバーシティの推進とESGの取り組み		

項目別のスタンダード				
経済				
201:経済パフォーマンス				
201 -1	創出、分配した直接的経済価値	 有価証券報告書 > 企業情報	6.8.1 -6.8.2 6.8.3 6.8.7 6.8.9	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点 課題1:コミュニティへの参画 課題5:富及び所得の創出 課題7:社会的投資
201 -2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	> 事業等のリスク	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
201 -3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	 有価証券報告書 > 退職給付関係	6.8.7	課題5:富及び所得の創出
201 -4	政府から受けた資金援助			
202:地域経済での存在感				
202 -1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	当該期間については該当なし	6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4 6.8.1 -6.8.2	課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係 課題2:労働条件及び社会的保護 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点
202 -2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	> ダイバーシティへの取り組み	6.4.3 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7	課題1:雇用及び雇用関係 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点 課題3:雇用創出及び技能開発 課題5:富及び所得の創出

203:間接的な経済的インパクト				
203 -1	インフラ投資および支援サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 社会への取り組み</li> <li>&gt; 健康への取り組み</li> <li>&gt; 海外商品への取り組み</li> <li>&gt; キューピーみらいたまご財団 &gt; 事業内容 </li> </ul>	6.5.9 6.8.1 -6.8.2 6.8.7 6.8.9	<p>課題7:経済的、社会的及び文化的権利</p> <p>コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点</p> <p>課題5:富及び所得の創出</p> <p>課題7:社会的投資</p>
203 -2	著しい間接的な経済的インパクト	当該期間については該当なし	6.3.9 6.6.6 6.6.7 6.7.8 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7 6.8.9	<p>課題7:経済的、社会的及び文化的権利</p> <p>課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進</p> <p>課題5:財産権の尊重</p> <p>課題6:必要不可欠なサービスへのアクセス</p> <p>コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点</p> <p>課題3:雇用創出及び技能開発</p> <p>課題5:富及び所得の創出</p> <p>課題7:社会的投資</p>
204:調達慣行				
204 -1	地元サプライヤーへの支出の割合		6.4.3 6.6.6 6.8.1 -6.8.2 6.8.7	<p>課題1:雇用及び雇用関係</p> <p>課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進</p> <p>コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点</p> <p>課題5:富及び所得の創出</p>
205:腐敗防止				
205 -1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	 第106回定時株主総会招集ご通知 > 内部統制システムの運用状況	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	<p>公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点</p> <p>課題1:汚職防止</p>

205 -2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 倫理規範</li> <li>&gt; 反贈賄基本方針制定について</li> </ul>	6.6.1 -6.6.2 6.6.3 6.6.6	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
205 -3	確定した腐敗事例と実施した措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止
<b>206:反競争的行為</b>				
206 -1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.5 6.6.7	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題3:公正な競争 課題5:財産権の尊重
<b>環境</b>				
<b>301:原材料</b>				
301 -1	使用原材料の重量または体積	> 環境マネジメント	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301 -2	使用したリサイクル材料		6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301 -3	再生利用された製品と梱包材	> 資源の有効活用	6.5.3 6.5.4 6.7.5	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用 課題3:持続可能な消費
<b>302:エネルギー</b>				
302 -1	組織内のエネルギー消費量	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 環境マネジメント</li> <li>&gt; 地球温暖化の防止</li> </ul>	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302 -2	組織外のエネルギー消費量	> 地球温暖化の防止	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302 -3	エネルギー原単位	> 生産における取り組み	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302 -4	エネルギー消費量の削減	> 地球温暖化の防止	6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応

302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減		6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
303:水				
303-1	水源別の取水量	> 環境マネジメント > 資源の有効活用	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
303-2	取水によって著しい影響を受ける水源		6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
303-3	リサイクル・リユースした水	> 資源の有効活用	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
304:生物多様性				
304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	> 自然環境の保全	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	当該期間については該当なし	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
304-3	生息地の保護・復元	> 自然環境の保全	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	当該期間については該当なし	6.5.6	課題4:自然環境の保護及び回復
305:大気への排出				
305-1	直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	> 地球温暖化の防止	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-2	間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	> 地球温暖化の防止	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-3	その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ3)	> 地球温暖化の防止	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305-4	温室効果ガス(GHG)排出原単位	> 生産における取り組み > 物流における取り組み	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応

305 -5	温室効果ガス(GHG)排出量の削減	> 地球温暖化の防止	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305 -6	オゾン層破壊物質(ODS)の排出量		6.5.3 6.5.5	課題1:汚染の予防 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
305 -7	窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、およびその他の重大な大気排出物	> 環境マネジメント	6.5.3	課題1:汚染の予防
306:排水および廃棄物				
306 -1	排水の水質および排出先	> 環境マネジメント	6.5.3 6.5.4	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用
306 -2	種類別および処分方法別の廃棄物	> 資源の有効活用	6.5.3	課題1:汚染の予防
306 -3	重大な漏出	当該期間については該当なし	6.5.3	課題1:汚染の予防
306 -4	有害廃棄物の輸送	当該期間については該当なし	6.5.3	課題1:汚染の予防
306 -5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	> 環境マネジメント	6.5.3 6.5.4 6.5.6	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用 課題4:自然環境の保護及び回復
307:環境コンプライアンス				
307 -1	環境法規制の違反	当該期間については該当なし > 環境マネジメント	4.6	法の支配の尊重
308:サプライヤーの環境面のアセスメント				
308 -1	環境基準により選定した新規サプライヤー	> サプライチェーンへの取り組み > 持続可能な調達のための基本方針	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
308 -2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	> 重点課題 > 環境マネジメント > サプライチェーンへの取り組み > 事業等のリスク	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進

社会				
401:雇用				
401 -1	従業員の新規雇用と離職	> 人材育成への取り組み	6.4.3	課題1:雇用及び雇用関係
401 -2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	> 人材育成への取り組み > 働き方改革・ワークライフバランスへの取り組み	6.4.4 6.8.7	課題2:労働条件及び社会的保護 課題5:富及び所得の創出
401 -3	育児休暇	> 人材育成への取り組み	6.4.4	課題2:労働条件及び社会的保護
402:労使関係				
402 -1	事業上の変更に関する最低通知期間		6.4.3 6.4.5	課題1:雇用及び雇用関係 課題3:社会対話
403:労働安全衛生				
403 -1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加		6.4.6	課題4:労働における安全衛生
403 -2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	> 健康経営・労働安全衛生への取り組み	6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403 -3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者		6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403 -4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項		6.4.6	課題4:労働における安全衛生
404:研修と教育				
404 -1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	> 人材育成への取り組み	6.4.7	課題5:職場における人材育成及び訓練
404 -2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	> 人材育成への取り組み	6.4.7 6.8.5	課題5:職場における人材育成及び訓練 課題3:雇用創出及び技能開発
404 -3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	> 人材育成への取り組み	6.4.7	課題5:職場における人材育成及び訓練

405:ダイバーシティと機会均等				
405 -1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	> 人材育成への取り組み	6.2.3 6.3.7 6.3.10 6.4.3	意思決定のプロセス及び構造 課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係
405 -2	基本給と報酬総額の男女比		6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4	課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係 課題2:労働条件及び社会的保護
406:非差別				
406 -1	差別事例と実施した救済措置	> 倫理規範	6.3.1 6.3.2 6.3.6 6.3.7 6.3.10 6.4.3	人権の概要 原則及び考慮点 課題4:苦情解決 課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係
407:結社の自由と団体交渉				
407 -1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー		6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.8 6.3.10 6.4.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題6:市民的及び政治的権利 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題3:社会対話 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進

408:児童労働				
408 -1	児童労働事例に関して著 しいリスクがある事業所 およびサプライヤー	> 倫理規範 > サプライチェーンへの 取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.7 6.3.10 6.6.6 6.8.4	人権の概要 原則及び考慮 点 課題1:デューデ ィリジェンス 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避 課題5:差別及び 社会的弱者 課題8:労働にお ける基本的原 則及び権利 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進 課題2:教育及び 文化
409:強制労働				
409 -1	強制労働事例に関して著 しいリスクがある事業所 およびサプライヤー	> 倫理規範 > サプライチェーンへの 取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.10 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮 点 課題1:デューデ ィリジェンス 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避 課題8:労働にお ける基本的原 則及び権利 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進
410:保安慣行				
410 -1	人権方針や手順について 研修を受けた保安要員	> 倫理規範	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮 点 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進

411:先住民族の権利				
411 -1	先住民族の権利を侵害した事例	当該期間については該当なし	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.6 6.3.7 6.3.8 6.6.7 6.8.3	人権の概要 原則及び考慮点 課題2:人権に関する危機的状況 課題4:苦情解決 課題5:差別及び社会的弱者 課題6:市民的及び政治的権利 課題5:財産権の尊重 課題1:コミュニティへの参画
412:人権アセスメント				
412 -1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	> 倫理規範	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジエンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避
412 -2	人権方針や手順に関する従業員研修	> 倫理規範	6.3.1 6.3.2 6.3.5	人権の概要 原則及び考慮点 課題3:加担の回避
412 -3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約		6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジエンス 課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
413:地域コミュニティ				
413 -1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	> 食を通じた社会貢献 > 地域貢献 > 自然環境の保全	6.3.9 6.5.1 -6.5.2 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 環境の概要、原則及び考慮点 課題1:汚染の予防 コミュニティ参画及び開発

413 -2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所		6.3.9 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 課題1:汚染の予防 コミュニティ参画及び開発
<b>414:サプライヤーの社会面のアセスメント</b>				
414 -1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; サプライチェーンへの取り組み</li> <li>&gt; 持続可能な調達のための基本方針</li> </ul>	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題1:雇用及び雇用関係 公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点
414 -2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	<ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 重点課題</li> <li>&gt; サプライチェーンへの取り組み</li> <li>&gt; 事業等のリスク</li> </ul>	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題1:雇用及び雇用関係 公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点

415:公共政策				
415 -1	政治献金		6.6.1 -6.6.2 6.6.4	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点  課題2:責任ある政治的関与
416:顧客の安全衛生				
416 -1	製品およびサービスのカテゴリに対する安全衛生インパクトの評価	> 品質への想い	6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題6:健康
416 -2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	当該期間については該当なし > お客様相談室での対応	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題6:健康
417:マーケティングとラベリング				
417 -1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	> 商品の表示への取り組み > ユニバーサルデザインへの取り組み	6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	消費者課題の概要、原則及び考慮点 公正なマーケティング、事業に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題7:教育及び意識向上

417 -2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	当該期間については該当なし > お客様相談室での対応	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題1:公正なマーケティング、事業に則した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題7:教育及び意識向上
417 -3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	当該期間については該当なし > お客様相談室での対応	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題1:公正なマーケティング、事業に則した偏りのない情報、及び公正な契約慣行
418:顧客プライバシー				
418 -1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	当該期間については該当なし	6.7.1 -6.7.2 6.7.7	消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題5:消費者データ保護及びプライバシー
419:社会経済面のコンプライアンス				
419 -1	社会経済分野の法規制違反	当該期間については該当なし	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.6	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題4:消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決

CSR

社会・環境活動(CSR)の歴史

- CSRトップ >
- トップメッセージ >
- ガバナンス +
- CSRの基本的な考え方 >
- 重点課題 >
- CSRトピックス +
- 安全・安心への取り組み +
- 社会への取り組み +
- 環境への取り組み +
- 従業員への取り組み +
- 対話と評価 +
- 開示方針 >
- 各種報告書 >
- GRIスタンダード対照表 >
- 社会・環境活動(CSR)の歴史 >

西暦	環境保全に関する取り組み	食育・社会貢献・文化活動に関する取り組み
1956年	卵殻を天日で干し、土壌改良剤として農家に販売を開始	
1960年		財団法人ベルマーク教育助成財団への協賛開始
1961年		オープンキッチン(工場見学)を開始
1962年		「キューピー3分クッキング」放映開始
1963年	廃棄物削減を合理化の一環として取り組み開始	
1969年	卵殻の破碎・乾燥設備を導入(旧仙川工場)	
1971年	活性汚泥による排水処理設備を導入(1975年に全工場に整備)	
1973年		食と健康の知識の普及をはかる「キューピーニュース」発行
1975年		食生活に関するビデオの配布開始
1978年		日本合唱連盟・朝日新聞社主催の「全日本ママさんコーラス大会」(現「全日本おかあさんコーラス大会」)の協賛開始
1980年		那覇ママさんコーラスまつり(現「全沖縄おかあさんコーラス大会」)の協賛開始
1981年	卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現、商品名「カルホープ」)	
1984年		「食」をテーマとする講演会活動を開始
1991年	環境問題検討委員会を設置(委員長:生産本部長)	
	卵殻膜を加工、化粧品原料として発売	
1992年	容器減量化を推進(ドレッシングびんを丸形・軽量びん化など)	

1993年	安全・環境に関するグループ各社相互点検システムを確立	
1997年	環境担当役員、環境対策室を設置	
	環境委員会(委員長:環境担当役員)を全社組織に改組	
	卵殻膜を素材としたうまみ調味料を発売(商品名「卵醤」) ※現在は販売していません	
1998年	容器包装の環境影響評価基準を制定	
	グリーン購入の基本原則を制定、OA用紙ガイドラインを作成・運用開始	
	環境保全のための基本方針を制定(部門ごとの目標を設定し活動)	
2000年	マヨネーズ容器、段ボール箱の減量化、仕切り板廃止などを実施	
	伊丹工場でISO14001の認証取得	
	NPO法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」への協賛および寄付を開始	
2001年	「環境報告書」の発行開始	
	五霞工場でISO14001の認証取得	
	グループ環境マネジメントマニュアルを制定	
2002年	キューピー全工場の廃棄物焼却炉を廃止	マヨネーズ教室を開始
	五霞工場で廃棄物の再資源化率100%達成	東京水産大学(現 東京海洋大学)大学院に「ヘルスフード科学(中島董一郎記念)寄附講座」を設立
2003年	キューピー全工場廃棄物の再資源化率100%達成	
2004年	鳥栖工場でISO14001の認証取得	キューピーニュースが第4回消費者教育教材資料表彰(主催:財団法人消費者教育支援センター)の優秀賞を受賞
2005年	中河原工場でISO14001の認証取得	CSR担当役員任命、環境対策室を社会・環境推進室に改組
	「環境・社会報告書」の発行を開始(「環境報告書」に社会活動に関する内容を付加)	

2006年	「チーム・マイナス6%」に参加	渋谷音楽祭への協賛開始
	八都府市「容器包装ダイエツト宣言」に参加	
	「社会・環境報告書」の発行を開始(社会性の記述を増やし、冊子版とウェブ版を発行)	
2007年	富士吉田工場でISO14001の認証取得	フードバンク活動への支援開始
	水源涵養を目的として森林保全活動「キューピーの森」を山梨県富士吉田市で開始	「社会と環境について語るブログ」開始
2008年	段ボールの印刷に使用するインクを39色から標準色18色に集約	マッチングギフト制度「QPeace」開始
		「社会と環境について語るブログ」が環境goo大賞(ブログ部門)受賞
2009年	社会・環境推進室と法務・知的財産室を再編し、CSR推進本部を設置、社会・環境推進室を社会・環境推進部に改組	
	営業車にハイブリッドカー「プリウス」を導入	キッサニア甲子園に「マヨネーズ工場」バビリオン出展
2010年		三國清三シェフを講師に迎えた「家族でわくわくクッキング」を開始
2011年		第32回食品産業優良企業等表彰 CSR部門で「農林水産大臣賞」を受賞
		公益財団法人ベルマーク教育助成財団が行う東日本大震災被災地の教育援助活動に対し5年間の寄付を開始
2012年	社会・環境推進部と広報室を再編し、広報・CSR本部を設置	
		幼児向け絵本の製作・発行(年1冊ずつ2016年まで実施)
		アヲハタ ジャム工場内に見学施設「アヲハタ ジャムデッキ」をオープン
2013年	加藤産業様、キューソー流通システム、キューピー連携のグリーン物流の普及拡大により、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞を受賞	お茶の水女子大学に寄附研究部門「食と健康」を設立
	キューソー流通システム松戸営業所・伊丹第三営業所、ケイパックに太陽光発電設備導入	ダンスコンクールの協賛開始
	「キューピーの森」第二期活動開始	「広島県とアヲハタ株式会社との包括的連携に関する協定」を締結

2014年	エコプロダクツ2014年の環境省「Fun to Share」ブース内に卵殻活用事例を展示	仙川キューポート内に見学施設「マヨテラス」をオープン
	キューソー流通システム所沢物流センター、キューピー醸造滋賀工場に太陽光発電設備導入	
	九都県市「容器包装ダイエット宣言」に参加。関東圏スーパー75店舗のキャンペーンで容器軽量化を行った商品を紹介	
	ポテトピール(主にじゃがいもの皮と芽)の飼料化開始(養豚用)	
2015年	社会・環境推進部をCSR部に改組	
	長距離輸送(500km以上)のモーダルシフトの推進開始	
	パッケージサラダ(一部商品)消費期限延長	
	グリーンファクトリーセンター、富士吉田キューピーに太陽光発電設備導入	
2016年	キューピー マヨネーズ(一部容量)とキューピーハーフの賞味期間を延長(食品ロス削減)	渋谷区との「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」を締結
	「キューピーの森」第三期活動開始	
	「エネルギー1/2」をコンセプトとしたキューピー神戸工場の操業開始	
	遠州デリカ <sup>※</sup> 、五霞工場に太陽光発電設備導入  <sup>※</sup> 現サラダクラブ遠州工場	
2017年	株主総会にてCSRの展示を実施	
	CSR委員会を設置 環境委員会を食育・社会貢献を含むCSR全体を推進する組織に改編	
	CSRの重点課題を策定	
	グリーンファクトリーセンターに太陽光発電設備増設	キューピー神戸工場オープンキッチン(工場見学)を開始
	富士吉田キューピー 平成28年度関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰 「事業所 最優秀賞」を受賞	一般財団法人 キューピーみらいたまご財団設立
	工場が発生する野菜残渣で染めたエプロン(FOOD TEXTILE)をマヨネーズ教室で採用	第1回 地域の居場所づくりサミット開催(一般財団法人 キューピーみらいたまご財団)
	野菜残渣のサイレージ化を開始(グリーンメッセージ)	

2018年	キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針の策定	健康経営優良法人2018(ホワイト500)認定
	キューピーで初めて「年月表示」を開始(市販用介護食「やさしい献立」シリーズレトルトパウチ)	プラチナくるみん認定
	キューピードレッシングのガラス瓶容器をプラスチックボトル化(原料調達、容器製造、容器輸送までにおいて、温室効果ガス(GHG)を約20%削減)	広島市と包括連携協定を締結(地産地消費や食育、健康増進の取り組みなどを推進)
	キューピータイランドで太陽光発電施設導入	
	キューピー、ライオン、日本パレットレンタルの異業種3社による共同幹線輸送を開始	

対象:キューピー(株)およびキューピーグループ